LIXIL

レストステージ　取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

注意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●本製品は1800N/㎡仕様です。施工場所の必要強度をご確認の上、施工を行ってください。

ポイント

●部材変形防止のため、製品保管状況を確認してください。
・当製品は、木粉入り高密度樹脂製のため、熱変形することがあります。取扱いには十分注意してください。
・平らな場所に立てかけないように保管してください。
・暖房機や焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
・製品上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
・施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に十分確認をしてください。
●人工木は表面に研磨加工処理を施してありますので、床板の施工方向によっては色調に濃淡が出ます。
●デッキ上にフェンスを設置する場合は、必要に応じて、あらかじめ床板補強材を取付けてください。

<施工の前に つづき>

ポイント

●正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
●施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。
●市販の研磨紙を利用する際は、80番の研磨紙を用いてください。
●給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化のおそれがあります。

<施工上のご注意>

注 意

●束柱の移動範囲は弊社指定範囲にしてください。
●製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
・φ4ネジ：1.5N·m
・φ5ネジ：3.0N·m
・φ6ネジ：5.2N·m
●束石は指定寸法以上のものを使用し、確実に設置してください。強度低下の原因になります。

ポイント

●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
●施工中についた表面すりキズは、引き渡し前に研磨紙で補修してください。表面研磨する場合は、研磨してある方向に沿って行なってください。
●製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
●施工中についた表面の汚れやシミは、引き渡し前に水洗いをしてください。中性洗剤を薄めたものを使用した場合は、よく水洗いをしてください。
●コンクリートまたはモルタルには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固防止剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
●モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。

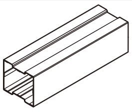
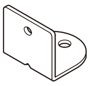
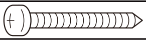
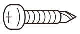
INDEX

1　梱包明細表 …… 4
2　施工時の重要なすき間寸法 …… 7
3　基本寸法と各部名称 …… 8
　1. 各部名称 …… 8
　2. 納まり図 …… 9
　3. 床板縦張り基本寸法 …… 10
　4. 床板横張り基本寸法 …… 14
4　束柱・大引の施工 …… 18
　1. 基礎の施工 …… 18
　2. 束柱・大引の取付け …… 19
　3. 大引への穴加工 …… 22
　4. 大引の取付け …… 24
　5. 筋交いの取付け …… 26
5　床板の取付け …… 28
　1. 側面床板固定金具（床板の取付け始め側）の取付け …… 28
　2. 床板取付上の注意 …… 29
　3. 床板キャップの取付け …… 29
　4. 床板の取付け …… 30
　5. 側面床板固定金具の取付け …… 33
　6. 大引端部キャップの取付け …… 34
　7. 床板のズレ止めネジの取付け …… 34
6　幕板Bの施工 オプション …… 35
　1. 側面床板固定金具（床板の取付け始め側）の取付け …… 35
　2. 側面幕板B取付材の取付け …… 35
　3. 幕板取付金具の取付け …… 36
　4. 幕板Bの加工 …… 38
　5. 幕板Bの穴あけ …… 38
　6. 幕板Bの取付け …… 39
7　隅切り施工 …… 41
　1. 隅切り施工 …… 41
　2. 補助根太の取付け …… 41
　3. 正面幕板B取付材の取付け …… 43
　4. フリーコーナーキャップの取付け …… 43
8　オプション …… 44
　1. 正面幕板B取付材（大引固定用）の取付け オプション …… 44
　2. 床板補強材の取付け オプション …… 46
　3. 躯体付けアングルの取付け オプション …… 47
　4. 躯体側隙間塞ぎ材の取付け オプション …… 48
9　補修 …… 48

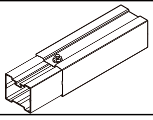
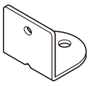
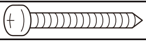
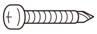
E356_201712C

1　梱包明細表

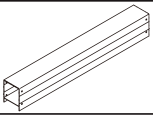
【1】束柱セット（調整なし）

名　称	略　図	員数			
		1本入り	4本入り	6本入り	9本入り
束柱（調整なし）		1	4	6	9
束柱固定金具		1	4	6	9
【1-1】φ5×35セルフタップアンカー		1	4	6	9
【1-2】φ4×13ナベドリルネジ		5	20	30	45

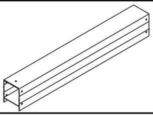
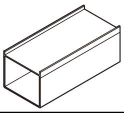
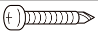
【2】束柱セット（調整あり）

名　称	略　図	員数		
		1本入り	4本入り	6本入り
束柱（調整あり）		1	4	6
束柱固定金具		1	4	6
【2-1】φ5×35セルフタップアンカー		1	4	6
【2-2】φ4×19ナベドリルネジ		9	36	54

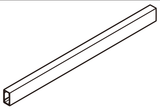
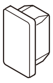
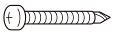
【3】大引セット

名　称	略　図	員数	
		1本入り	2本入り
大引		1	2

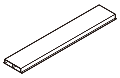
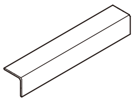
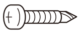
【4】大引セット（連棟用）

名　称	略　図	員数	
		1本入り	2本入り
大引（連棟用）		1	2
大引スリーブ		1	2
【4-1】φ4×19ナベドリルネジ		9	17

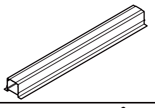
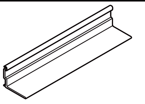
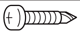
【5】筋交いセット

名　称	略　図	員数	
		2本入り	3本入り
筋交い		2	3
筋交いキャップ		4	6
【5-1】φ4×25ナベドリルネジ		4	6

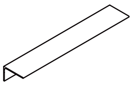
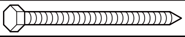
【6】床板補強材セット

名　称	略　図	員数
床板補強材		1
大引アングル		4
【6-1】φ4×13ナベドリルネジ		20

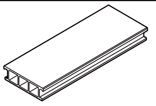
【7】補助根太セット　オプション

名　称	略　図	員　数
補助根太		1
補助根太取付部品		4
【7-1】φ4×13ナベドリルネジ		16

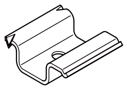
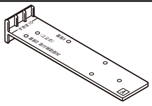
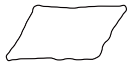
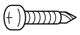
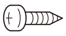
【8】躯体付けアングルセット　オプション

名　称	略　図	員数
躯体付けアングル		1
【8-1】φ6×70六角タッピンネジ1種		6

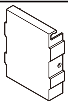
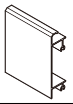
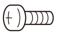
【9】床板セット

名　　称	略　図	員　数		
		1本入り	2本入り	3本入り
床板		1	2	3

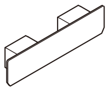
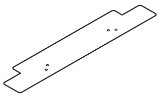
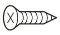
【10】床板取付部品セット

名　　称	略　図	員　数		
		基本	追加40	追加20
横止め金具		60	40	20
穴開け治具		1	—	—
補修用研磨紙		2	—	—
【10-1】φ4×13ナベドリルネジ		66	44	22
【10-2】φ4×12ナベタッピンネジ1種		6	—	—
取付説明書〈E356〉	—	1	—	—
取扱説明書〈UE090〉	—	1	—	—

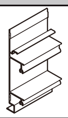
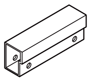
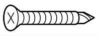
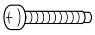
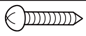
【11】大引端部部品セット

名　　称	略　図	員　数
大引端部キャップ		2
側面床板固定金具		2
【11-1】φ4×13サラドリルネジ		4
【11-2】φ4×20 ナベタッピンネジ2種 G=5		8

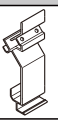
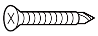
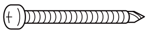
【12】床板キャップセット

名　　称	略　図	員　数	
		2個入	10個入
床板キャップ（W195用）		2	10
床板キャップ穴開け治具		1	1
【12-1】φ4×16 サラタッピンネジ1種		4	22

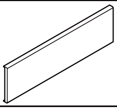
【13】側面幕板B取付材セット　オプション

名　　称	略　図	員　数		
		1個入	3個入	5個入
側面幕板B取付材		1	3	5
幕板B取付補助部材		2	4	6
【13-1】φ4×19サラドリルネジ		6	12	18
【13-2】φ4×20ナベタッピン2種G=5		4	12	20
【13-3】φ4×30トラスタッピンネジ1種		4	8	12

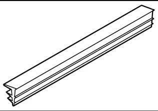
【14】正面幕板B取付材セット（床板固定用）　オプション

名　　称	略　図	員　数		
		1個入	5個入	8個入
正面幕板B取付材（床板固定用）		1	5	8
【14-1】φ4×25サラドリルネジ		4	12	18
【14-2】φ4×30ナベドリルネジ		2	10	16

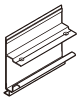
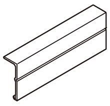
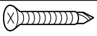
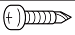
【15】幕板Bセット　オプション

名　称	略　図	員　数	
		1本入り	2本入り
幕板B		1	2

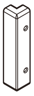
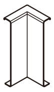
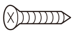
【16】躯体側隙間塞ぎ材　オプション

名　称	略　図	員　数
躯体側隙間塞ぎ材		1

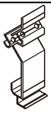
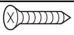
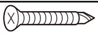
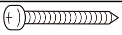
【17】正面幕板B取付材セット（大引固定用）　オプション

名　称	略　図	員　数		
		1個入	5個入	8個入
正面幕板B取付材（大引固定用）		1	5	8
大引取付材		1	5	8
【17-1】φ4×25サラドリルネジ		4	12	18
【17-2】φ4×13ナベドリルネジ		4	20	32

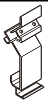
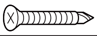
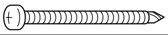
【18】幕板Bコーナーキャップセット　オプション

名　称	略　図	員　数		
		90°	入隅	フリー
幕板B90°コーナーキャップ		1	−	−
幕板B入隅コーナーキャップ		−	1	−
幕板BフリーコーナーキャップA		−	−	1
幕板BフリーコーナーキャップB		−	−	1
【18-1】φ4×14サラタッピンネジ1種		2	2	4

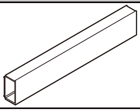
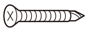
【19】幕板ジョイントカバーセット　オプション

名　称	略　図	員　数
幕板B連結キャップ		1
正面幕板Ｂ取付材		1
【19-1】φ4×14サラタッピンネジ1種		2
【19-2】φ4×25サラドリルネジ		2
【19-3】φ4×30ナベドリルネジ		2

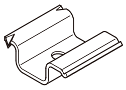
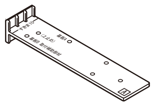
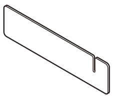
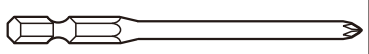
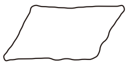
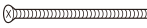
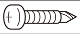
【20】コーナー幕板B取付材セット（角度切り用）　オプション

名　称	略　図	員　数
正面幕板B取付材（角度切り用）		2
【20-1】φ4×25サラドリルネジ		4
【20-2】φ4×30ナベドリルネジ		4

【21】床板縦切り用インナー材セット　オプション

名　称	略　図	員　数
床板縦切り用インナー材		1
【21-1】φ4×16サラドリルネジ		4

【22】床板取付部品セット（補修用）　オプション

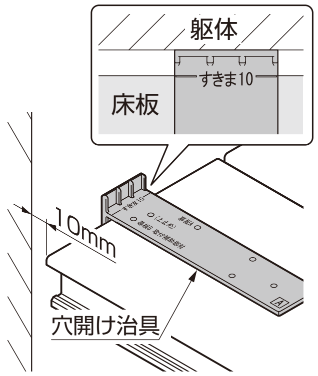
名　称	略　図	員　数	
		横止め補修	上止め補修
横止め金具		10	5
穴開け治具		1	1
横止め金具移動治具		1	1
交換用ビット		1	1
補修用研磨紙		1	1
【22-1】φ4×65サラドリルネジ		−	20
【22-2】φ4×13ナベドリルネジ		12	7
取付説明書〈E343〉	−	1	1

2　施工時の重要なすき間寸法

人工木デッキはすき間が重要です。正しい施工を行わない場合、部材の反りや波打ちの原因となります。

1. 躯体と床板のすき間および床板連結部のすき間

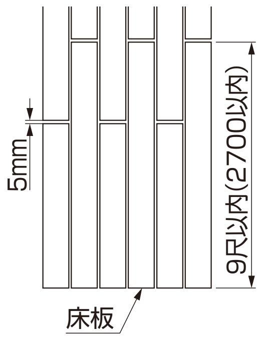
1-1　躯体と床板のすき間



ポイント

●床板と躯体のすき間に穴開け治具を当て、すき間が10mm以上あることを確認してください。

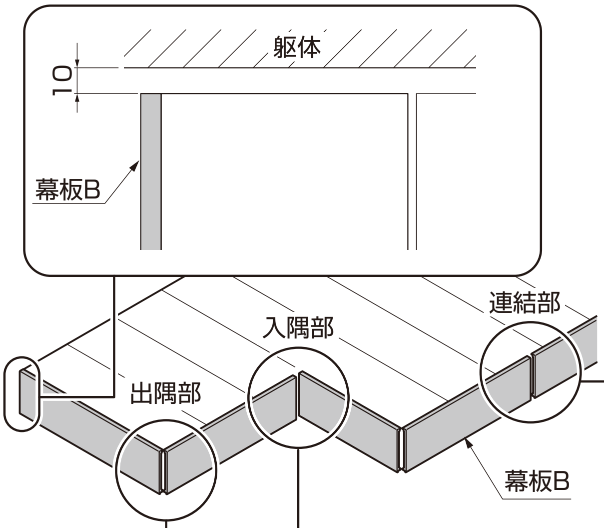
1-2　床板連結部のすき間



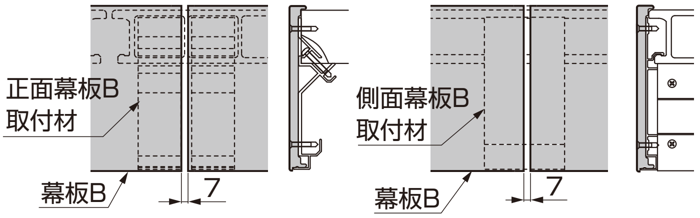
ポイント

●床板を長さ方向に連結する場合は、9尺(L=2700)以内の床板を使用してください。それより長い床板を連結すると、反り・変形の原因になります。
●連結部は5mmの目地を設けてください。
●必ず千鳥張りにしてください。
●連結部の床板小口は1mm程度面取りしてください。

2. 幕板Bのすき間　オプション　※詳細はP.35以降を参照の上、施工をしてください。



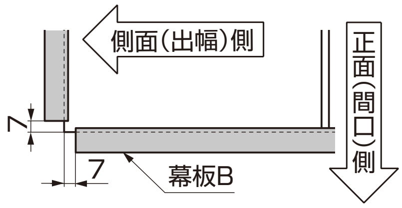
2-3　連結部の場合



ポイント

●幕板Bの連結部は7mmあけてください。
●幕板Bの連結は幕板B取付材のある箇所で行ってください。

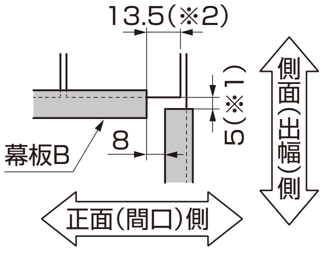
2-1　出隅部の場合



ポイント

●幕板Bは床板から7mmデッキ内側にしてください。

2-2　入隅部の場合



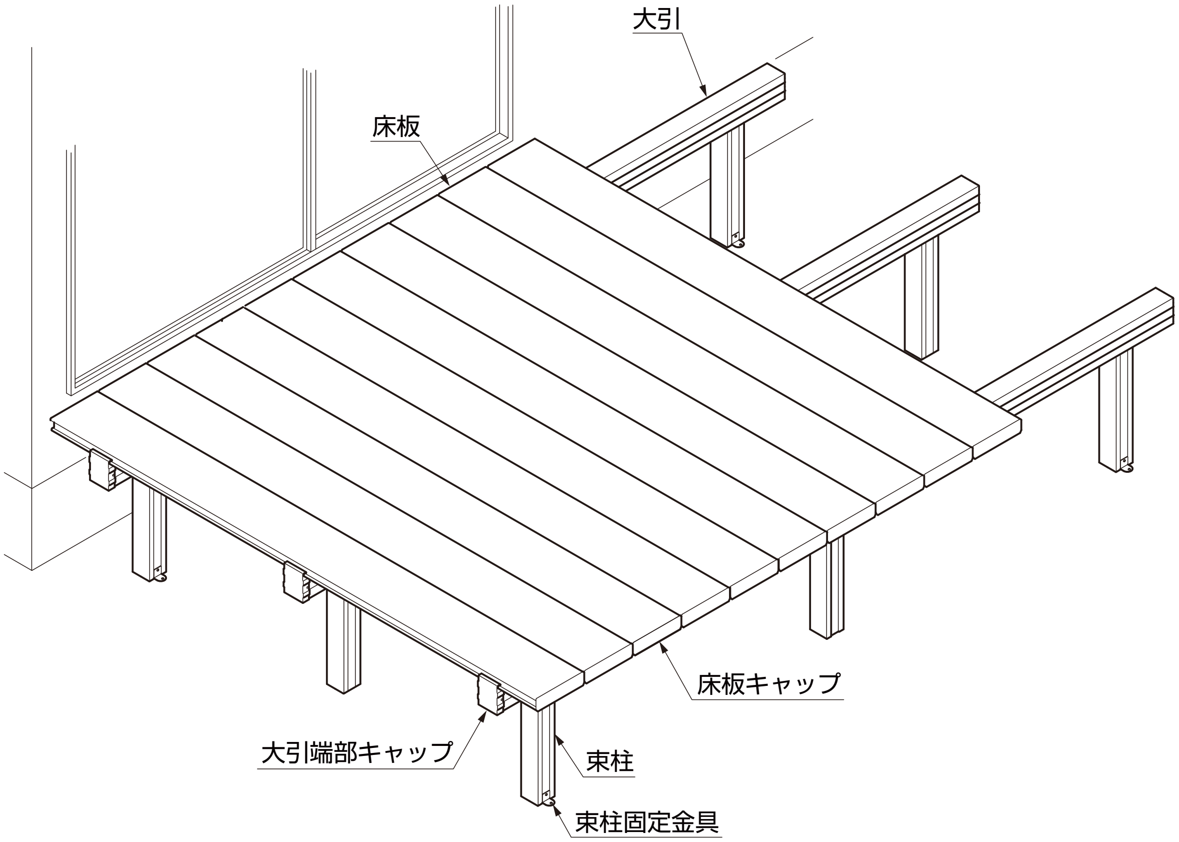
ポイント

●側面側の幕板Bは床板から5mm(※1)あけてください。
●正面側の幕板Bは床板から13.5mm(※2)あけてください。

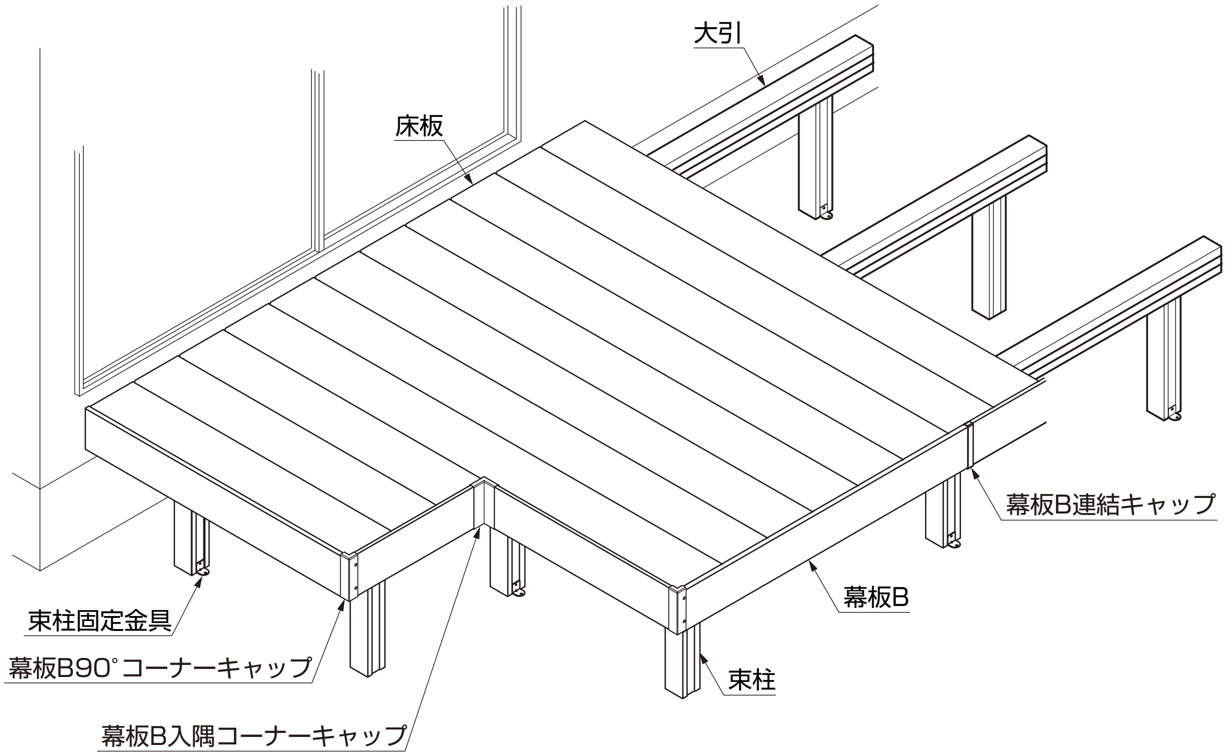
3　基本寸法と各部名称

1. 各部名称

1-1　床板キャップ納まり



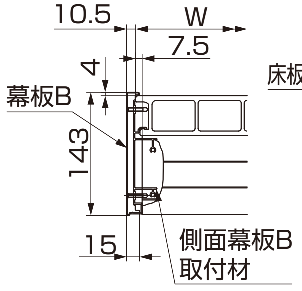
1-2　幕板B納まり オプション



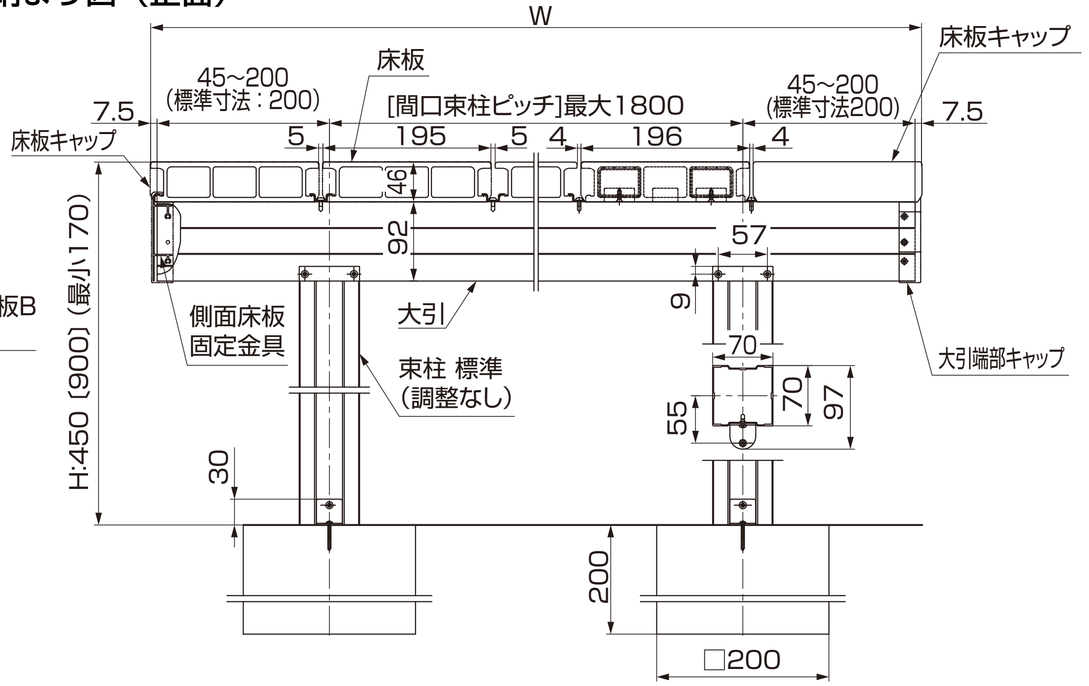
2. 納まり図

※図は縦張りの場合を示します。
※〔 〕寸法はロング束柱の場合

2-1 間口方向納まり図（正面）



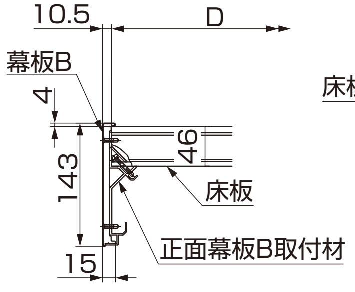
幕板B
オプション



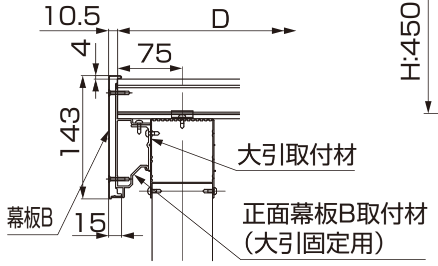
ポイント

●デッキの間口最大寸法は、W＋1mm（21mm）です。（ ）は、幕板B寸法です。
●デッキ最低H寸法は、束柱（調整なし）：170mm、束柱（調整あり）：353mm（ロング803mm）です。

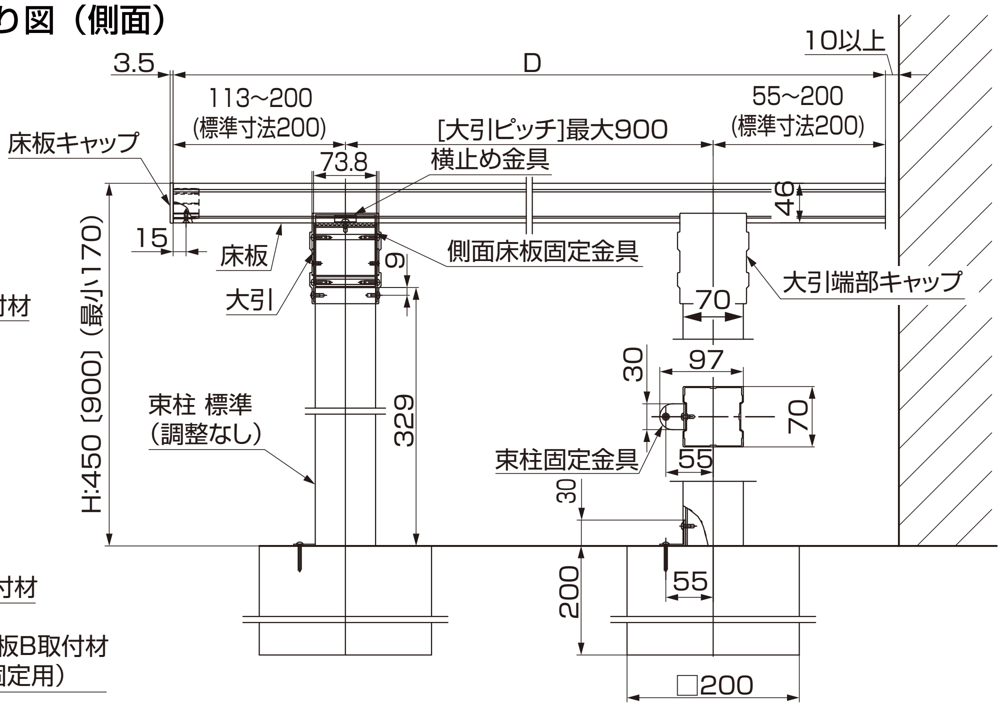
2-2 出幅方向納まり図（側面）



幕板B
オプション



幕板B大引固定
オプション



ポイント

●デッキの出幅最大寸法は、D＋3.5mm（10.5mm）です。（ ）は、幕板B寸法です。
●デッキ最低H寸法は、束柱（調整なし）：170mm、束柱（調整あり）：353mm（ロング803mm）です。

3
基本寸法と各部名称

E356_201712C

3. 床板縦張り基本寸法

3-1 基本寸法

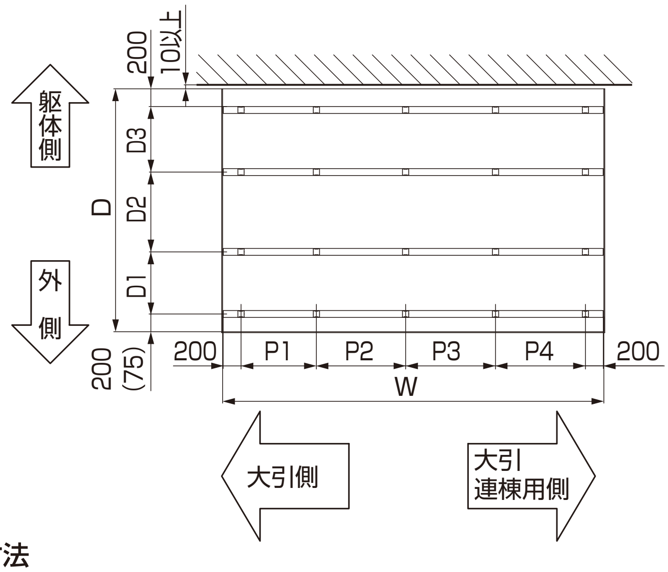


表3-1　間口方向寸法

	床板外々 W	床板キャップ デッキ外々 W+1	幕板B デッキ外々 W+21	ピッチ寸法（大引側）⇔（大引連棟用側） P1	P2	P3	P4	P5	P6	使用大引
1.5間	2595	2596	2616	1090	1090	–	–	–	–	1.5間
2.0間	3595	3596	3616	1590	1590	–	–	–	–	2.0間
2.5間	4395	4396	4416	1330	1330	1320	–	–	–	2.5間
3.0間	5395	5396	5416	1090	1290	1300	1300	–	–	1.5間+1.5間（連棟用）
3.5間	6195	6196	6216	1090	1290	1700	1700	–	–	1.5間+2.0間（連棟用）
4.0間	7195	7196	7216	1590	1790	1700	1700	–	–	2.0間+2.0間（連棟用）
4.5間	7995	7996	8016	1330	1330	1520	1700	1700	–	2.5間+2.0間（連棟用）
5.0間	8795	8796	8816	1330	1330	1520	1400	1400	1400	2.5間+2.5間（連棟用）

大引連結部分

表3-2　出幅方向寸法

	床板出幅 D	床板キャップ デッキ外々 D+3.5	幕板B デッキ外々 D+10.5	ピッチ寸法（外側）⇔（躯体側） D1	D2	D3	D4	D5	使用床板
3尺	900	903.5	910.5	500	–	–	–	–	L=900
4尺	1200	1203.5	1210.5	800	–	–	–	–	L=1200
5尺	1500	1503.5	1510.5	550	550	–	–	–	L=1500
6尺	1800	1803.5	1810.5	700	700	–	–	–	L=1800
7尺	2100	2103.5	2110.5	850	850	–	–	–	L=2100
8尺	2400	2403.5	2410.5	700	600	700	–	–	L=2400
9尺	2700	2703.5	2710.5	700	900	700	–	–	L=2700
10尺	2900	2903.5	2910.5	700	900	900	–	–	L=1800、1200（切断あり）
11尺	3600	3603.5	3610.5	700	900	900	700	–	L=1800
12尺	4500	4503.5	4510.5	700	900	900	900	700	L=1800、2700

ポイント

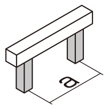
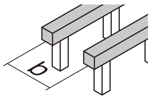
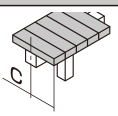
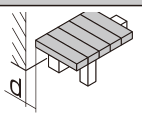
- ●束柱の芯々寸法は、1800mm以内にしてください。
- ●大引の芯々寸法は900mm以内にしてください。
- ●床板の張出し寸法は、大引の芯から200mm以内にしてください。
- ●床板と躯体等は10mm以上すき間をあけてください。
- ●間口3.0間以上で大引の連結が必要になります。
- ●大引の連結部は、必ず束柱を取付けてください。
- ●床板を長さ方向に連結する場合は、2700mm以内の床板を使用してください。
- ●（　）寸法は、幕板を大引固定する場合の寸法です。

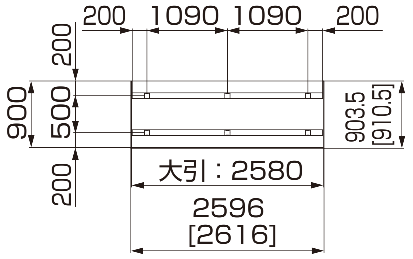
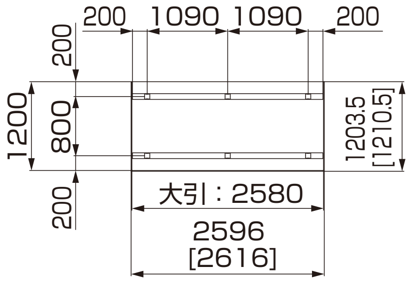
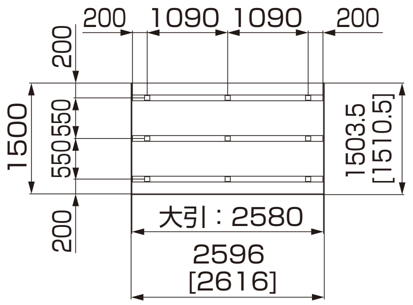
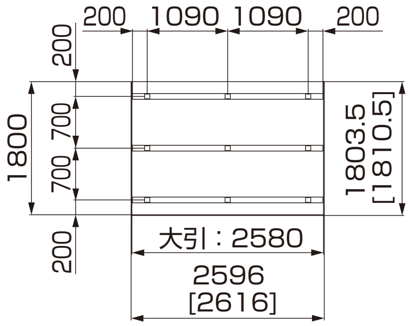
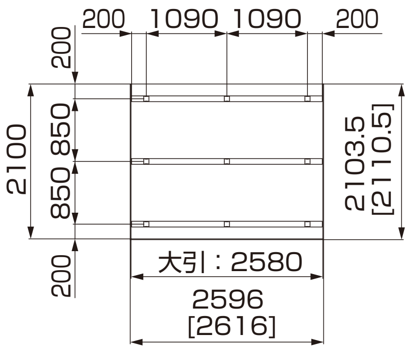
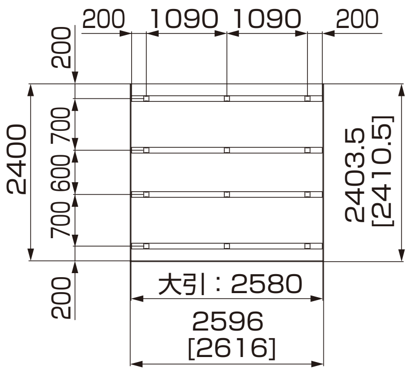
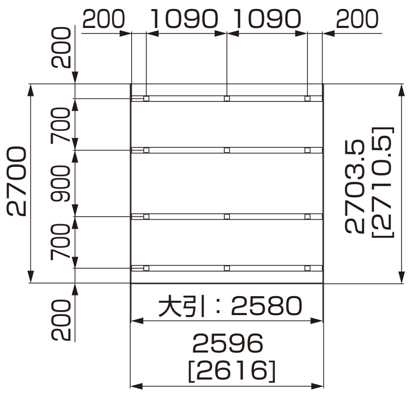
3-2 1.5間

※［　］は幕板B使用時の寸法です。
※代表サイズを記載しています。その他のサイズについては「3-1 基本寸法」を参照してください。

ポイント

●右表の寸法を必ず守ってください。

間口方向 束柱芯々寸法	出幅方向 大引芯々寸法	床板端部 張出し寸法	床板と躯体の すき間
			
1800mm以内	900mm以内	200mm以内	10mm以上

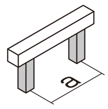
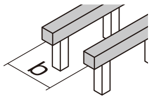
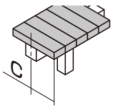
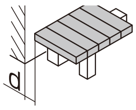
出幅＼間口	1.5間
3尺	
4尺	
5尺	
6尺	
7尺	
8尺	
9尺	

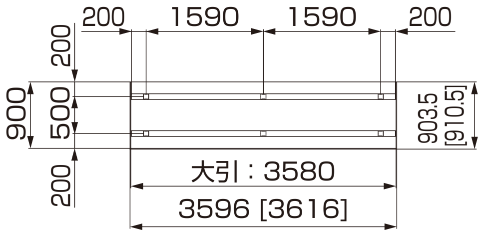
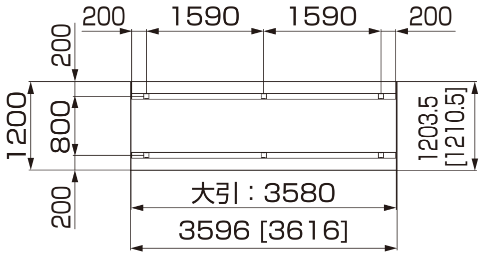
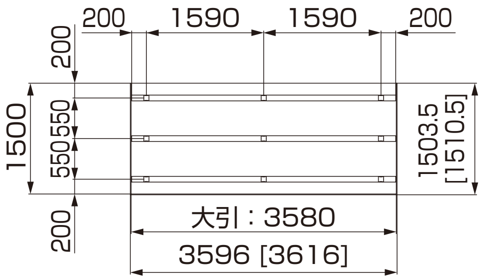
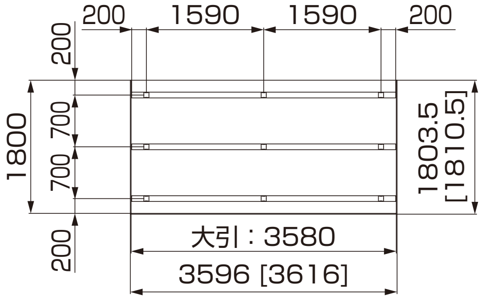
3-3 2.0間

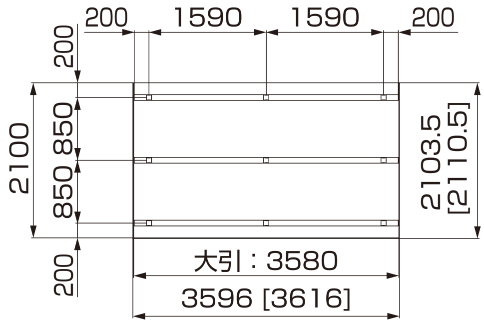
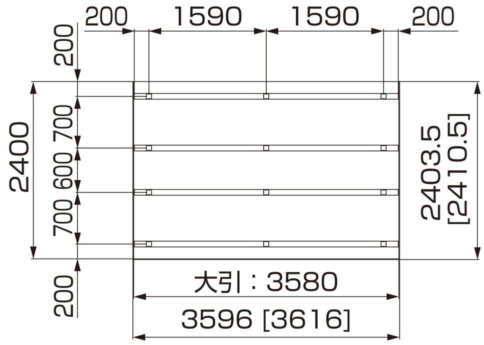
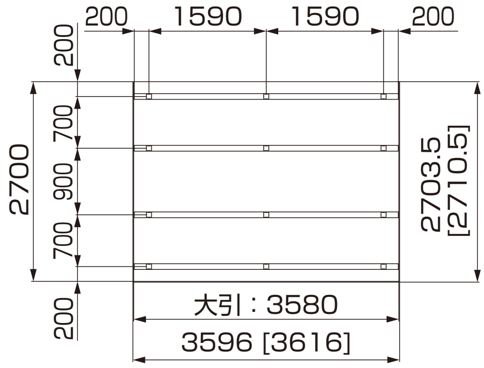
※［　］は幕板B使用時の寸法です。
※代表サイズを記載しています。その他のサイズについては「3-1 基本寸法」を参照してください。

ポイント

●右表の寸法を必ず守ってください。

間口方向 束柱芯々寸法	出幅方向 大引芯々寸法	床板端部 張出し寸法	床板と躯体の すき間
			
1800mm以内	900mm以内	200mm以内	10mm以上

出幅＼間口	2.0間
3尺	
4尺	
5尺	
6尺	

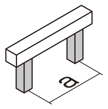
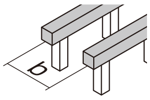
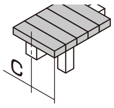
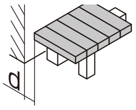
出幅＼間口	2.0間
7尺	
8尺	
9尺	

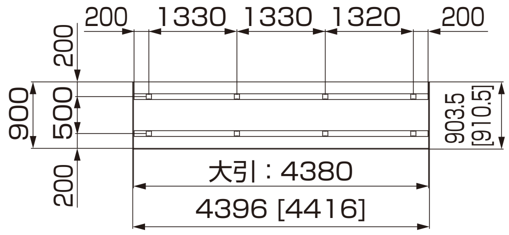
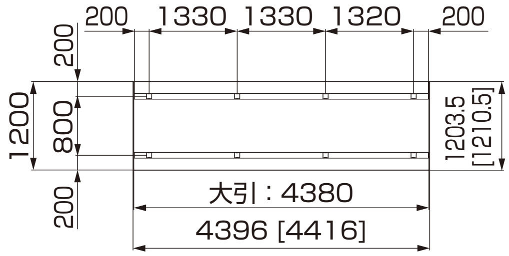
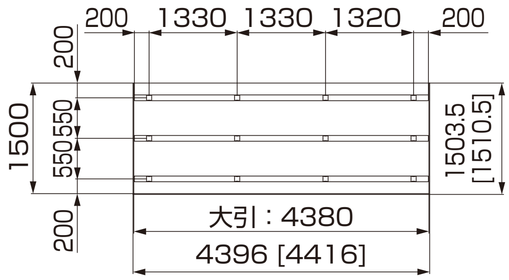
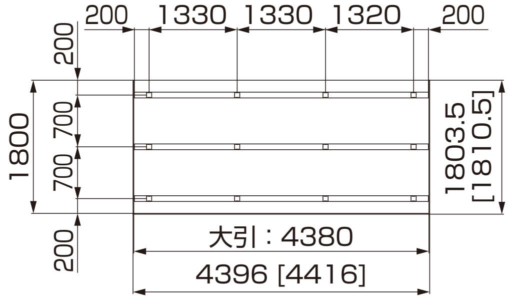
3-4 2.5間

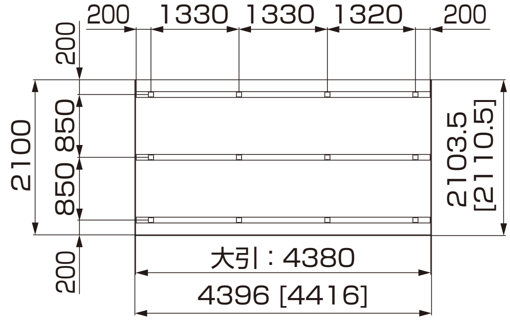
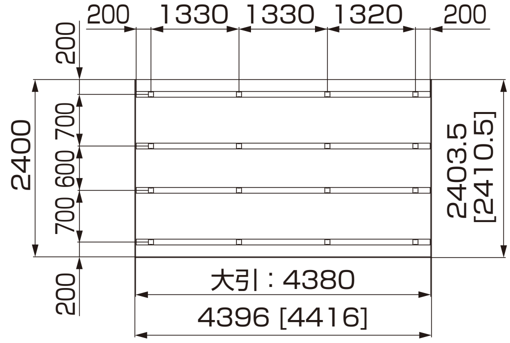
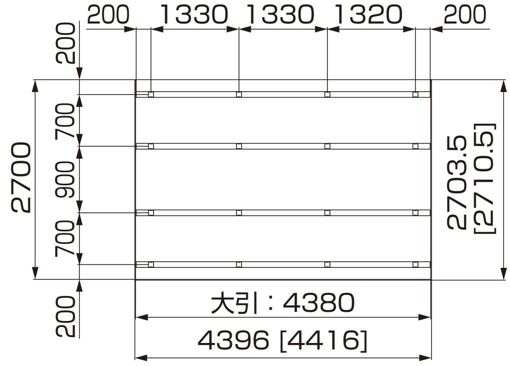
※［ ］は幕板B使用時の寸法です。
※代表サイズを記載しています。その他のサイズについては「3-1 基本寸法」を参照してください。

ポイント

●右表の寸法を必ず守ってください。

間口方向 束柱芯々寸法	出幅方向 大引芯々寸法	床板端部 張出し寸法	床板と躯体の すき間
			
1800mm以内	900mm以内	200mm以内	10mm以上

出幅＼間口	2.5間
3尺	
4尺	
5尺	
6尺	

出幅＼間口	2.5間
7尺	
8尺	
9尺	

4. 床板横張り基本寸法

4-1 基本寸法

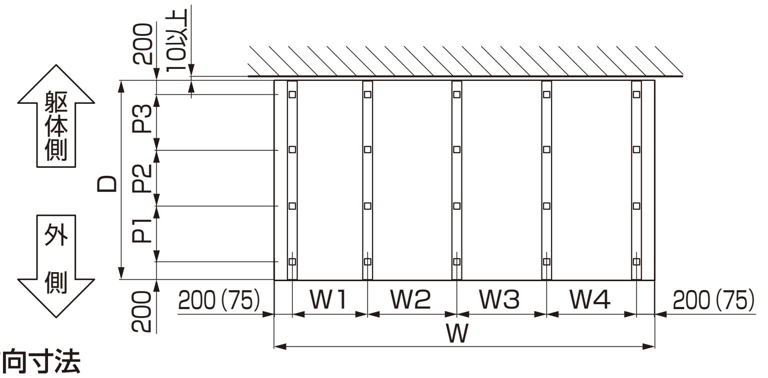


表3-1　間口方向寸法

	床板外々 W	床板キャップ デッキ外々 W+7	幕板B デッキ外々 W+21	ピッチ寸法 （大引側）⇔（大引連棟用側）										使用床板
				W1	W2	W3	W4	W5	W6	W7	W8	W9	W10	
1.5間	2700	2707	2721	700	900	700	−	−	−	−	−	−	−	L=2700
2.0間	3600	3607	3621	700	900	900	700	−	−	−	−	−	−	L=1800（切断あり）
2.5間	4500	4507	4521	700	900	900	900	700	−	−	−	−	−	L=1800、2700
3.0間	5400	5407	5421	700	900	900	900	900	700	−	−	−	−	L=1800、2700
3.5間	6300	6307	6321	700	900	900	900	900	900	700	−	−	−	L=1800、2700
4.0間	7200	7207	7221	700	900	900	900	900	900	900	700	−	−	L=1800、2700
4.5間	8100	8107	8121	700	900	900	900	900	900	900	900	700	−	L=1800、2700
5.0間	9000	9007	9021	700	900	900	900	900	900	900	900	900	700	L=1800、2700

表3-2　出幅方向寸法

	床板出幅 D	床板キャップ デッキ外々 D+1	幕板B デッキ外々 D+10.5	ピッチ寸法 (外側)⇔(躯体側)			間口毎の使用大引							
				P1	P2	P3	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	3.5間	4.0間	4.5間	5.0間
3尺	995	996	1005.5	580	−	−	1.5間×2本	1.5間×1本 +2.0間×1本	2.0間×2本	1.5間×2本 +2.0間×1本	1.5間×1本 +2.0間×2本	2.0間×3本	1.5間×2本 +2.0間×2本	1.5間×1本 +2.0間×3本
4尺	1195	1196	1205.5	780	−	−	1.5間×2本	1.5間×1本 +2.0間×1本	2.0間×2本	1.5間×2本 +2.0間×1本	1.5間×1本 +2.0間×2本	2.0間×3本	1.5間×2本 +2.0間×2本	1.5間×1本 +2.0間×3本
5尺	1595	1596	1605.5	1180	−	−	2.0間×2本	1.5間×1本 +2.0間×2本	2.0間×3本	1.5間×1本 +2.0間×2本	2.0間×4本	1.5間×1本 +2.0間×2本	2.0間×5本	1.5間×1本 +2.0間×2本
6尺	1795	1796	1805.5	1380	−	−	2.0間×2本	1.5間×1本 +2.0間×2本	2.0間×3本	1.5間×1本 +2.0間×3本	2.0間×4本	1.5間×1本 +2.0間×4本	2.0間×5本	1.5間×1本 +2.0間×5本
7尺	1995	1996	2005.5	1580	−	−	2.5間×2本	1.5間×1本 +2.5間×2本	2.5間×3本	1.5間×1本 +2.5間×3本	2.5間×4本	1.5間×1本 +2.5間×4本	2.5間×5本	1.5間×1本 +2.5間×5本
8尺	2395	2396	2405.5	990	990	−	1.5間×4本	1.5間×5本	1.5間×6本	1.5間×7本	1.5間×8本	1.5間×9本	1.5間×10本	1.5間×11本
9尺	2795	2796	2805.5	1190	1190	−	2.0間×4本	2.0間×5本	2.0間×6本	2.0間×7本	2.0間×8本	2.0間×9本	2.0間×10本	2.0間×11本
10尺	2995	2996	3005.5	1290	1290	−	2.0間×4本	2.0間×5本	2.0間×6本	2.0間×7本	2.0間×8本	2.0間×9本	2.0間×10本	2.0間×11本
12尺	3595	3596	3605.5	1590	1590	−	2.0間×4本	2.0間×5本	2.0間×6本	2.0間×7本	2.0間×8本	2.0間×9本	2.0間×10本	2.0間×11本
15尺	4595	4596	4605.5	580	1800	1800	1.5間×4本 +連1.5間×4本	1.5間×5本 +連1.5間×5本	1.5間×6本 +連1.5間×6本	1.5間×7本 +連1.5間×7本	1.5間×8本 +連1.5間×8本	1.5間×9本 +連1.5間×9本	1.5間×10本 +連1.5間×10本	1.5間×11本 +連1.5間×11本

大引連結部分

ポイント

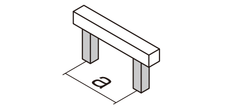
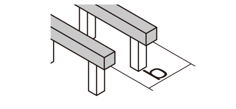
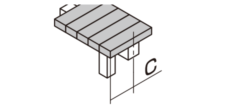
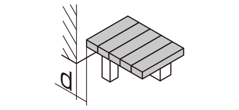
●束柱の芯々寸法は、1800mm以内にしてください。
●大引の芯々寸法は900mm以内にしてください。
●床板の張出し寸法は、大引の芯から200mm以内にしてください。
●床板と躯体等は10mm以上すき間をあけてください。
●出幅15尺以上で大引の連結が必要になります。
●大引の連結部は、必ず束柱を取付けてください。
●床板を長さ方向に連結する場合は、2700mm以内の床板を使用してください。
●（　）寸法は、幕板を大引固定する場合の寸法です。

4-2 6尺

※（ ）は幕板B使用時の寸法です。
※図は、幕板を床板固定する場合の寸法です。幕板大引固定は「4-1 基本寸法」を参照してください。

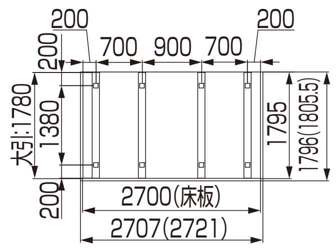
ポイント

●右表の寸法を必ず守ってください。

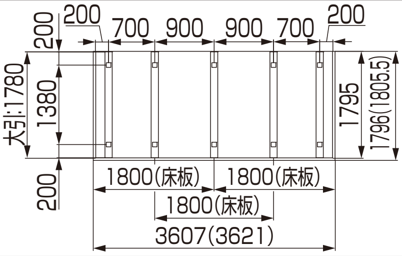
出幅方向 束柱芯々寸法	間口方向 大引芯々寸法	床板端部 張出し寸法	床板と躯体の すき間
			
1800mm以内	900mm以内	200mm以内	10mm以上

出幅：6尺 ／ 間口

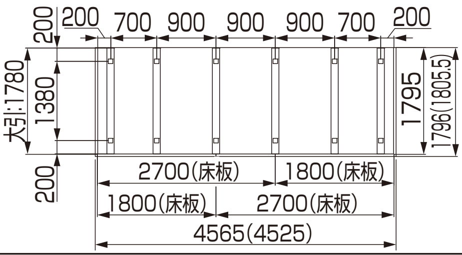
1.5間



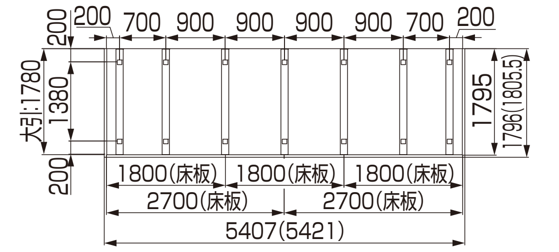
2.0間



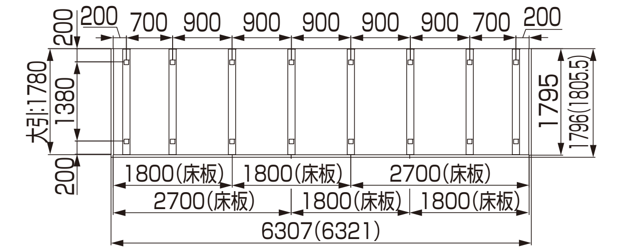
2.5間



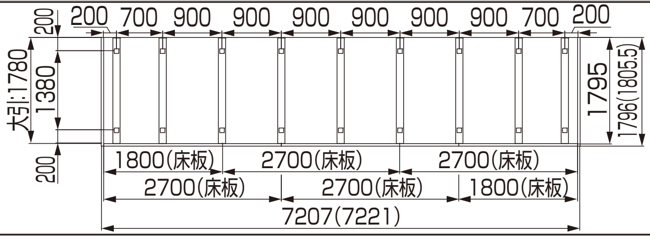
3.0間



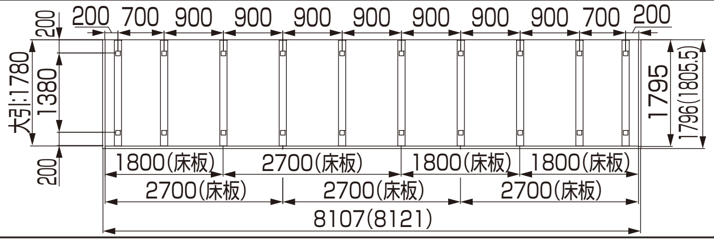
3.5間



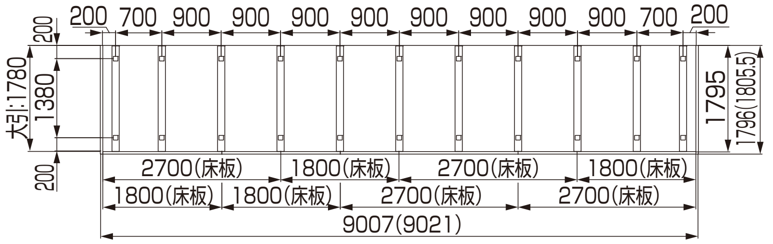
4.0間



4.5間



5.0間

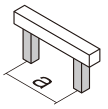
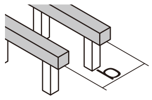
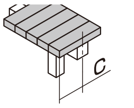
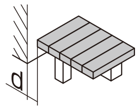


4-3 7尺

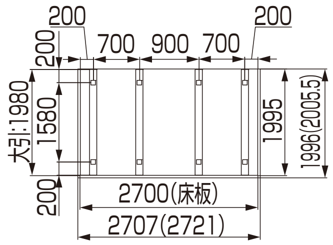
※（　）は幕板B使用時の寸法です。
※図は、幕板を床板固定する場合の寸法です。幕板大引固定は「4-1 基本寸法」を参照してください。

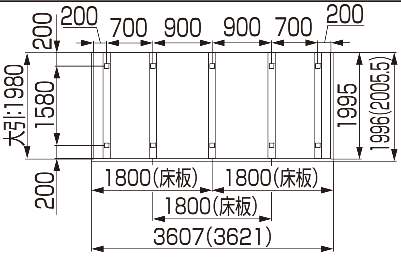
ポイント

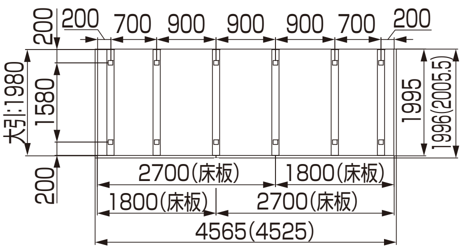
●右表の寸法を必ず守ってください。

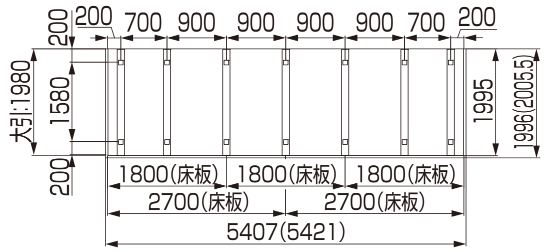
出幅方向 束柱芯々寸法	間口方向 大引芯々寸法	床板端部 張出し寸法	床板と躯体の すき間
			
1800mm以内	900mm以内	200mm以内	10mm以上

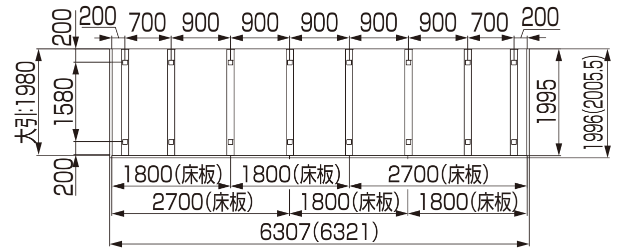
出幅＼間口：7尺

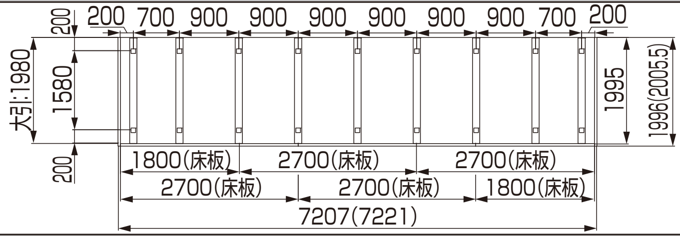
1.5間


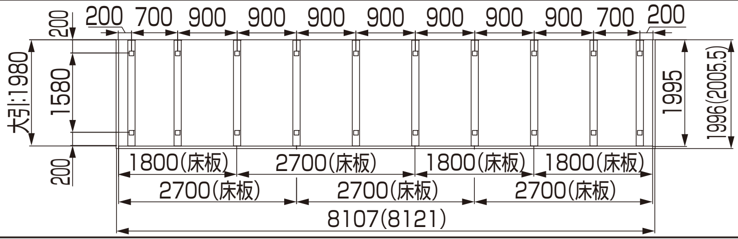
2.0間


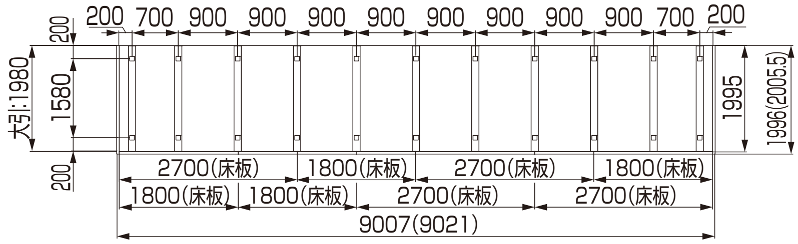
2.5間


3.0間


3.5間


4.0間


4.5間


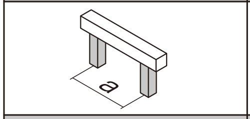
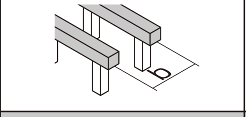
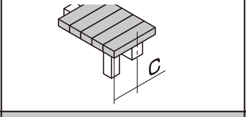
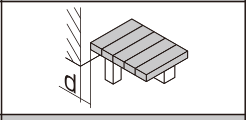
5.0間


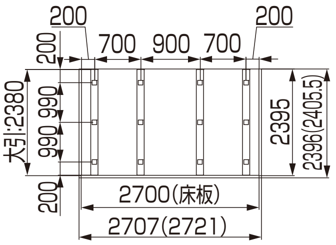
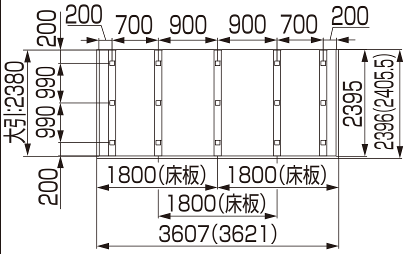
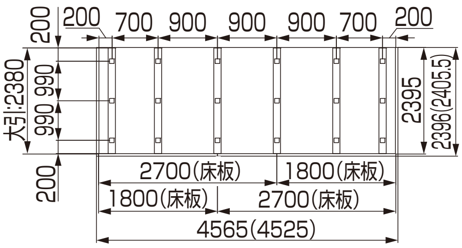
4-4　8尺

※（　）は幕板B使用時の寸法です。
※図は、幕板を床板固定する場合の寸法です。幕板大引固定は「4-1 基本寸法」を参照してください。

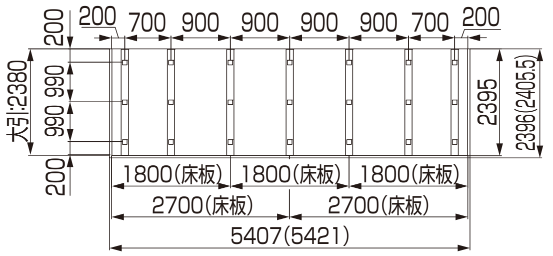
ポイント

●右表の寸法を必ず守ってください。

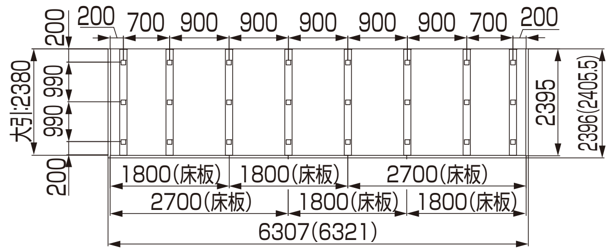
出幅方向 束柱芯々寸法	間口方向 大引芯々寸法	床板端部 張出し寸法	床板と躯体の すき間
			
1800mm以内	900mm以内	200mm以内	10mm以上

出幅＼間口	1.5間	2.0間	2.5間
8尺			

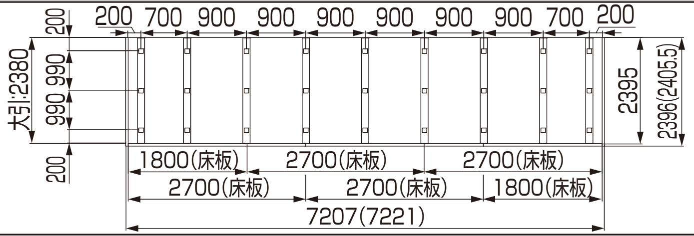
3.0間



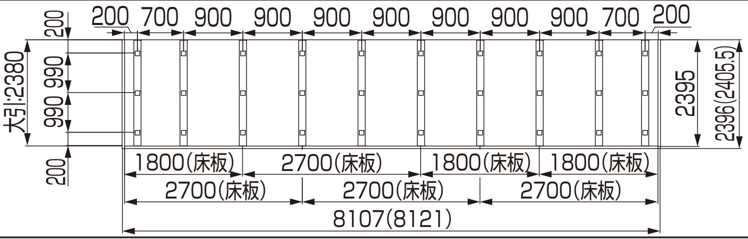
3.5間



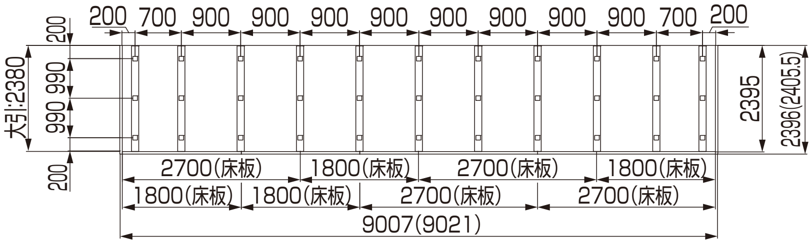
4.0間



4.5間



5.0間

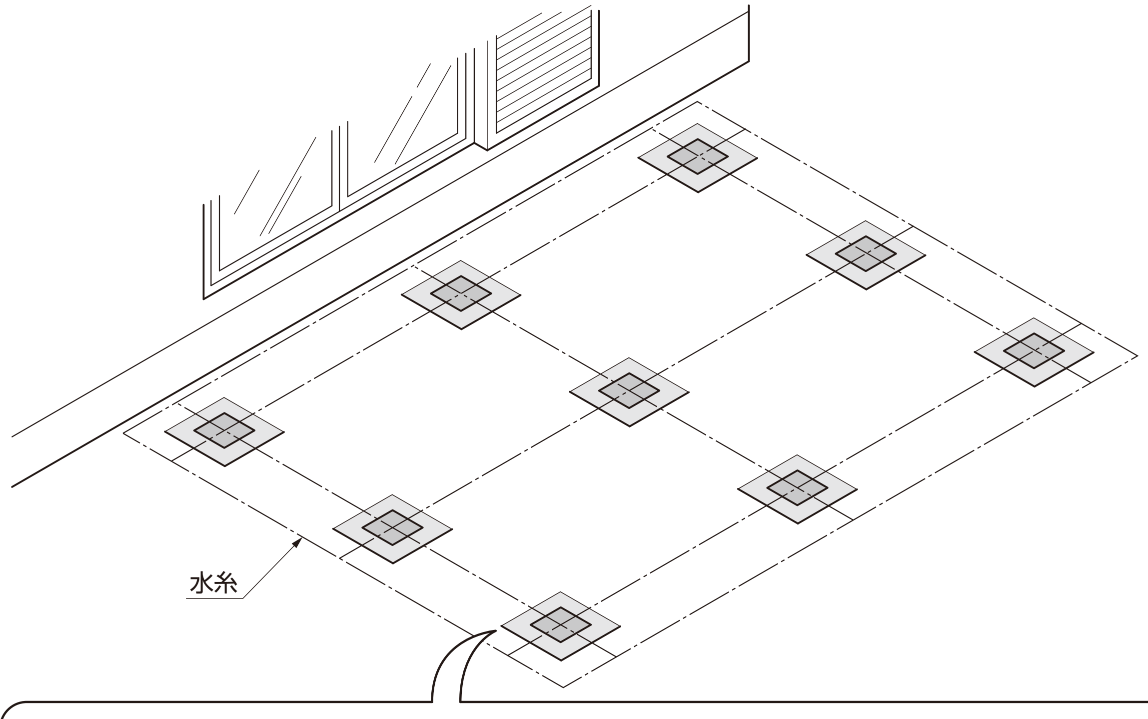


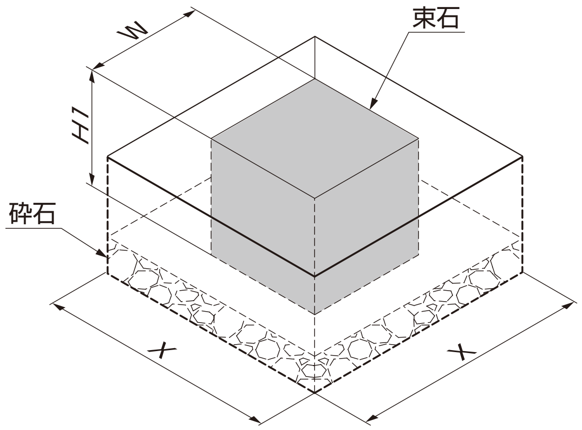
4　束柱・大引の施工

ポイント

●床板はフラット施工が標準施工です。現場の施工誤差により、床板上に水溜りができる場合があります。お客様のご要望により、水が溜まることがご納得いただけない場合は、ご使用に問題がない範囲で勾配をつけていただいても構いません。

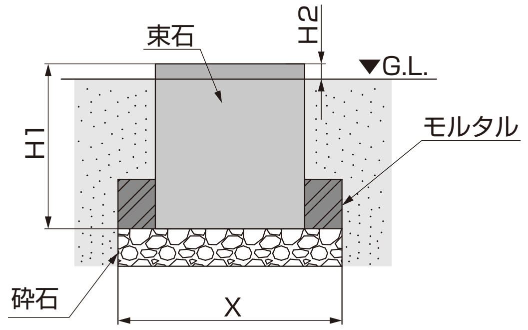
1. 基礎の施工





●束石寸法表

束石サイズ	W	H1	H2	X
□200×H200	200	200	50mm以下	300
□200×H180	200	180	50mm以下	300
□190×H190	190	190	50mm以下	290
□300×H100	300	100	全埋込み	400



①「3 基本寸法と各部名称 3.床板縦張り基本寸法および4.床板横張り基本寸法」を参照して、前面・両側面の水糸に寸法出しをし、基礎位置を決定してください。
②砕石を敷き、十分に突き固めてください。
③束石を設置し、束石の周りをモルタルで固めてください。

ポイント

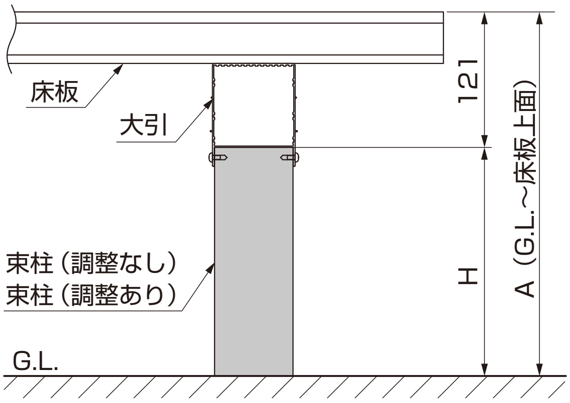
●束石は必ず指定サイズのものを使用してください。
●指示通りの施工を行なわないと基礎の浮き沈みや、床板の反りの原因になる場合があります。

E356_202002D

2. 束柱・大引の取付け

2-1　束柱の加工

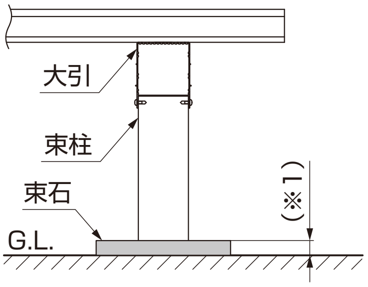
（1）切断



①A寸法を決定してください。

②左図を参照して、束柱を切断してください。

ポイント



●束石をG.L.より出す場合は、束石の高さを考慮して切断してください。（※1）

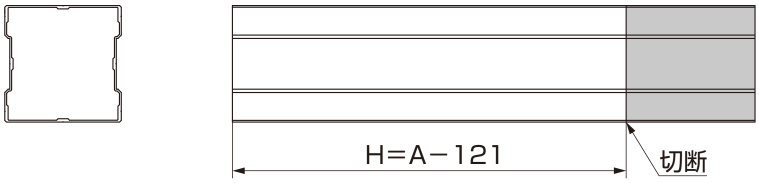


図2-1　束柱（調整なし）

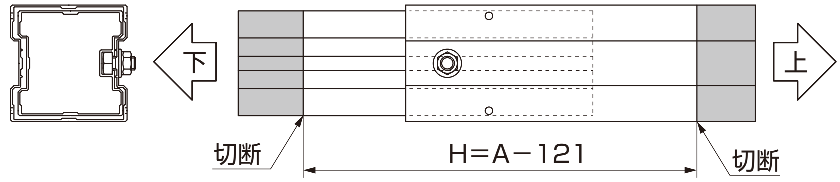
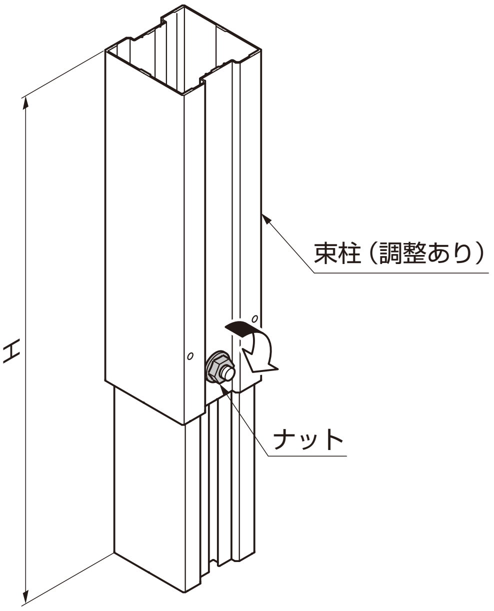


図2-2　束柱（調整あり）

補 足

● 束柱（調整あり）の調整寸法は97mmです。
●束柱（調整あり）の切断は、上側と下側を同寸法で行ってください。
●Aは最大450mm(ロング900mm)、最小170mmです。

（2）仮締め　※束柱（調整あり）の場合の作業です。



①束柱（調整あり）のナットを、H寸法で仮締めしてください。

4 束柱・大引の施工

2.（つづき）

2-2　束柱の取付け

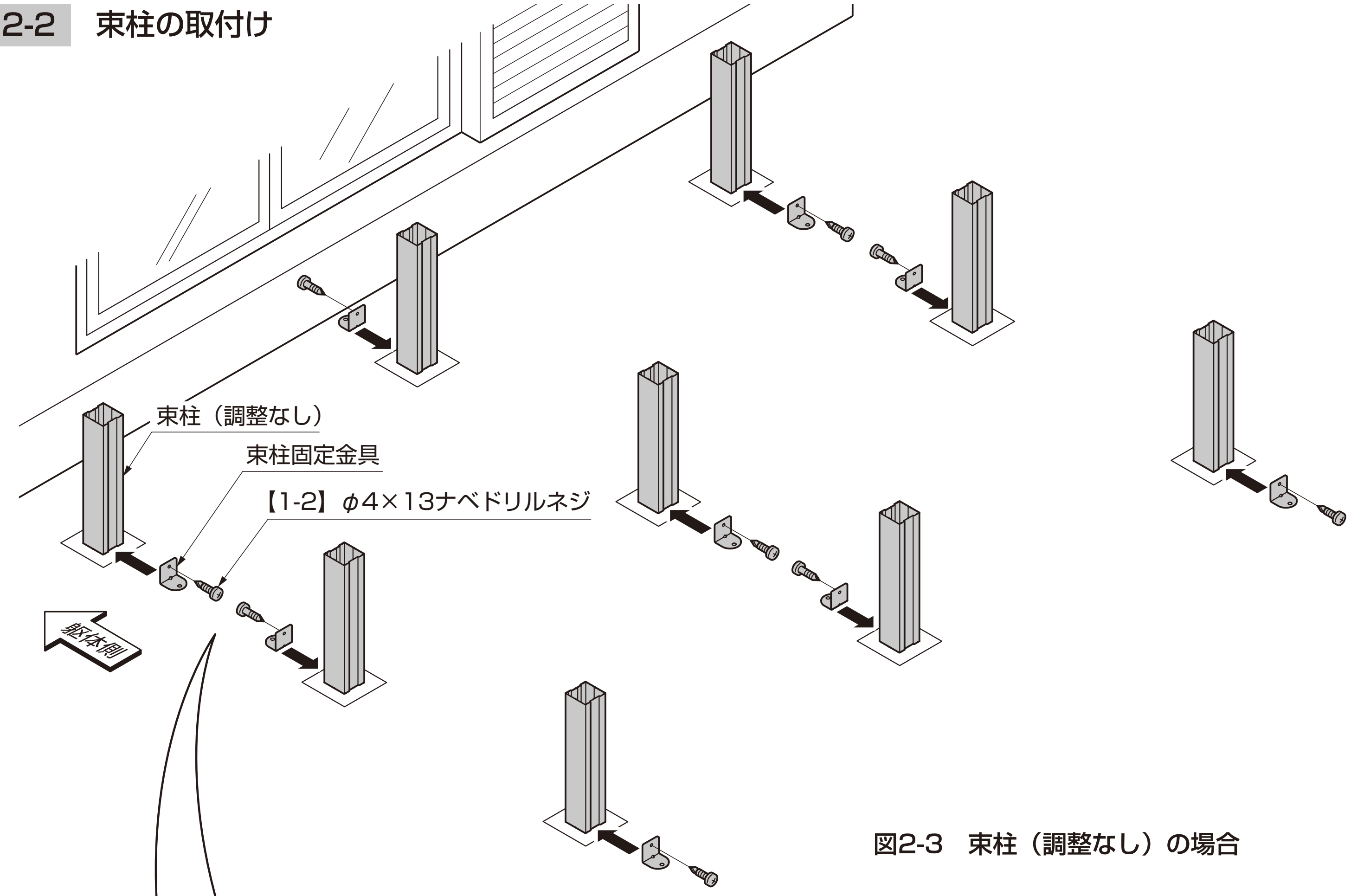
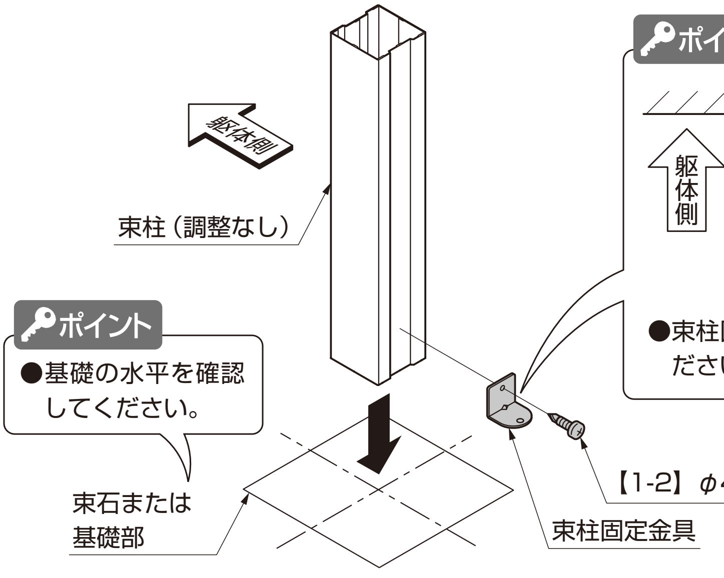
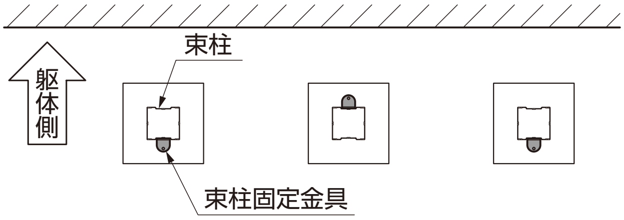


図2-3　束柱（調整なし）の場合

（1）束柱（調整なし）の場合



ポイント



●束柱固定金具は、それぞれの束柱に交互に取付けてください。

①束柱固定金具を束柱に【1-2】で取付けてください。
②「3 基本寸法と各部の名称　3.床板縦張り基本寸法および4.床板横張り基本寸法」を参照して、前面・両側面の水糸に寸法出しをし、束石または基礎部に束柱をのせてください。

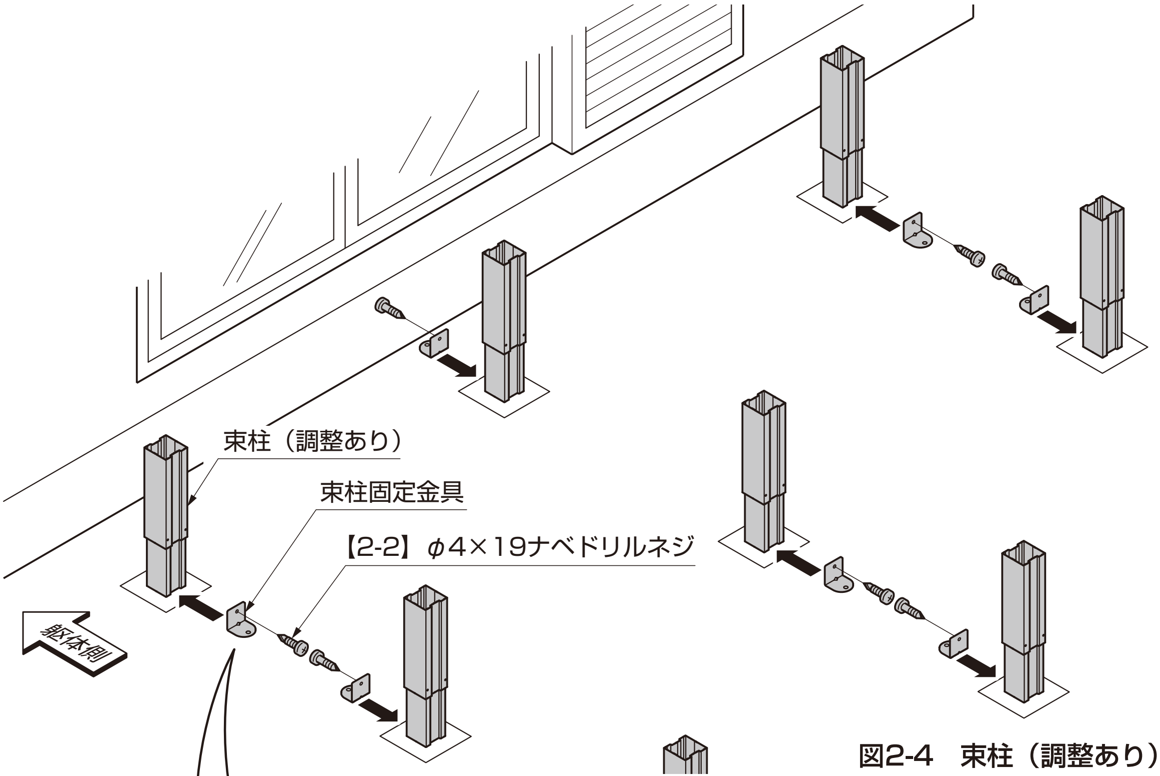
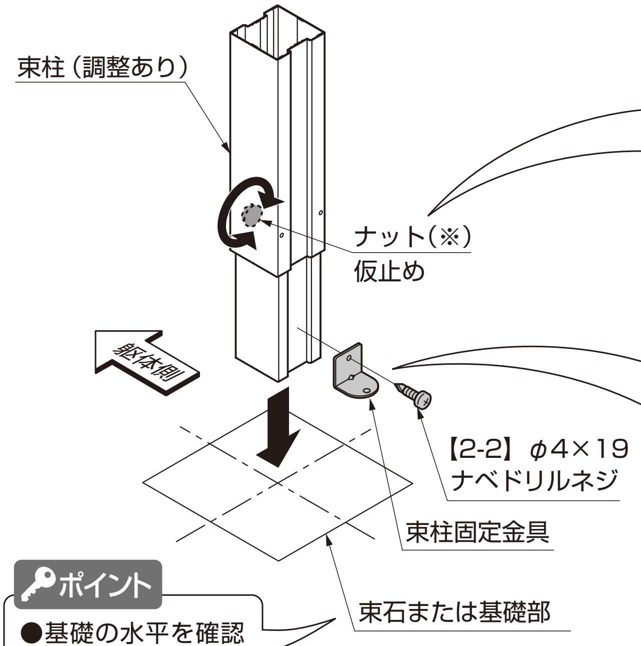


図2-4　束柱（調整あり）の場合

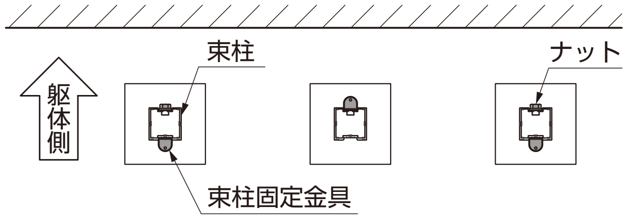
（2）束柱（調整あり）の場合



ポイント

●束柱(調整あり)はナットを緩め、内側の束柱をスライドさせて表へ出し、ナット(※)を仮締めして、内側の束柱が下になるように取付けてください。

ポイント



●束柱固定金具は、それぞれの束柱に交互に取付けてください。

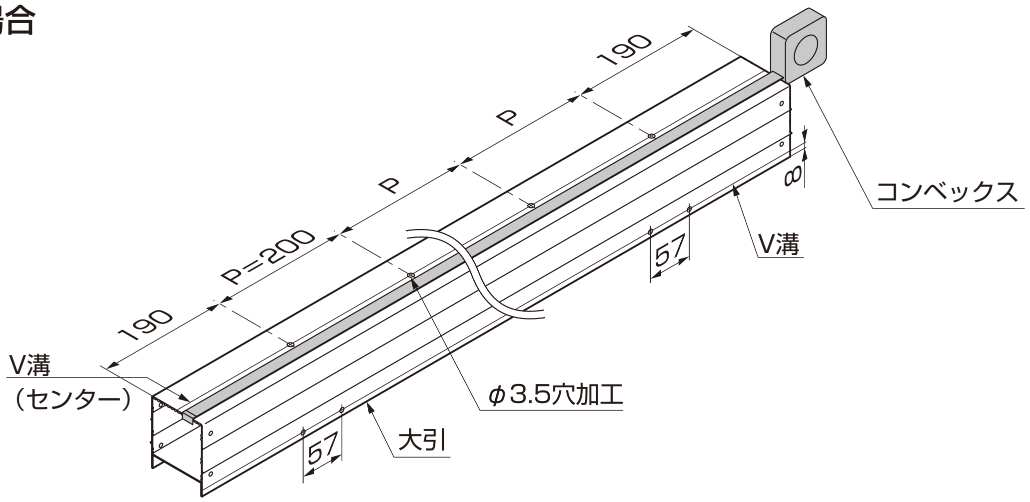
ポイント

●基礎の水平を確認してください。

①束柱固定金具を束柱に【2-2】で取付けてください。
②「 3 基本寸法と各部の名称　3.床板縦張り基本寸法および4.床板横張り基本寸法」を参照して、前面・両側面の水糸に寸法出しをし、束石または基礎部に束柱をのせてください。

3. 大引への穴加工

3-1　大引の場合



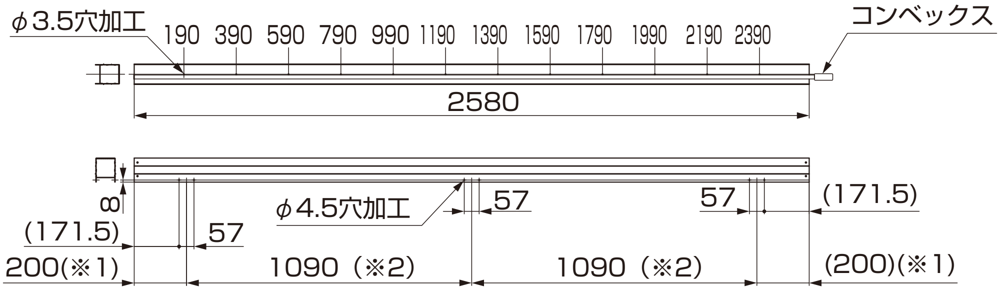


図3-1　1.5間

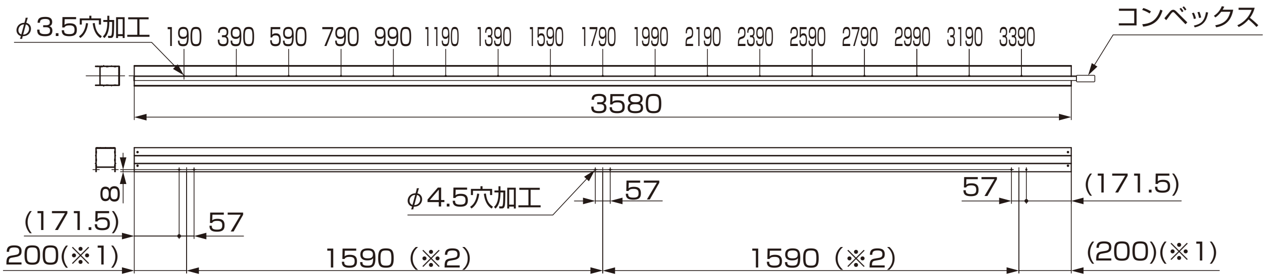


図3-2　2.0間

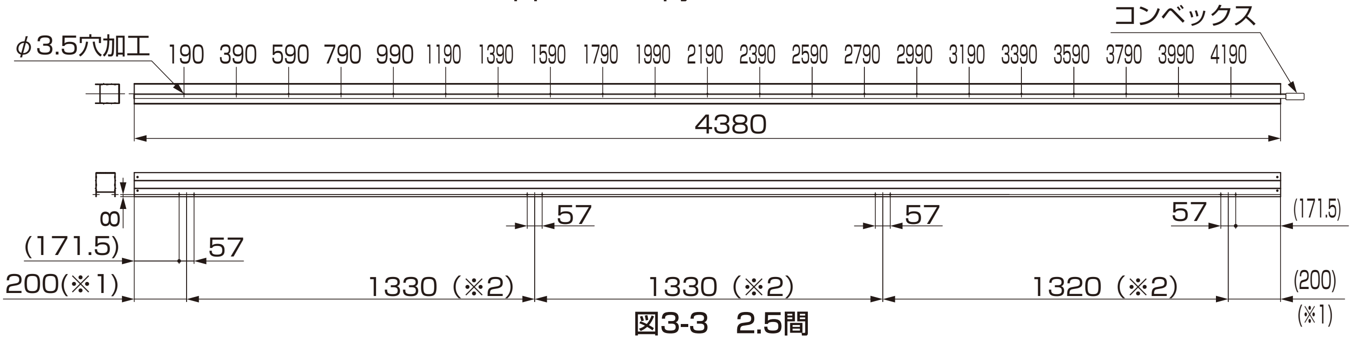


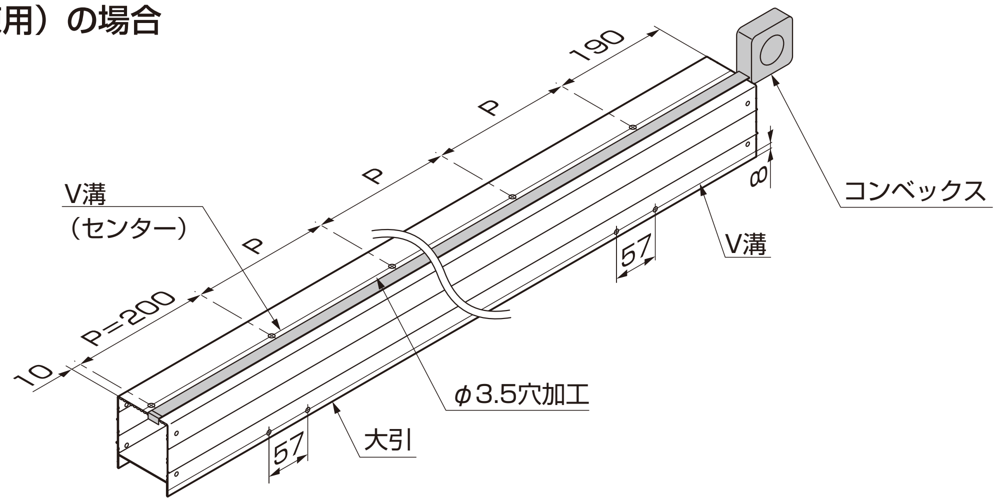
図3-3　2.5間

①大引上面にφ3.5の穴加工をしてください。
②大引側面にφ4.5の穴加工をしてください。

ポイント

- ●コンベックスなどを使用し、ピッチがずれないように注意してください。
- ●大引を切詰める場合は、端部から束柱芯まで（※１）を200mm以下にしてください。
- ●束柱の位置（※２）は現場に合わせて調整してください。

3-2　大引（連棟用）の場合



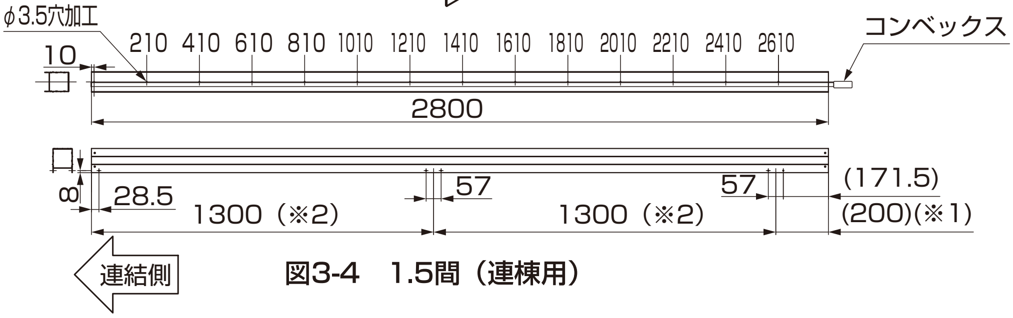


図3-4　1.5間（連棟用）

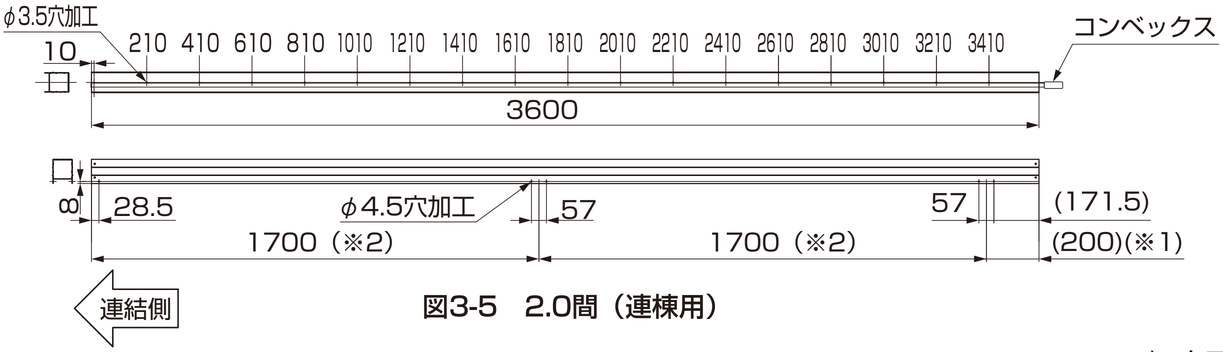


図3-5　2.0間（連棟用）

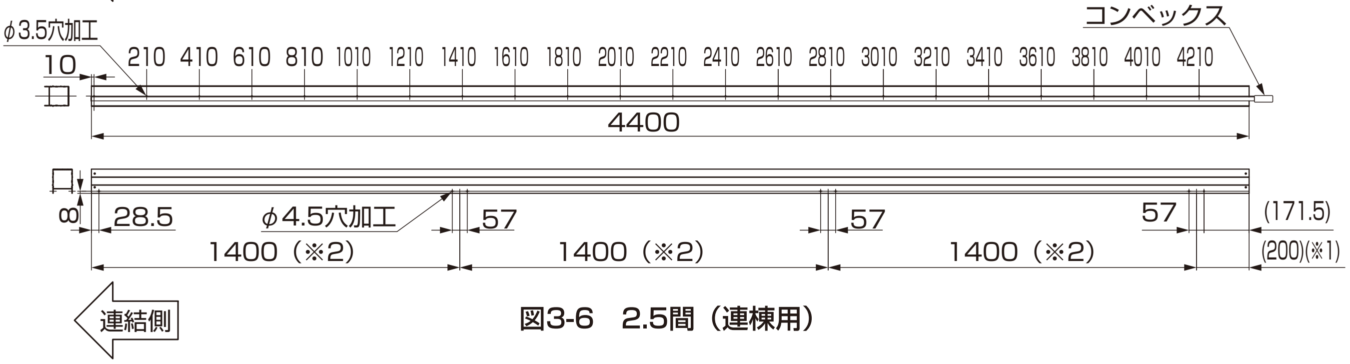


図3-6　2.5間（連棟用）

①大引上面にφ3.5の穴加工をしてください。
②大引側面にφ4.5の穴加工をしてください。

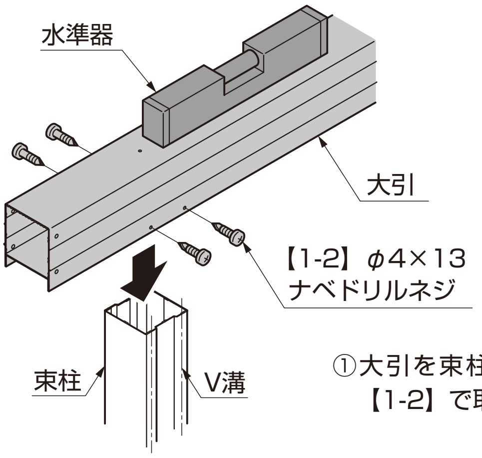
ポイント

- ●コンベックスなどを使用し、ピッチがずれないように注意してください。
- ●大引を切詰める場合は、端部から束柱芯まで（※１）を200mm以下にしてください。
- ●束柱の位置（※２）は現場に合わせて調整してください。

4. 大引の取付け

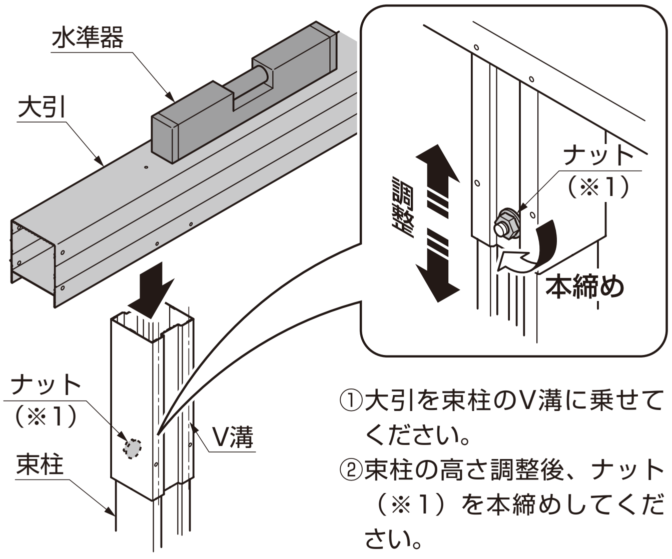
4-1 大引の取付け

(1) 束柱（調整なし）の場合

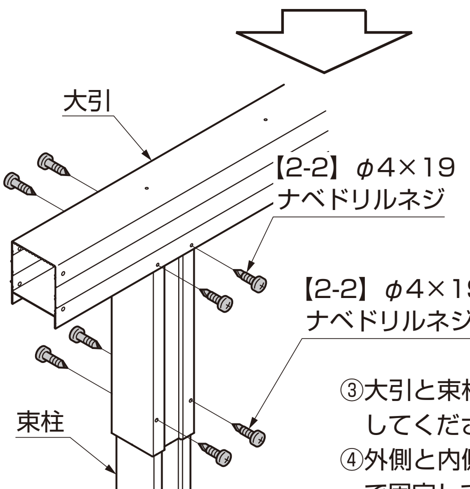


①大引を束柱のV溝に合わせ【1-2】で取付けてください。

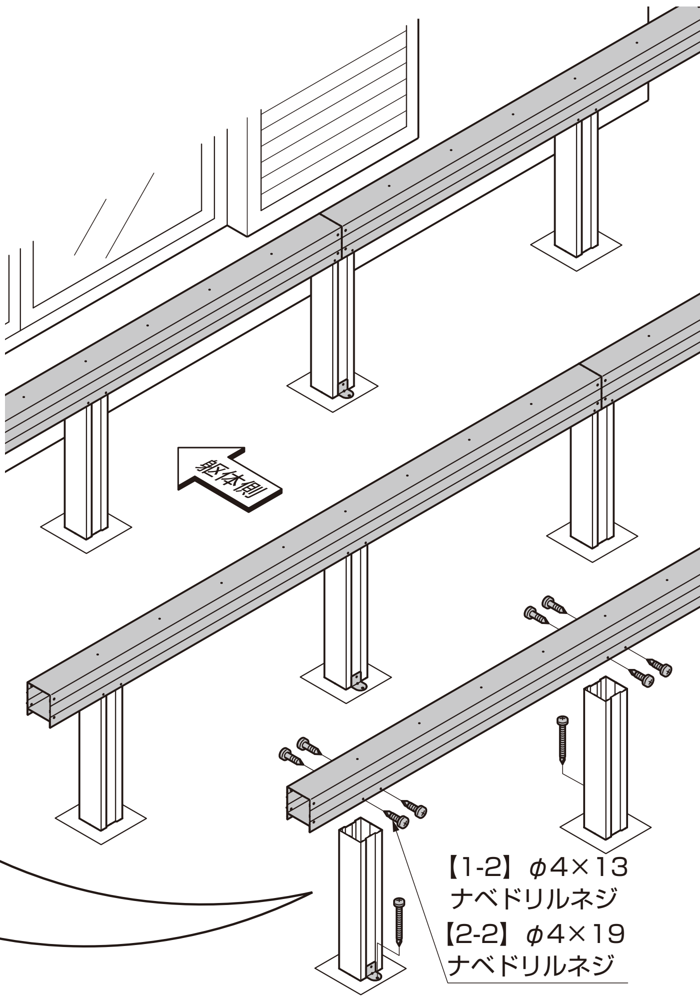
(2) 束柱（調整あり）の場合



①大引を束柱のV溝に乗せてください。
②束柱の高さ調整後、ナット（※1）を本締めしてください。

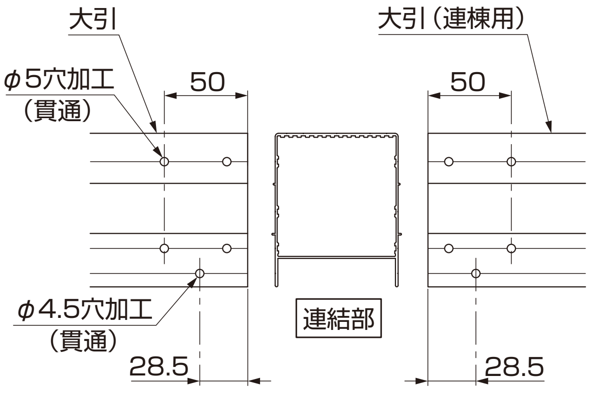


③大引と束柱を【2-2】で固定してください。
④外側と内側の束柱を【2-2】で固定してください。

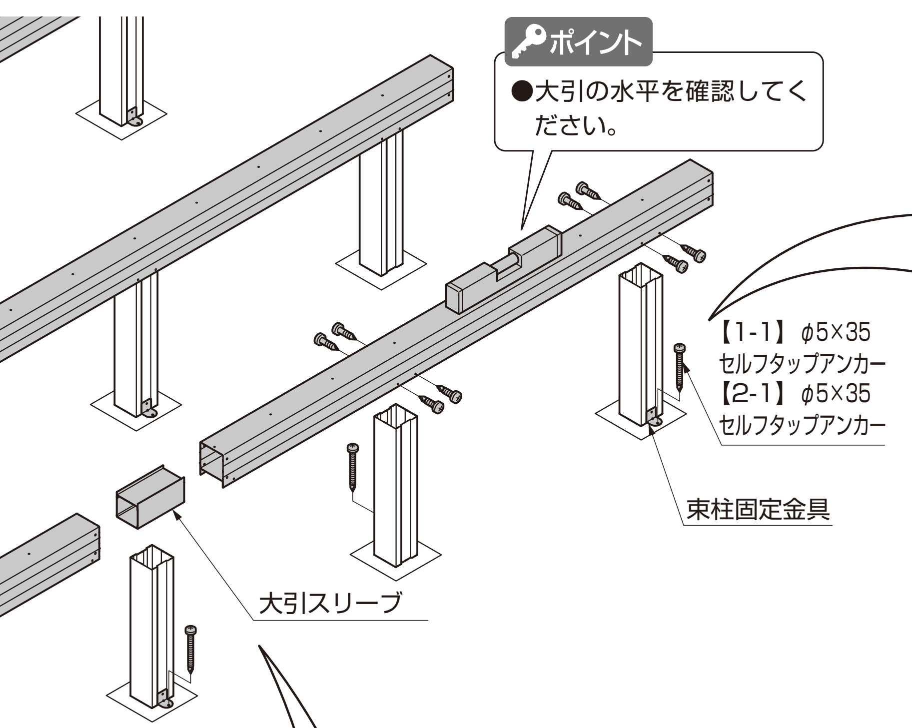


4-2 連結部の取付け

(1) 大引の加工



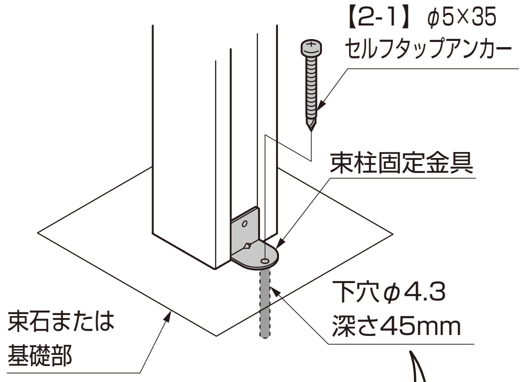
①連棟する大引の連結部に穴加工をしてください。



ポイント

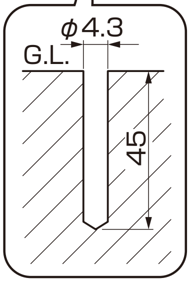
●大引の水平を確認してください。

4-3　束柱の固定



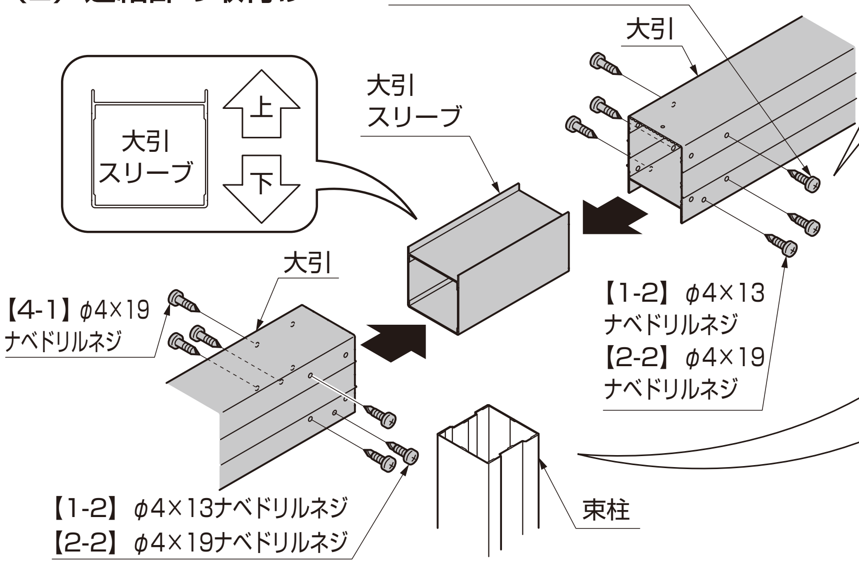
ポイント

●下穴φ4.3は正確にあけてください。
●穴に残ったカスは充分清掃してください。
●束柱と束石の固定は、基礎部材の水平・直角等を確認後に行ってください。

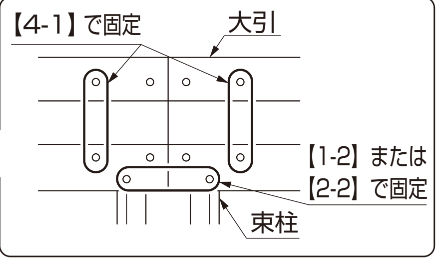


①束石または基礎部にφ4.3、深さ45mmの下穴をあけてください。
②束柱固定金具を束石または基礎部に【1-1】または【2-1】で固定してください。

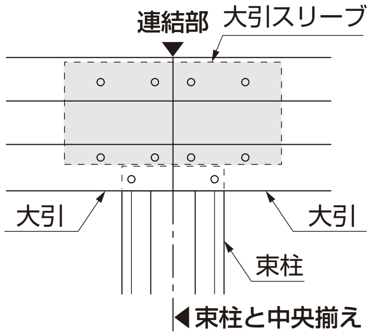
（2）連結部の取付け



①大引スリーブを大引に挿入して【4-1】で固定してください。
②大引を束柱に【1-2】または【2-2】で取付けてください。



ポイント



●大引の連結部と束柱の中央を揃えて取付けてください。

4
大引の施工
束柱・

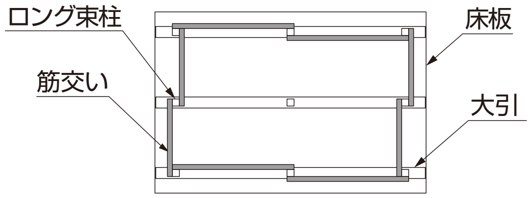
5. 筋交いの取付け　※ロング束柱の場合の作業です。

ポイント

●筋交いの取付けは、筋交い基本設定基準および「5-1 筋交いの施工例」を参考に施工してください。
●筋交いは、ロング束柱の内側・外側交互に取付けてください。
●横張りの場合は、図を横にして読み替えてください。

5-1　筋交いの施工例

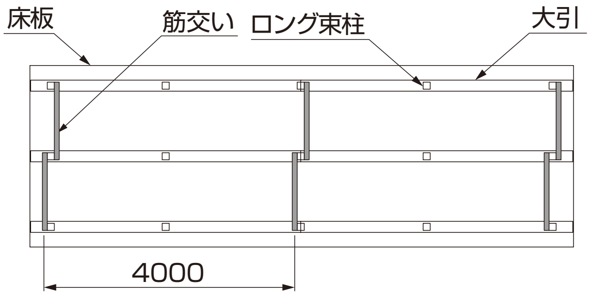
（1）出幅4000mm未満、間口4000mm未満の場合



ポイント

●大引方向は、前面側と躯体側に配置してください。
●床板方向は、両側面側に配置してください。

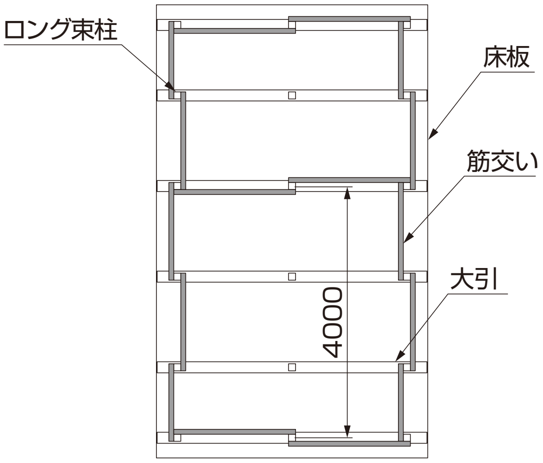
（3）出幅4000mm未満、間口4000mm以上の場合



ポイント

●床板方向は、両側面側と間口4000mmにつき1筋配置してください。

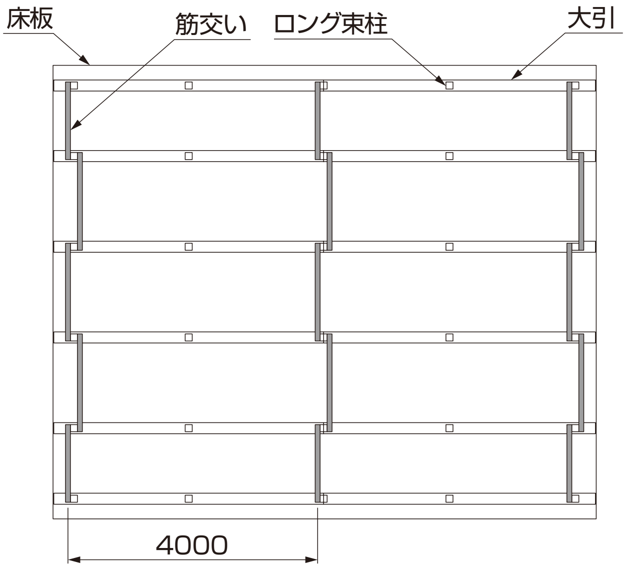
（2）出幅4000mm以上、間口4000mm未満の場合



ポイント

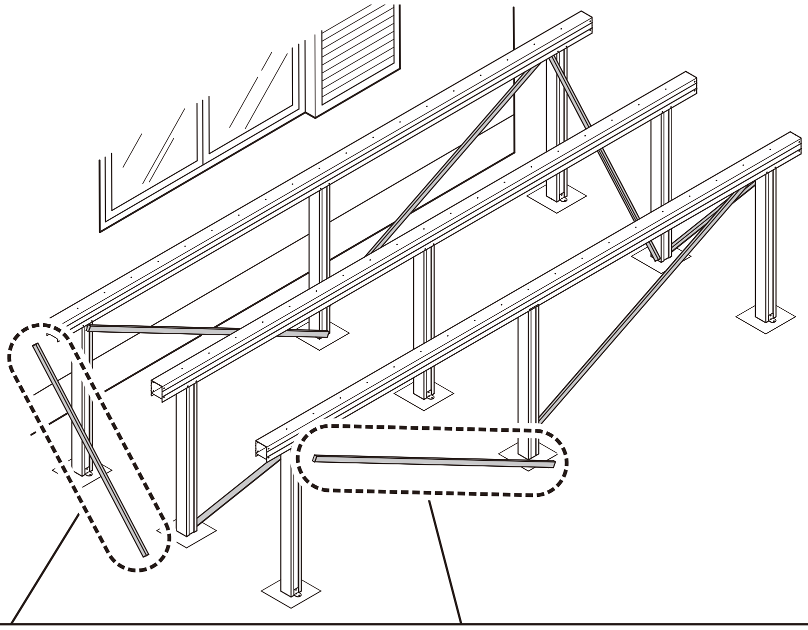
●大引方向は、前面側、躯体側ならびに出幅4000mmにつき1筋配置してください。
●床板方向は、両側面側に配置してください。

（4）出幅4000mm以上、間口4000mm以上の場合



ポイント

●床板方向は、両側面側と間口4000mmにつき1筋配置してください。



5-2 筋交いの取付け

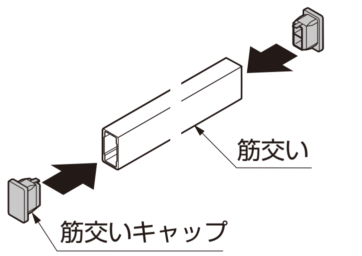


図5-3

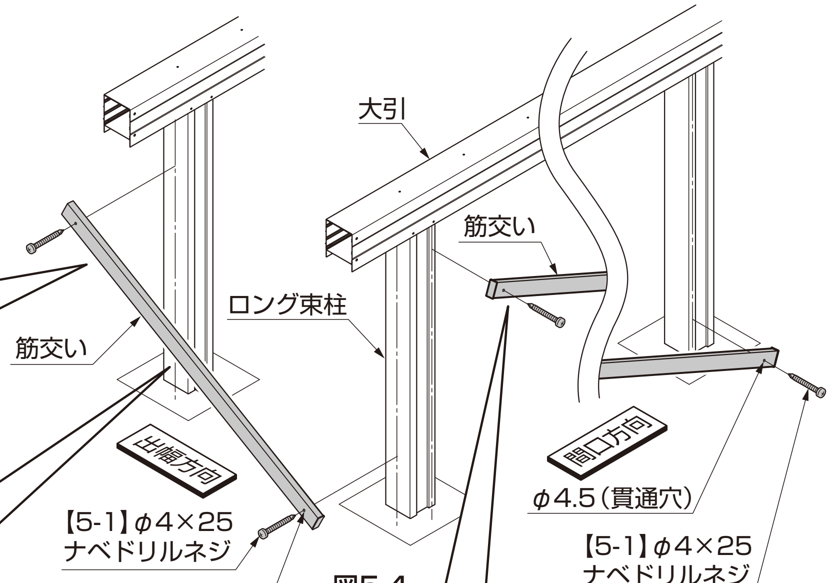


図5-4

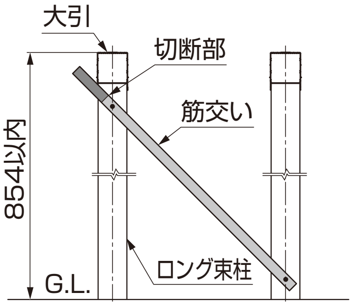


図5-1　出幅方向

ポイント

●筋交い端部はロング束柱からはみ出ないようにしてください。

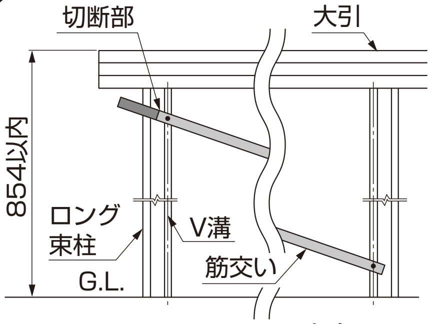


図5-2　間口方向

ポイント

●ロング束柱 内-内のV溝センターにネジ止めしてください。
段落ち部へのネジ止めはしないでください。

●筋交い端部はロング束柱からはみ出ないようにしてください。

①取付位置を確認し、ロング束柱からはみ出さないように切断してください。（図5-1、図5-2参照）
②筋交いの両端に筋交いキャップを押し込んで取付けてください。（図5-3参照）
③筋交いにφ4.5の穴をあけてください。（図5-4参照）
④ロング束柱に筋交いを、【5-1】で固定してください。（図5-4参照）

5　床板の施工

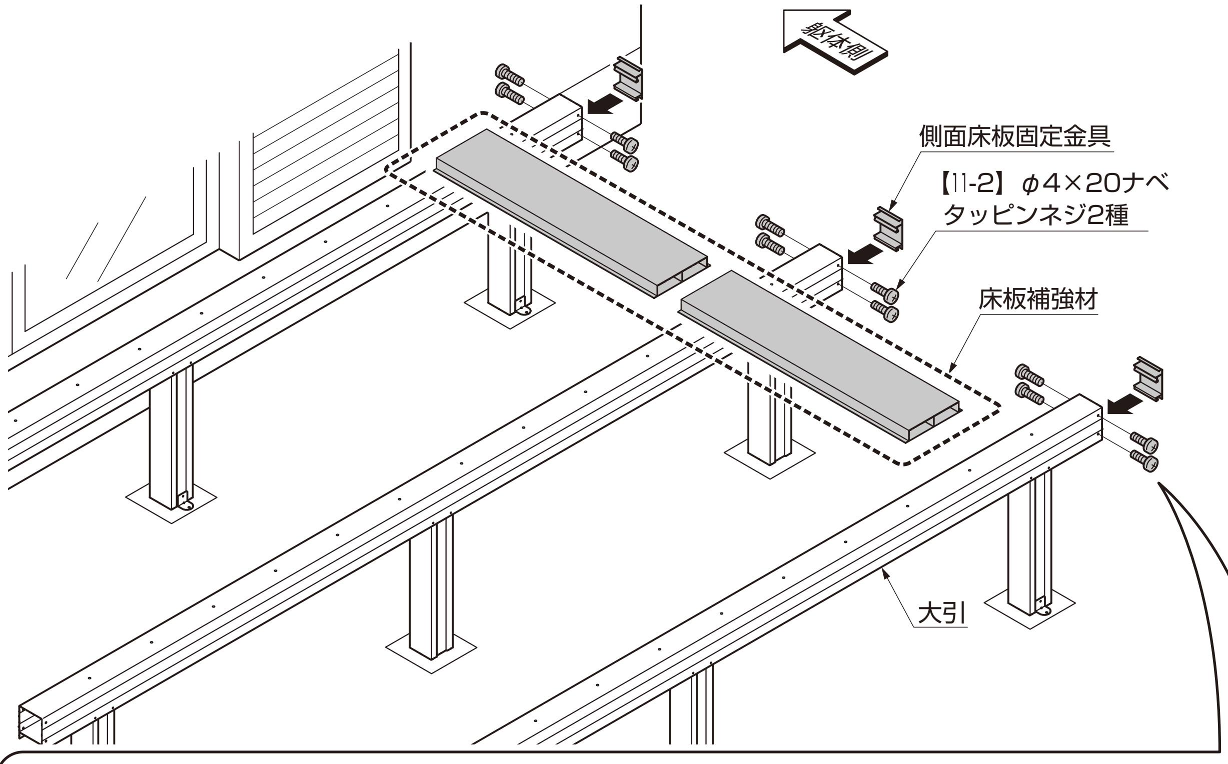
※側面にフェンスを取付ける際、「側面床板補強材固定」の場合はあらかじめ床板補強材の取付けが必要になります。床板等を取付ける前に、「8 オプション　2. 床板補強材の取付け オプション および各取付説明書」を参照して、確実に施工してください。

※躯体付けアングルを取付ける場合は床板等を取付ける前に、「8 オプション　3. 躯体付けアングルの取付け オプション 」を参照してください。

※補助根太を取付ける場合は床板等を取付ける前に、「7 隅切り施工　2. 補助根太の取付け」を参照してください。

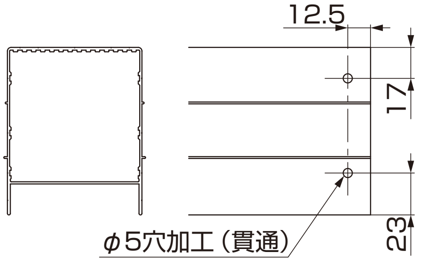
1. 側面床板固定金具（床板の取付け始め側）の取付け

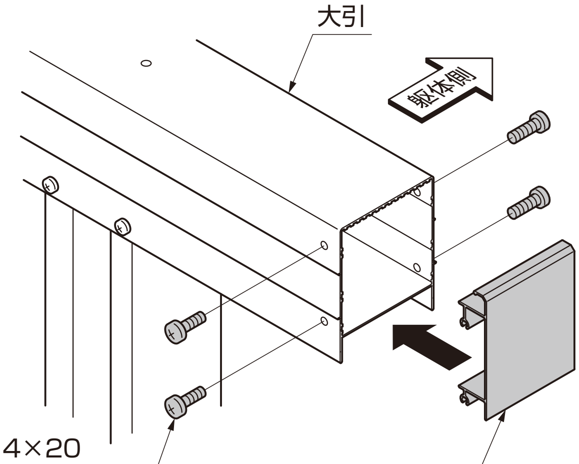
※幕板B オプション の場合は、「6 幕板Bの施工　1. 側面床板固定金具（床板の取付け始め側）の取付け」を参照してください。



ポイント

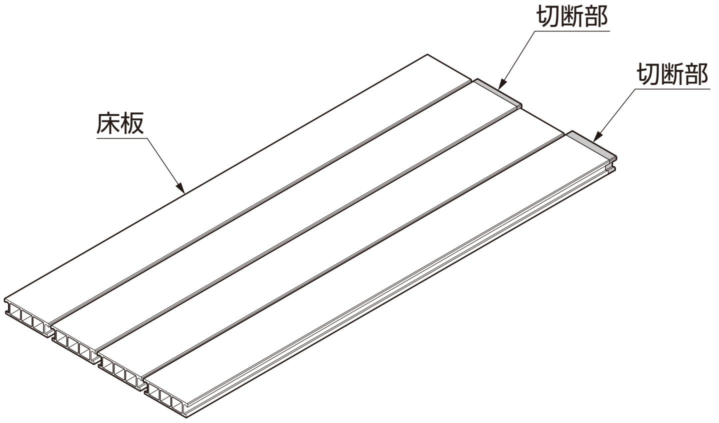
●大引を切断した場合、下図を参照し、大引に穴加工してください。





①側面床板固定金具を大引に【11-2】で取付けてください。

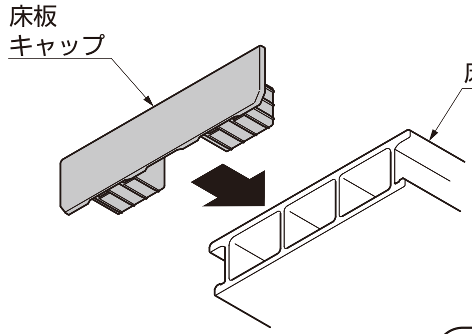
2. 床板取付上の注意

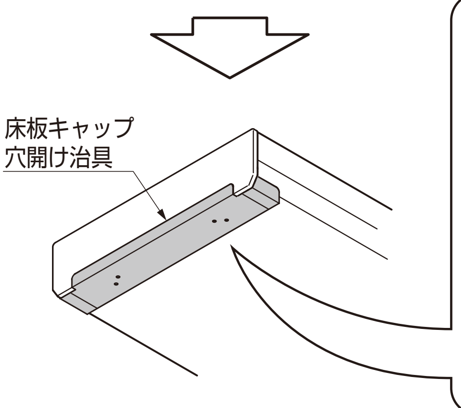


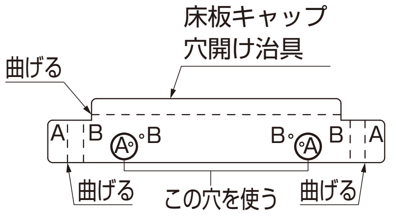
ポイント

●人工木材は、製造時期の温度差により、長さに若干のばらつきがあります。施工前に長さをそろえてください。

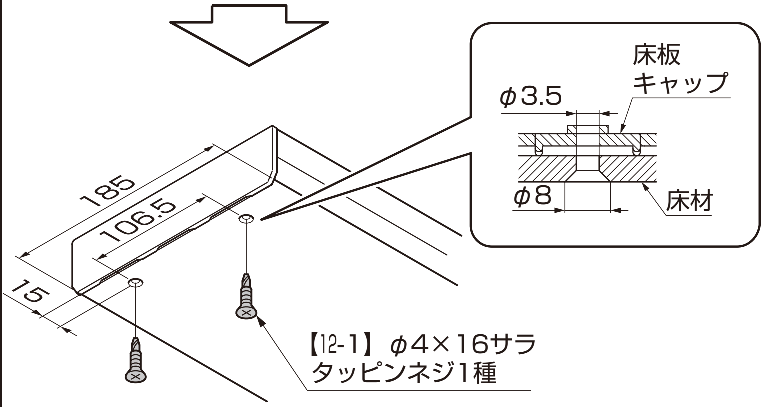
3. 床板キャップの取付け ※幕板B オプション の場合は作業不要です。





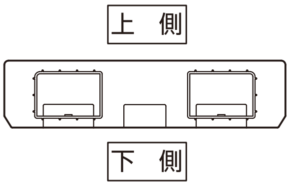


●床板キャップ穴開け治具は、Aの線で折り曲げ、Aの穴を使用して加工をしてください。



ポイント

●大引に床板を張る前に床板キャップを取付けてください。

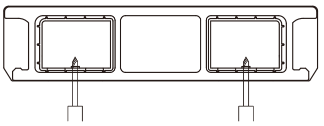


●床板キャップには上下の区別があります。

①床板キャップを床板にはめてください。
②床板キャップ穴開け治具をAの線で折り曲げてください。
③床板裏面に穴開け治具をあて、Aの穴でφ3.5の穴加工とφ8のサラ取り加工をしてください。

ポイント

●床板キャップ内側まで、貫通でφ3.5の下穴をあけてください。



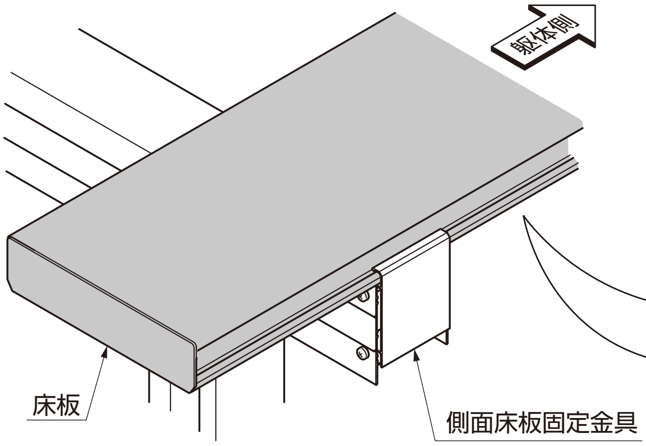
●加工の際は、床板キャップが動かないよう、手で押さえながら加工してください。

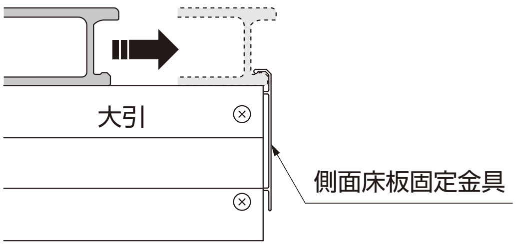
④床板キャップを床板に【12-1】で固定してください。

4. 床板の取付け

※図は床板キャップ納まりを代表で示します。
幕板B納まり オプション も同様の施工となります。

4-1 床板1枚目の取付け





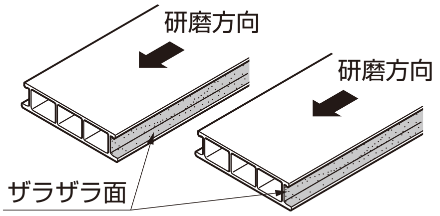
ポイント

〔研磨加工の方向〕

●床板表面は研磨加工がされており、研磨方向によっては色が異なって見える場合があります。床板の加工方向を一定にしてから固定してください。

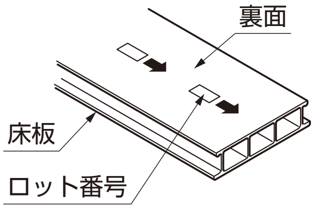
側面に加工がある場合

表面がザラザラしている加工面の向きを合わせ、研磨方向を揃えてください。

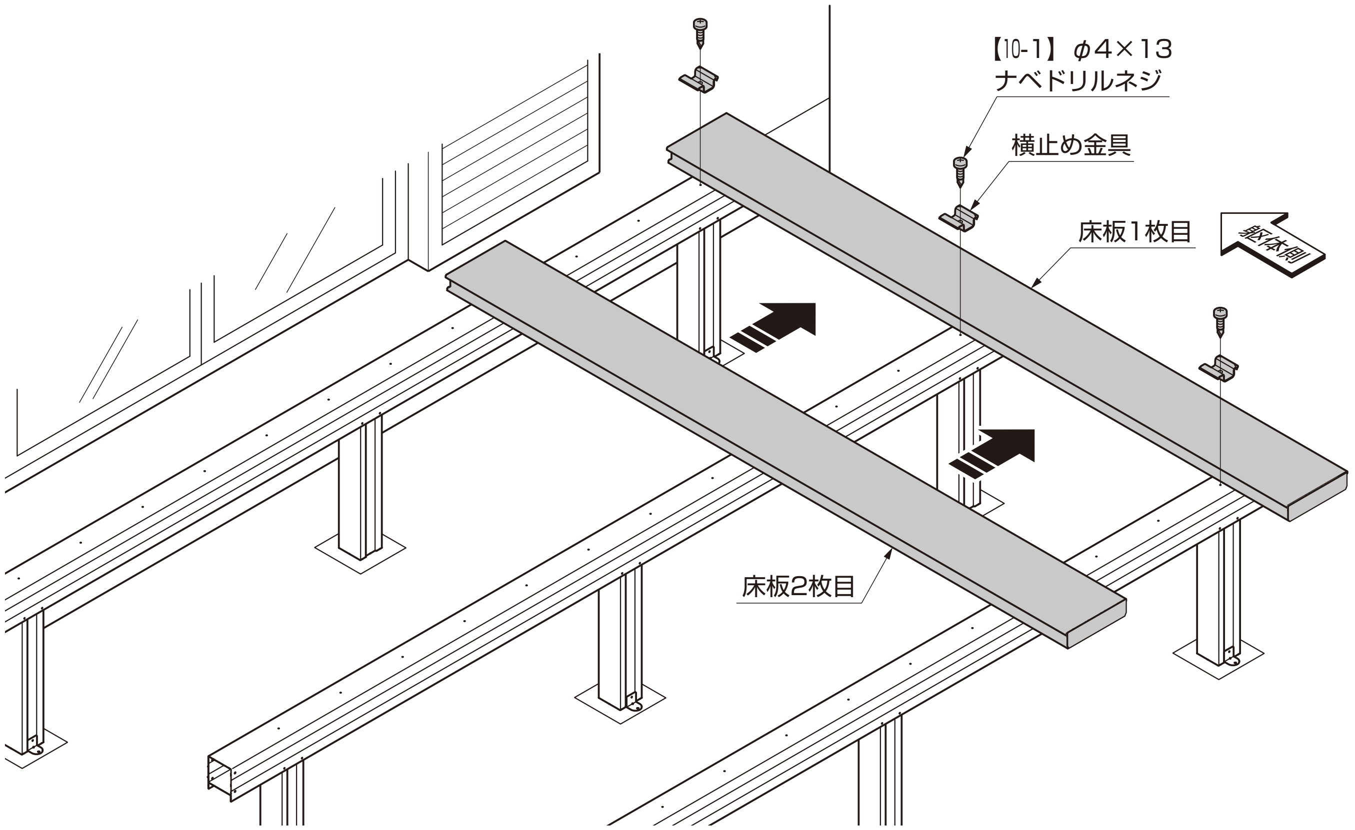


裏面にロット番号と矢印がある場合

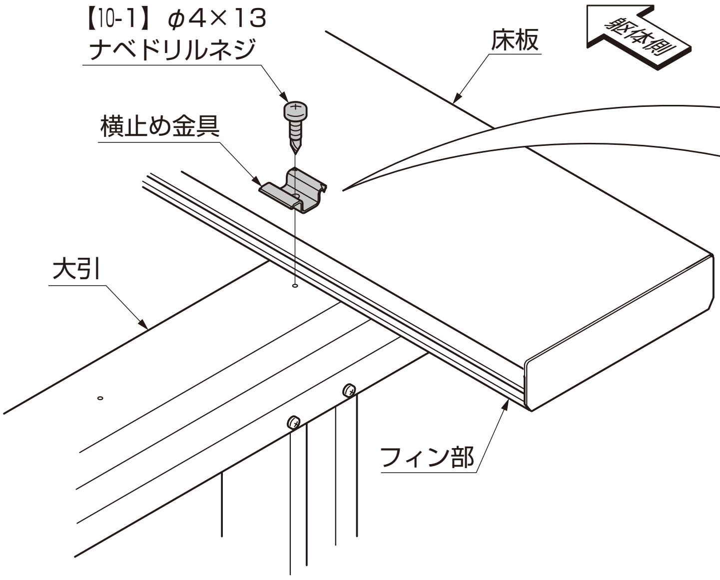
矢印の方向を揃えてから施工してください。

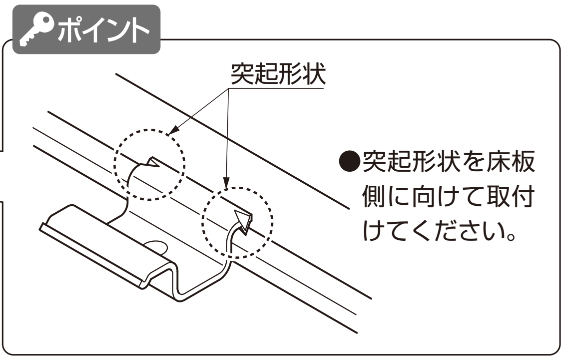


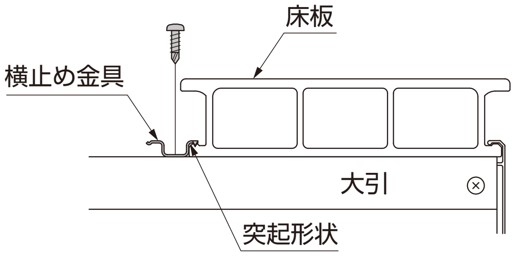
①床板を側面床板固定金具（または幕板B取付材）に差込んでください。



4-2 横止め金具の取付け

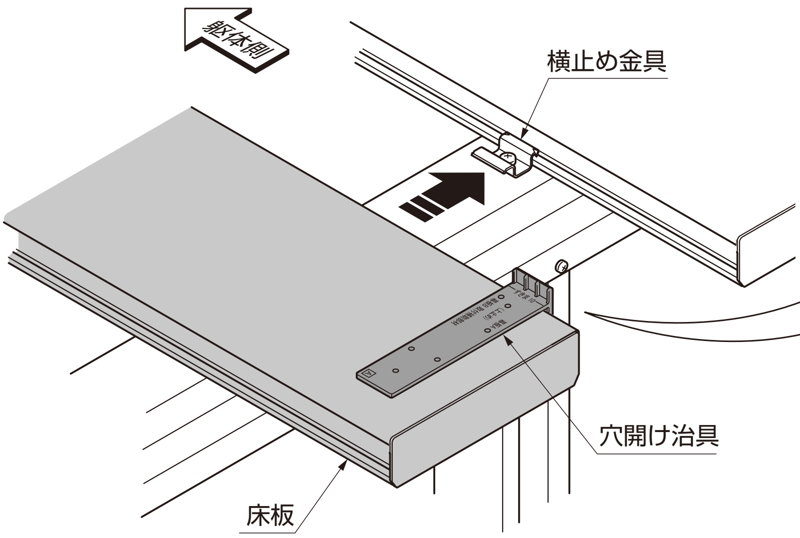


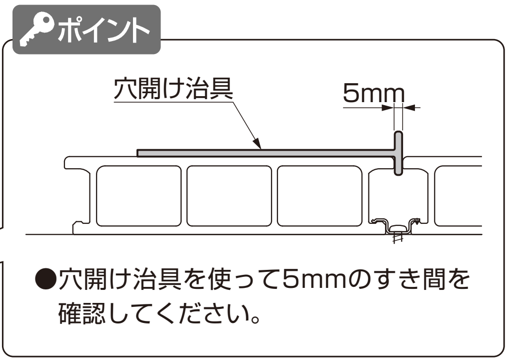




①横止め金具を床板のフィン部に乗せ、大引に【10-1】で取付けてください

4-3 床板2枚目以降の取付け





①床板同士のすき間が5mmになるように、床板を横止め金具に差込んでください。

ポイント

●入りにくい場合は、ゴムハンマーなどで軽くたたいて差込んでください。

②以降の取付けは、4-2、4-3 を繰り返してください。

4.（つづき）

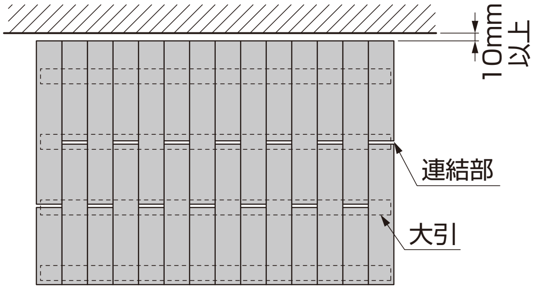
4-4 床板を連結する場合

ポイント

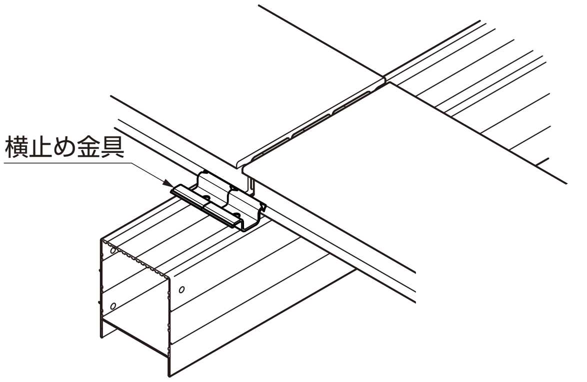
●床材を連結する場合は、必ず千鳥張りにしてください。

●連結は必ず大引上で行なってください。
反りの原因になります。

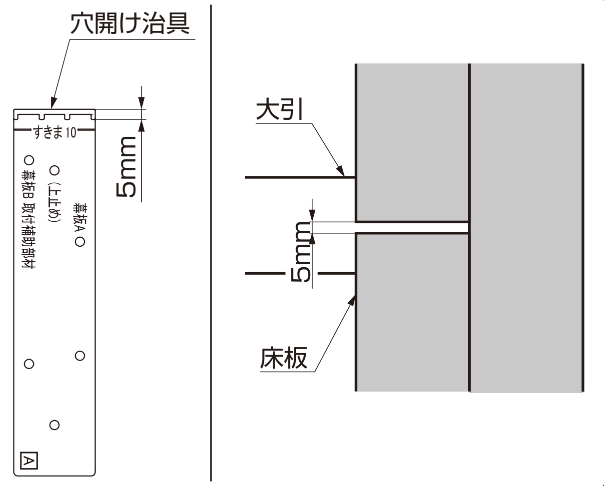
●連結部以外の取付けは
「4-1 床板1枚目の取付け」から
「4-3 床板2枚目以降の取付け」と同様です。

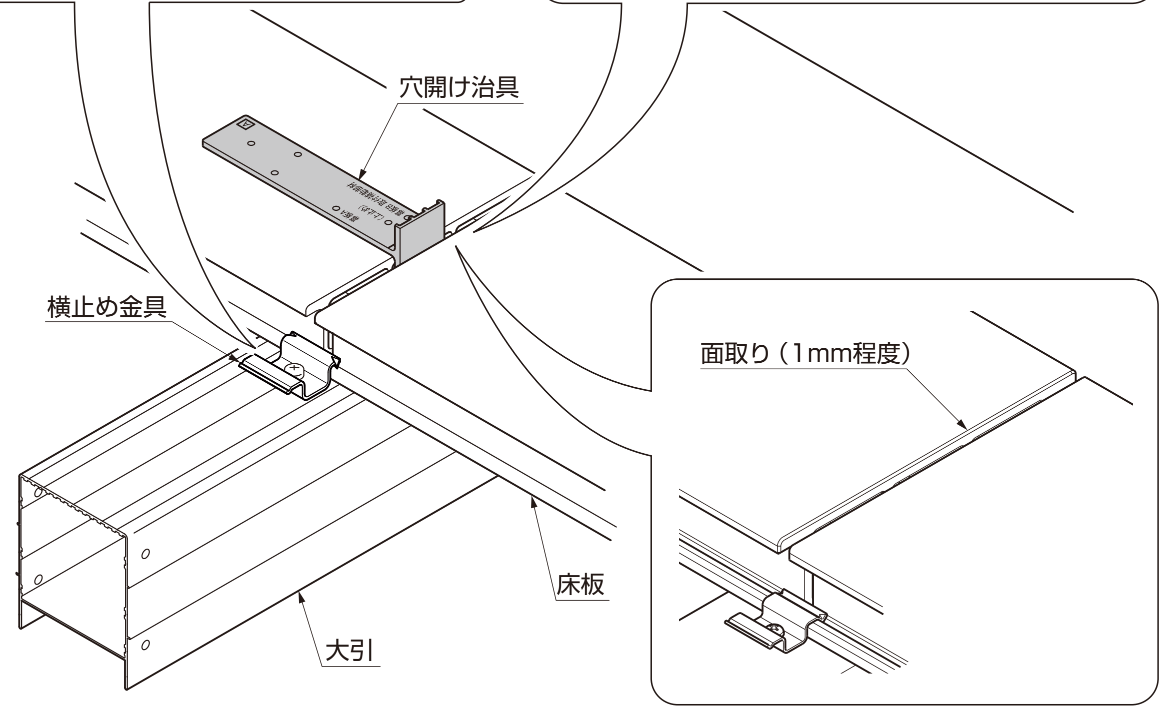


補 足



●より確実な固定が必要な場合には、横止め金具は大引に2個まで並べて取付けることができます。





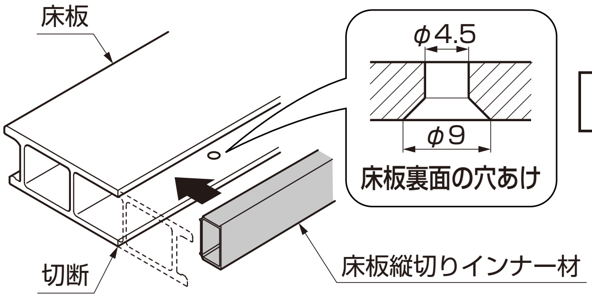
①床板の連結部分は穴開け治具を使用して5mmのすき間を確保して取付けてください。
②連結部の床板小口は軽く（1mm程度）面取りをしてください。

E356_201712C

4-5 床板を縦切りする場合 オプション ※両入隅などで床板の縦切りが必要になった場合の作業です。

ポイント

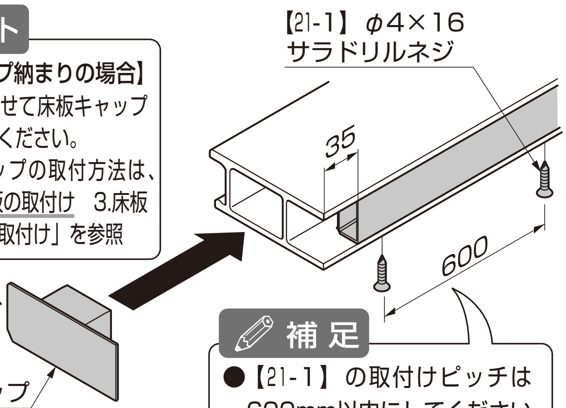
●幅調整の為の床板の縦切りが必要になった場合には、必ずこの作業を行なってください。



ポイント

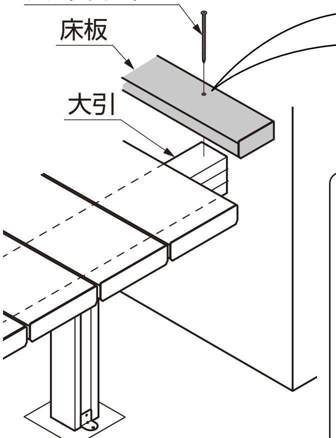
【床板キャップ納まりの場合】

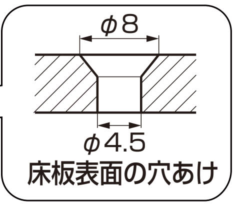
●床板に合わせて床板キャップも切断してください。
床板キャップの取付方法は、「5 床板の取付け 3.床板キャップの取付け」を参照



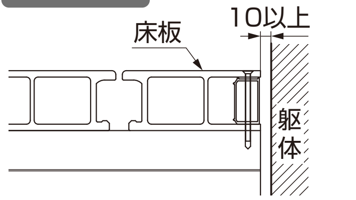
補足

●【21-1】の取付けピッチは600mm以内にしてください。





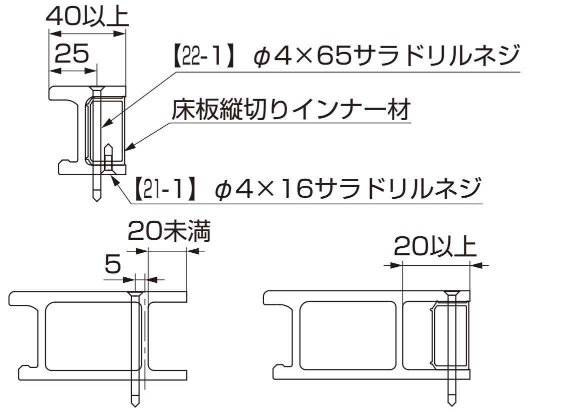
ポイント



● 躯体と床板のすき間は10mm以上あけてください。

ポイント

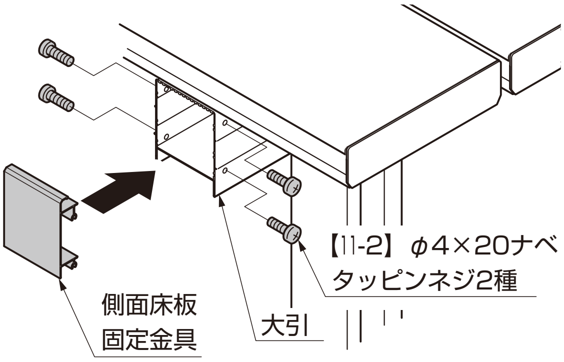
●縦切りは床板端部から40mm以上にしてください。
●床板を上止めする場合は【22-1】を使用してください。
●リブからの持出しが20mm以上の場合には、床板縦切りインナー材を使用してください。

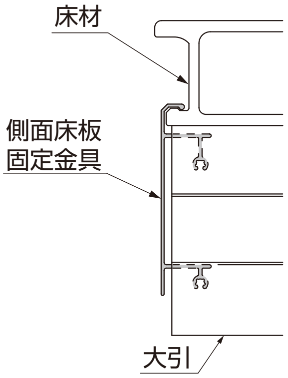


①床板縦切りインナー材を必要な長さに切断してください。
②床板縦切りインナー材を固定する位置にφ4.5の下穴とφ9サラ取りをしてください。
③床板キャップを床板に取付けてください。(床板キャップ納まりの場合)
④床板縦切りインナー材を【21-1】で固定してください。
⑤床板上面にφ4.5の穴をあけ、φ8サラ取りをしてください。
⑥床板を大引に【22-1】で取付けてください。

5. 側面床板固定金具の取付け

※幕板B オプション の場合は、「6 幕板Bの施工 2. 側面幕板取付材の取付け～ 6. 幕板の取付け」を参照してください。



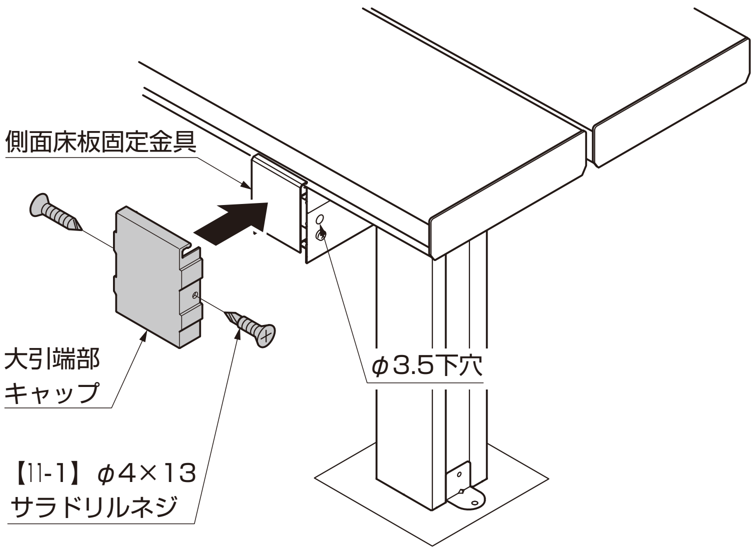


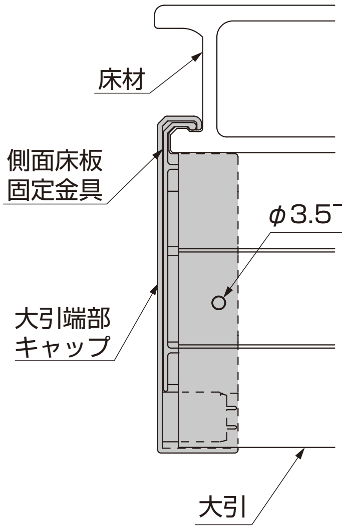
①側面床板固定金具を大引に【11-2】で取付けてください。

ポイント

●床板を押さえるように固定してください。

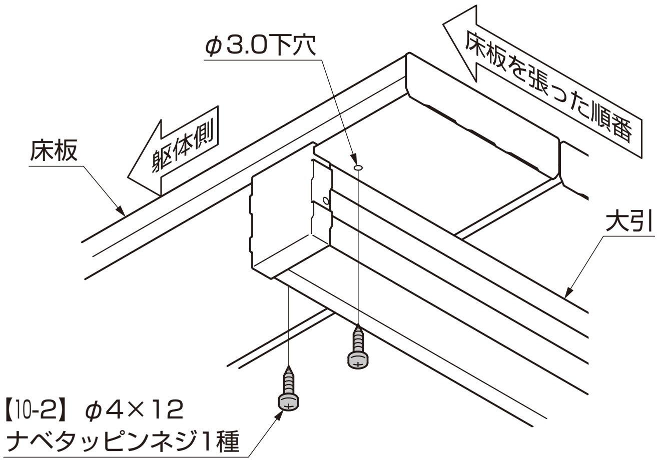
6. 大引端部キャップの取付け ※幕板Bを取付ける場合は不要です。

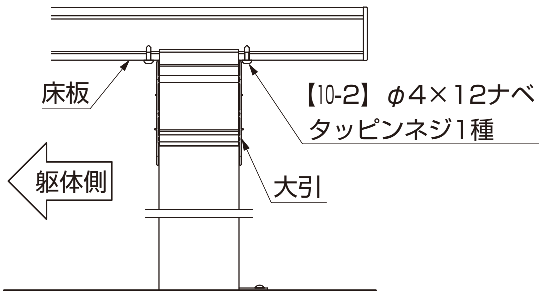


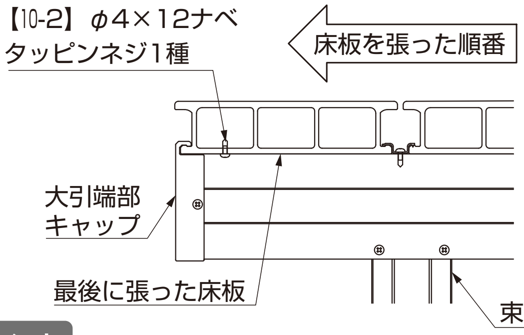


①大引に下穴をあけ、大引端部キャップを取付けてください。
②大引端部キャップを大引に【11-1】で固定してください。

7. 床板のズレ止めネジの取付け







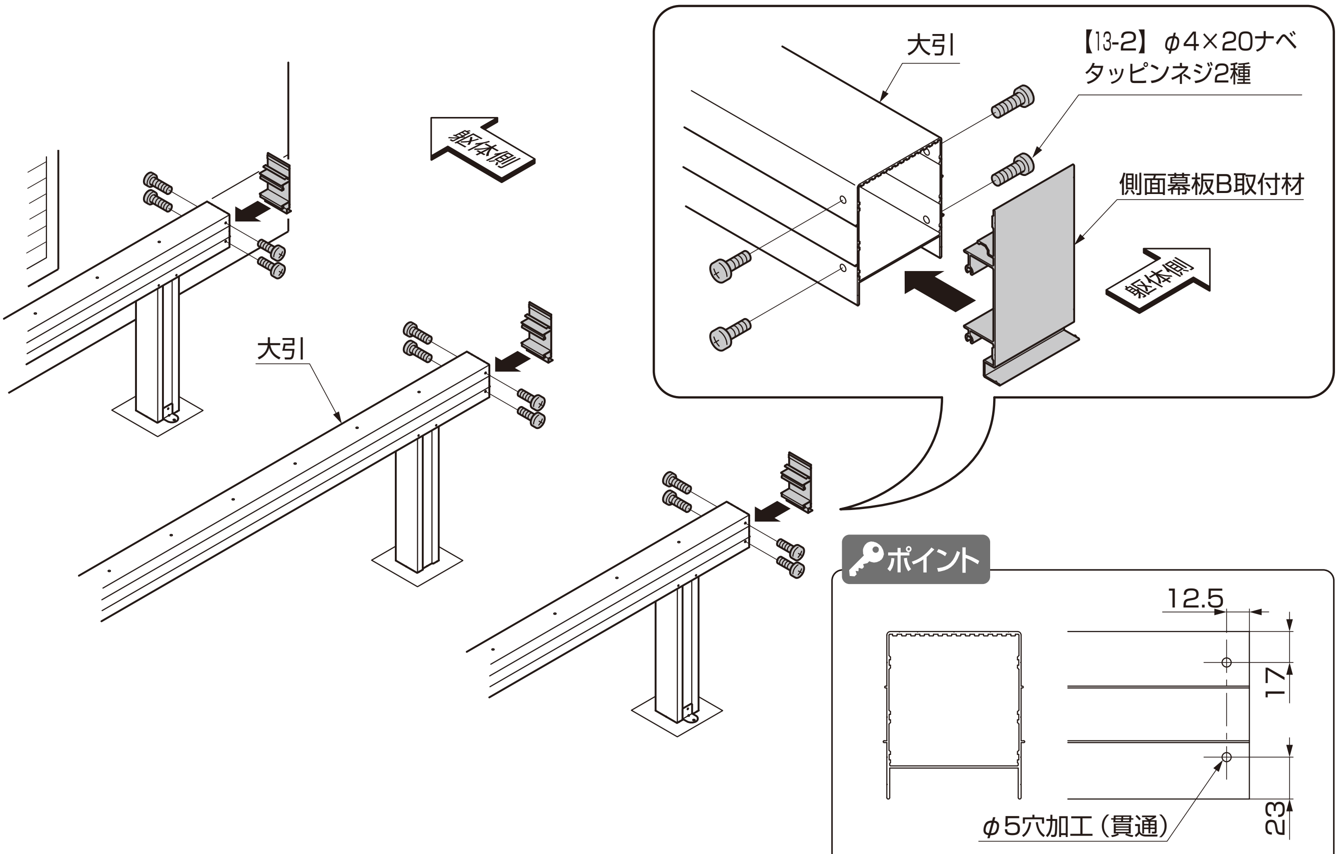
①床板の裏にφ3.0の下穴をあけてください。
②床板に【10-2】を取付けてください。

ポイント
●ネジの頭と大引の間にすき間ができないようにしてください。

6　幕板Bの施工 オプション

1. 側面床板固定金具（床板の取付け始め側）の取付け

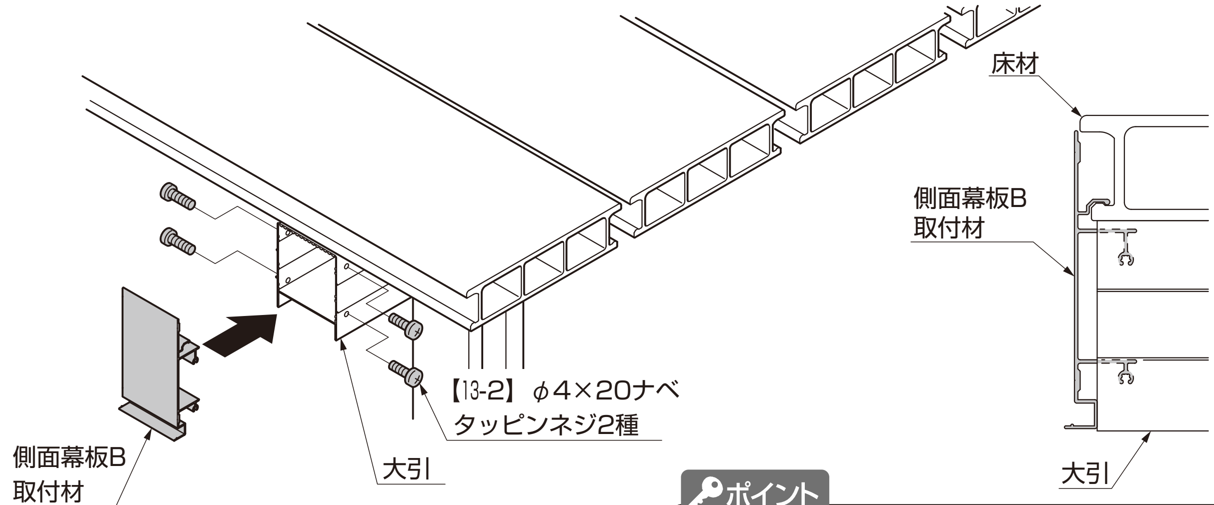
※幕板B オプション を大引固定する場合は、「8 オプション　1. 正面幕板B取付材（大引固定用）の取付け」を参照してください。



●大引を切断した場合、上図を参照し、大引に穴加工してください。

①側面幕板B取付材を大引に【13-2】で取付けてください。
②床板の取付けを参照して床板を取付けてください。

2. 側面幕板B取付材の取付け



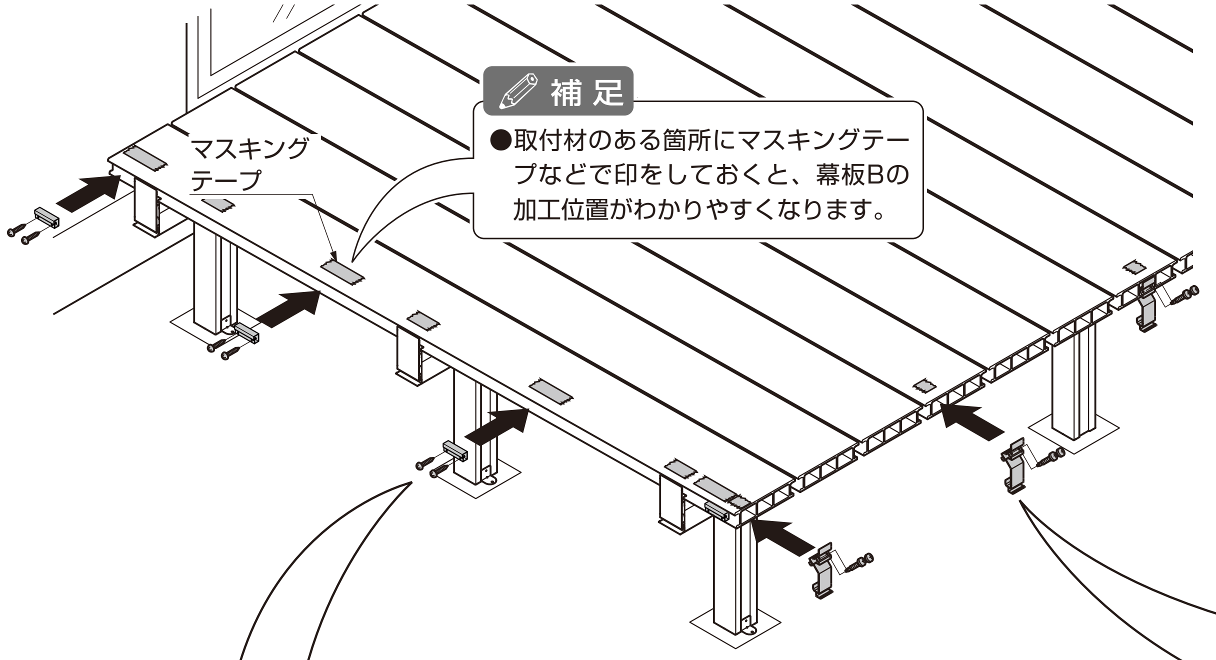
①側面幕板B取付材を大引に【13-2】で取付けてください。

ポイント
●床板を押さえるように固定してください。

6 幕板Bの施工

E356_201608B

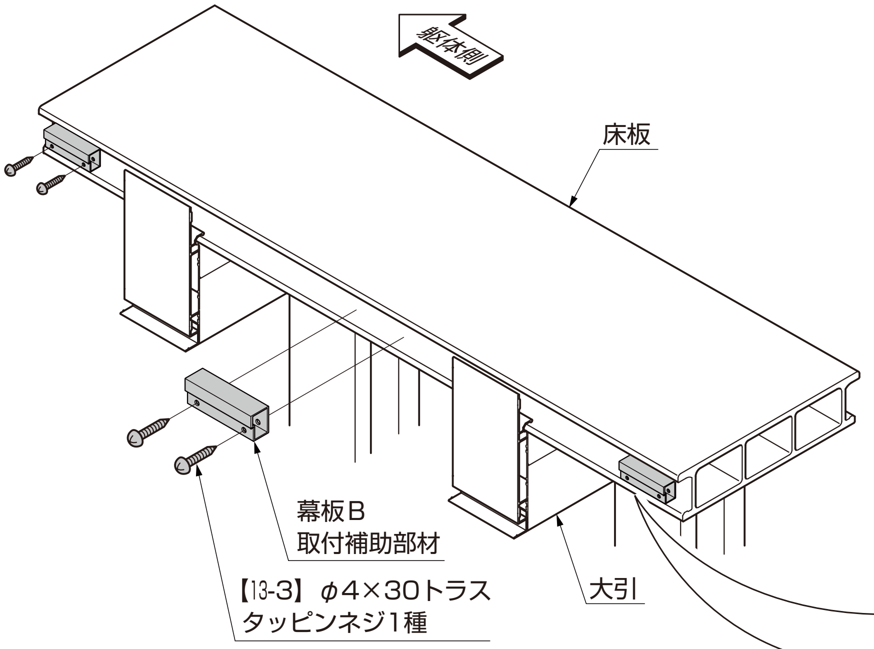
3. 幕板取付金具の取付け



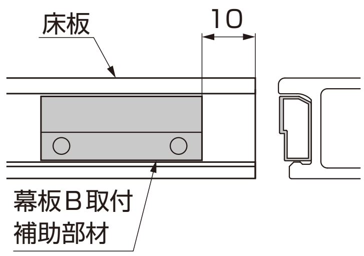
補 足

●取付材のある箇所にマスキングテープなどで印をしておくと、幕板Bの加工位置がわかりやすくなります。

3-1 幕板B取付補助部材の取付け



ポイント



●幕板B取付補助部材は「大引と大引の中間」と「床板端部から10mmの位置」に取付けてください。

●躯体側の床板端部には、床板端部に合わせて取付けてください。

①床板側面の大引間中間部と、床板両端部に、幕板B取付補助部材を【13-3】で固定してください。

3-2 正面幕板B取付材の取付け

（1）正面幕板B取付材の位置確認

ポイント

●幕板B連結部には、正面幕板B取付材を2つ並べて取付けてください。
●連結部の正面幕板B取付材は、1枚の床板に2個取付けてください。
●連結部の正面幕板B取付材（床板固定用）は1枚の床板に2個取付けてください。2枚にまたがないでください。（図3-1参照）

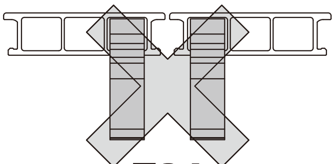
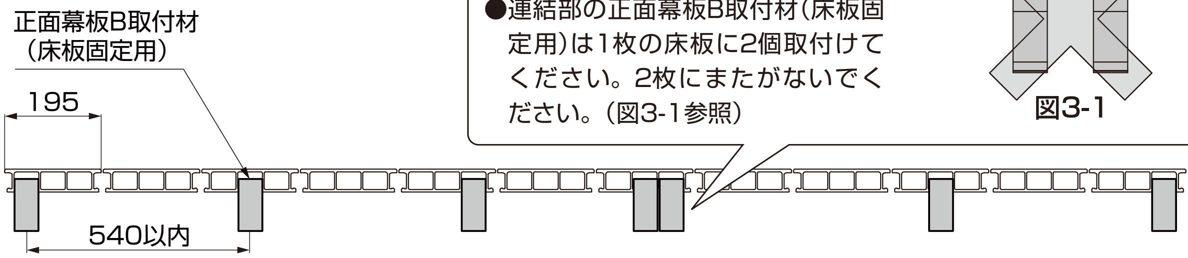


図3-1

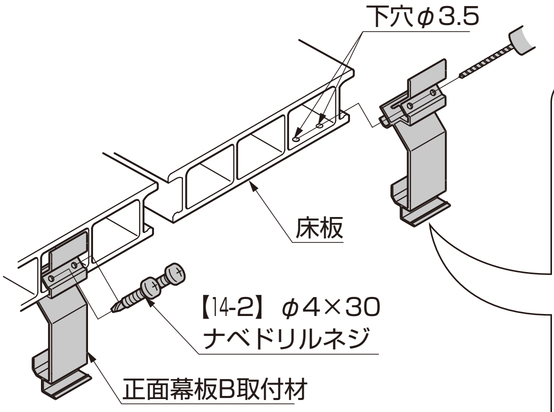


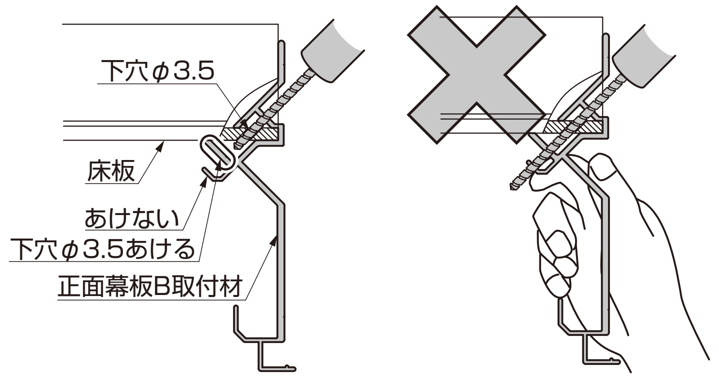
①正面幕板B取付材（床板固定用）を取付ける位置を確認してください。

ポイント

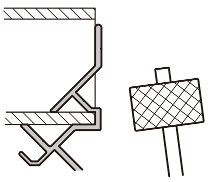
●正面幕板B取付材は、幕板端部には必ず取付けてください。
●正面幕板Bの取付け材の取付けピッチは540mm以内にしてください。

（2）正面幕板B取付材の取付け





ポイント



●取付材はゴムハンマーなどでたたいて、確実にはめ込んでください。

ポイント

●正面幕板B取付材がずれないように押さえながら穴をあけてください。

⚠注 意

●下穴は、正面幕板B取付け材（床板固定用）に貫通させないでください。貫通したドリルで手をキズつけるおそれがあります。

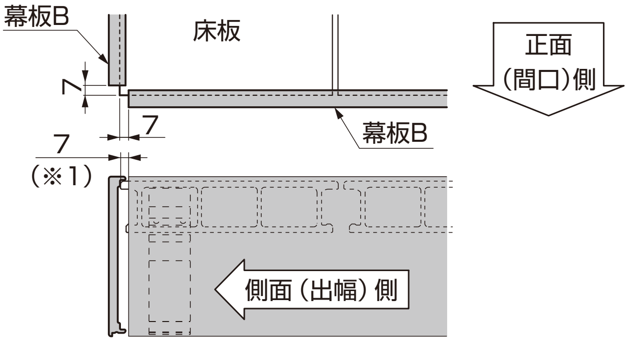
①正面幕板B取付材を床板のホロー部にはめ込み、φ3.5の下穴を床板と正面幕板B取付材にあけてください。
②正面幕板B取付材を床板に【14-2】で取付けてください。

補 足

●連結部は幕板ジョイントカバーセットに入っている取付材とネジを使用してください。

4. 幕板Bの加工

4-1　90度コーナー（出隅）の場合

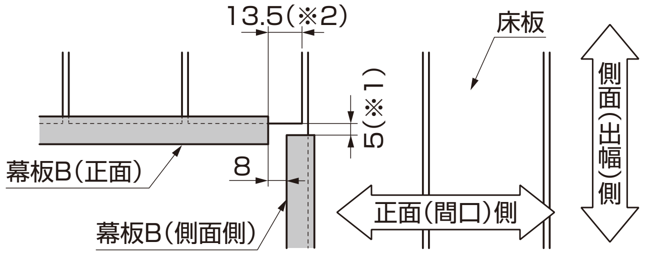


①図のように幕板Bを切断してください。

ポイント

●幕板Bの端部は床板から7mm（※1）床板内側にしてください。

4-2　90度コーナー（入隅）の場合

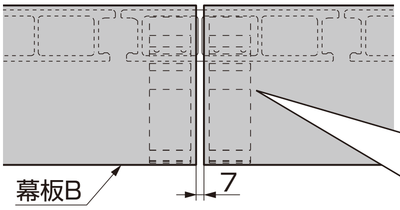


①図のように幕板Bを切断してください。

ポイント

●側面側の幕板Bは床板から5mm（※1）あけてください。
●正面側の幕板Bは床板から13.5mm（※2）あけてください。

4-3　連結部の場合



ポイント

●連結部の正面幕板B取付材（床板固定用）は、1枚の床板に2個取付けてください。2枚にまたがないでください。（図4-1参照）

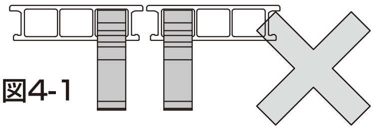


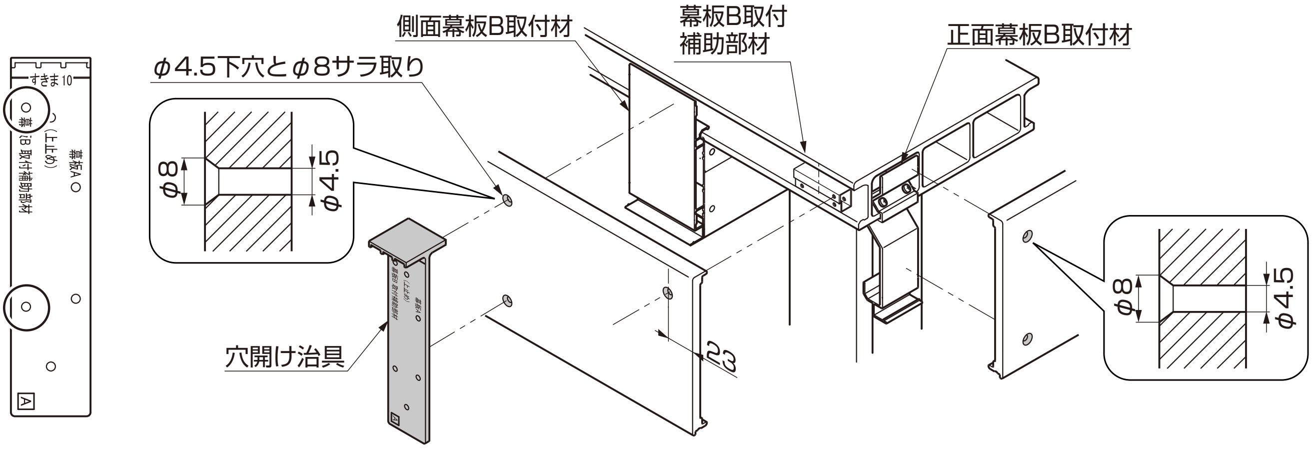
図4-1

①幕板Bの連結部は、7mmあけて切断してください。

ポイント

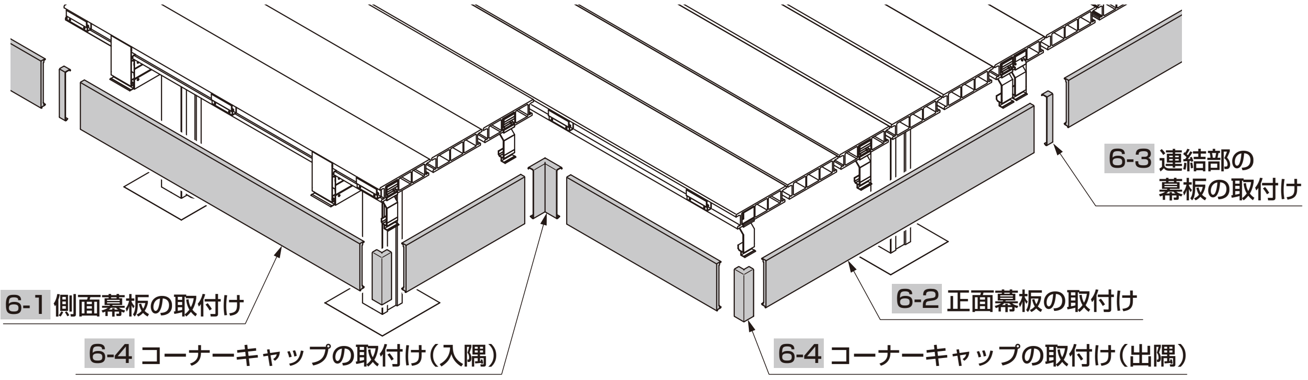
●幕板Bの連結は幕板B取付材のある箇所で行なってくださ。

5. 幕板Bの穴あけ

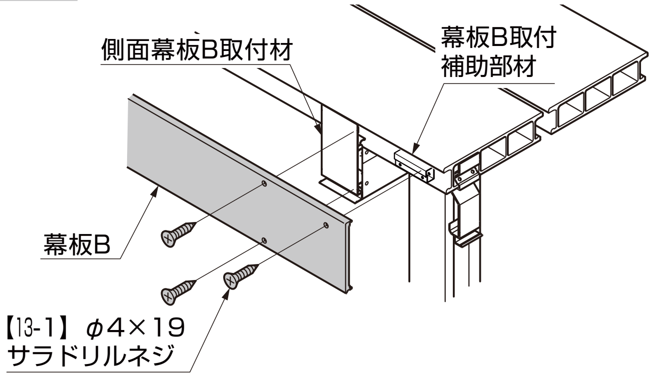


①幕板Bを正面幕板B取付材、側面幕板B取付材と幕板B取付補助部材にあてがい、穴開け治具で穴加工をしてください。

6. 幕板Bの取付け



6-1 側面幕板の取付け

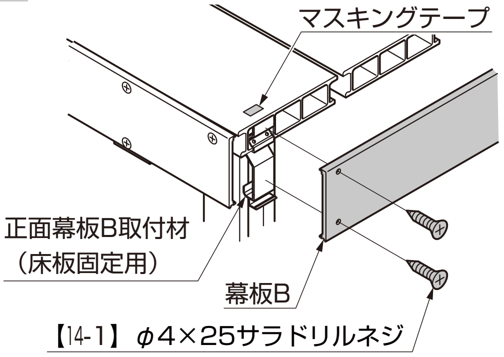


①側面の幕板Bを側面幕板B取付材と幕板B取付補助部材に【13-1】で固定してください。

ポイント

- ●側面幕板Ｂ取付材へは上下2ヶ所、幕板Ｂ取付補助部材へは上1ヶ所の取付けとなります。
- ●幕板Bを取付ける際は、施工後の反りを防ぐため幕板中心部で固定してから、両端部方向へ固定していくようにしてください。

6-2 正面幕板の取付け



①正面の幕板Bを、正面幕板B取付材（床板固定用）に【14-1】で固定してください。

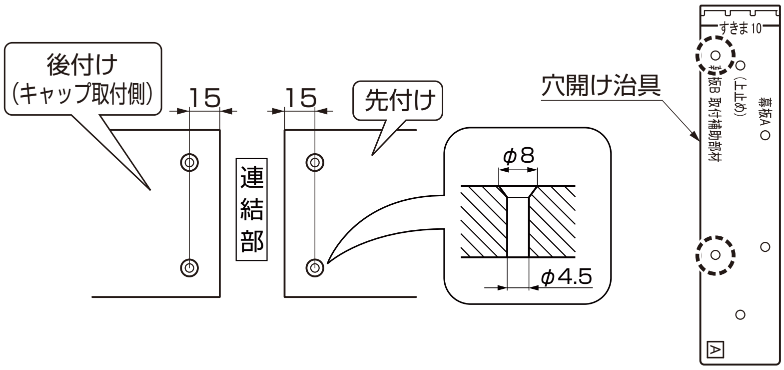
ポイント

- ●正面の幕板Bは、上下2ヶ所の取付けになります。
- ●幕板Bを取付ける際は、施工後の反りを防ぐため幕板中心部で固定してから、両端部方向へ固定していくようにしてください。

補足

- ●マスキングテープなどで取付材の位置に印をつけておくと、幕板の穴加工位置がわかりやすくなります。

6-3 連結部の幕板の取付け



①端部から15mmの位置に穴開け治具を使用して穴加工してください。

ポイント

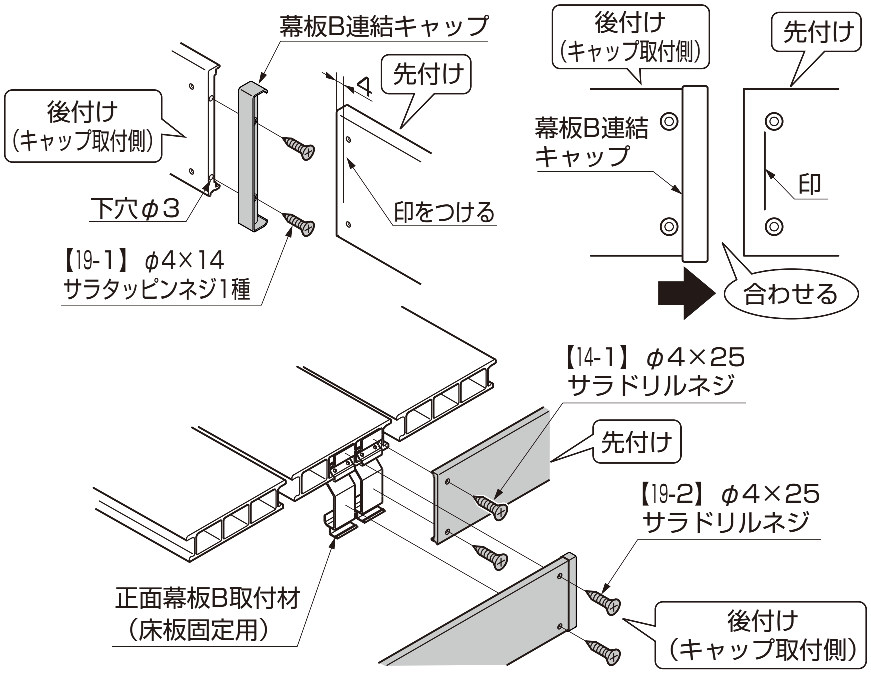
- ●穴開け治具の○印の穴を使って穴加工してください。

6 幕板Bの施工

E356_201712C

6.（つづき）

6-3 連結部の幕板の取付け（つづき）



②先付けの幕板にキャップのみ込みの印を鉛筆などでつけてください。
③後付けの幕板に幕板B連結キャップを【19-1】で取付けてください。

ポイント
●下穴を必ずあけてください。あけないと幕板が割れるおそれがあります。

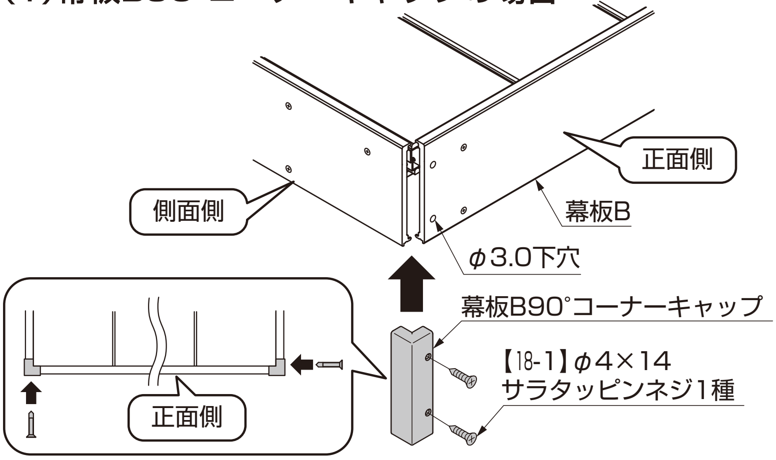
④先付けの幕板Bを、正面幕板B取付材（床板固定用）に【14-1】で固定してください。

ポイント
●幕板B連結キャップが取付いている幕板を後から取付けてください。

⑤後付けの幕板を取付け材に仮置きしてください。
⑥キャップ端部を印に合わせてください。
⑦後付けの幕板を【19-2】で固定してください。

6-4 コーナーキャップの取付け

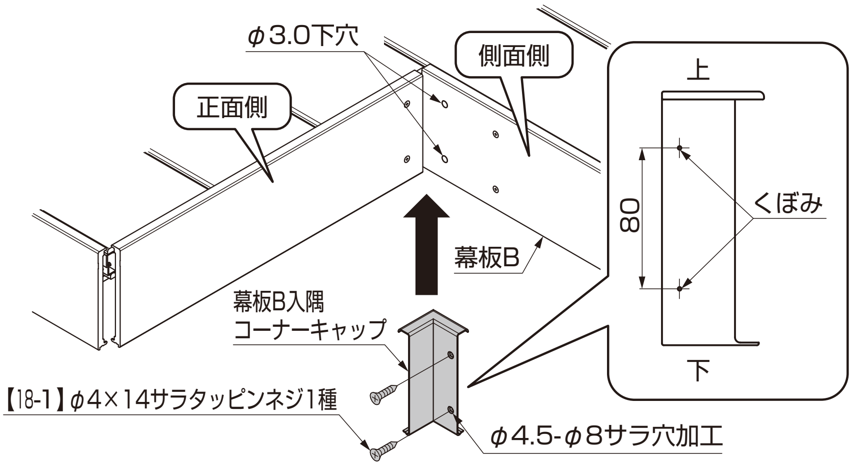
(1)幕板B90°コーナーキャップの場合



ポイント
●下穴を必ずあけてください。あけないと幕板が割れるおそれがあります。

①幕板B90°コーナーキャップを幕板Bコーナー部に当てて、幕板Bにφ3.0の下穴をあけてください。
②幕板B90°コーナーキャップを幕板Bに【18-1】で取付けてください。

(2)幕板B入隅コーナーキャップの場合

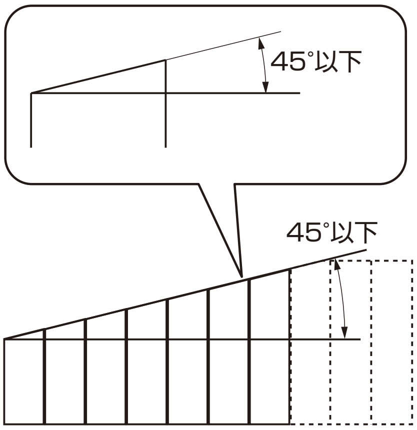


①床板側面側になるキャップ内側のくぼみ位置にφ4.5の穴を2ヶ所あけ、その穴に表面からφ8のサラ取り加工をしてください。
②幕板B入隅コーナーキャップを、コーナー部に当て、幕板Bにφ3.0の下穴をあけてください。
③幕板B入隅コーナーキャップを、【18-1】で取付けてください。

ポイント
●幕板B入隅コーナーキャップには上下があります。

7　隅切り施工　※幕板B オプション で隅切り施工をする場合の作業です。

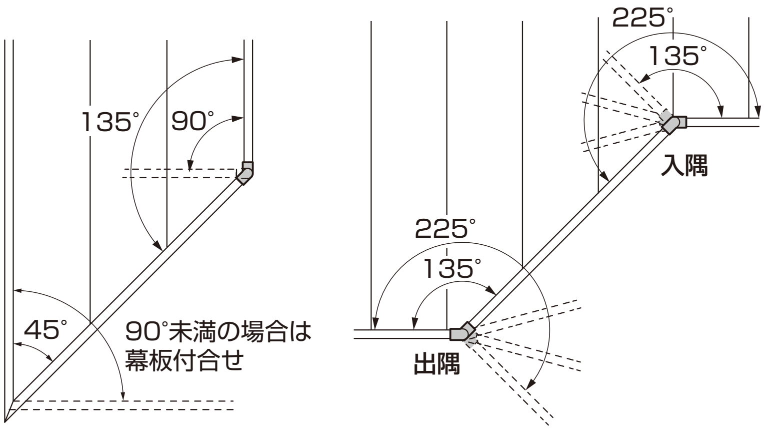
1. 隅切り角度とフリーコーナーキャップの対応角度



ポイント

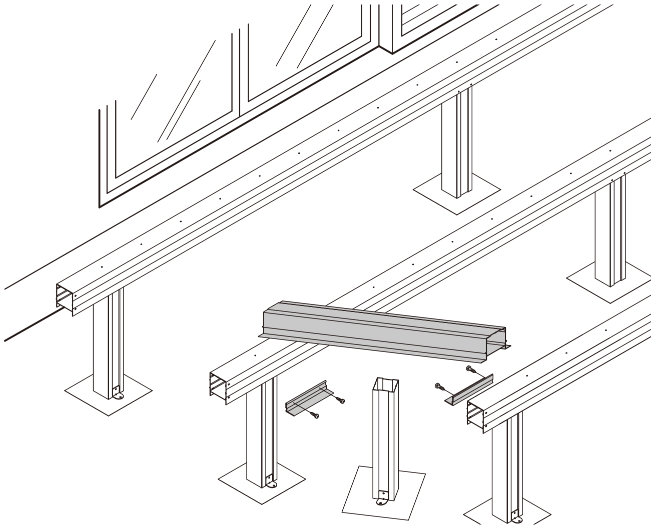
●隅切りは45°以下にしてください。

●フリーコーナーキャップの取付可能角度は135°～225°までです。



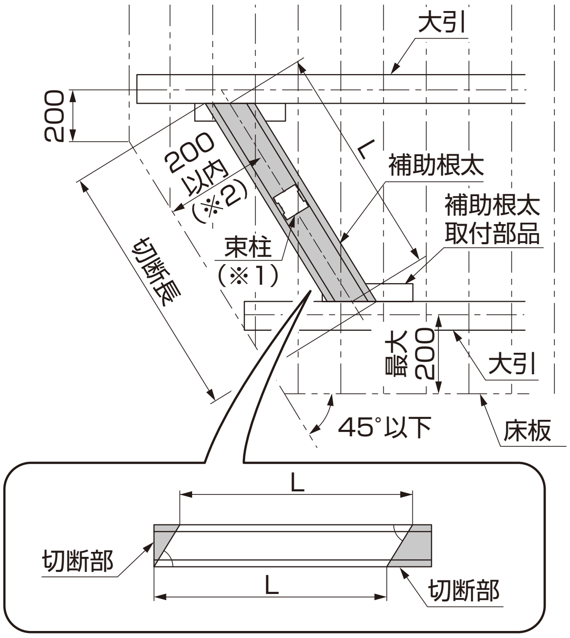
2. 補助根太の取付け

2-1　隅切り納まり



ポイント

●角度切りは45°以下にしてください。
●L寸法が800mm以上の場合は補助根太の中間部に束柱（※1）を設置してください。
●床板の張り出しは補助根太の芯から200mm以内にしてください。（※2）

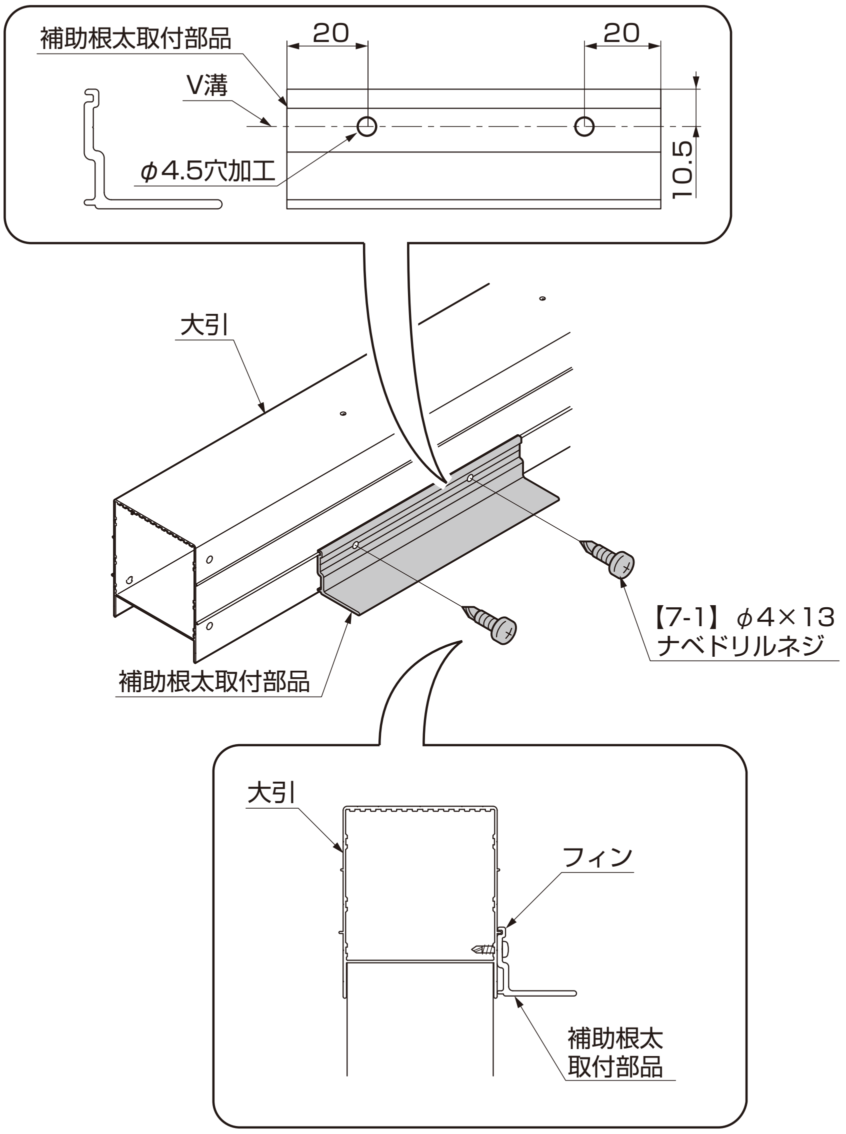


①L寸法を実測して、補助根太を切断してください。

E356_201712C

2.（つづき）

2-1 つづき

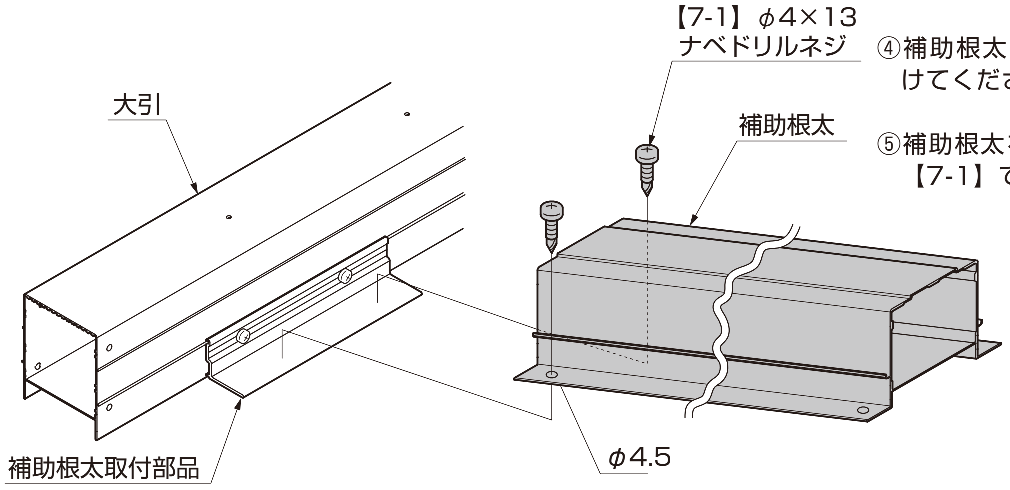


②補助根太取付部品にφ4.5の穴を開けてください。

③補助根太取付部品の上部を、大引のフィンにひっかけて【7-1】で取付けてください。

ポイント

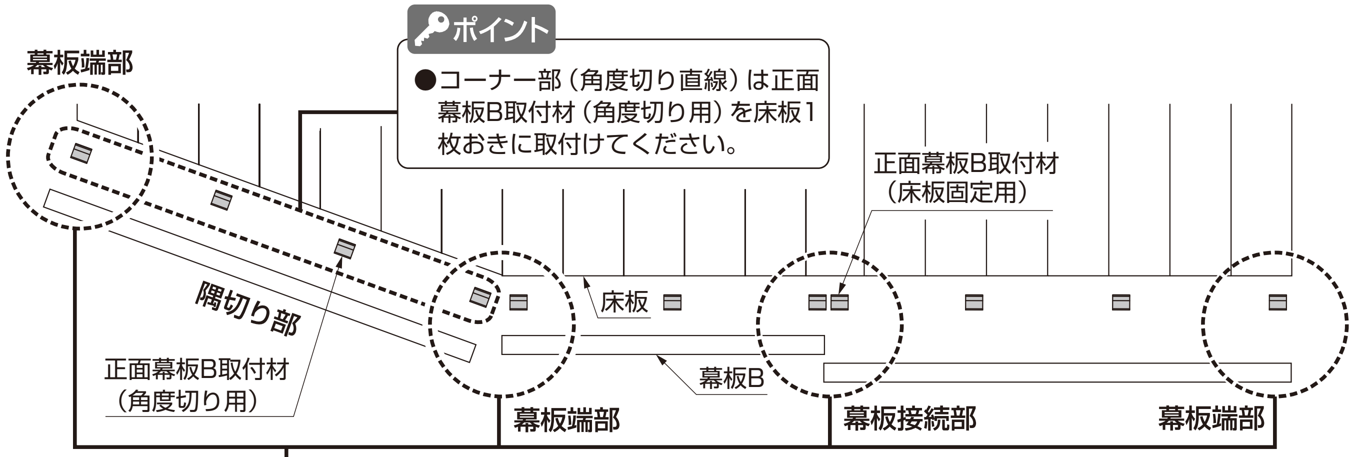
●L寸法が2000mm以上の場合は、補助根太の代わりに大引を使用し束柱を２本設置してください。



④補助根太に4ヶ所、φ4.5の穴をあけてください。

⑤補助根太を補助根太取付部品に、【7-1】で固定してください。

3. 正面幕板B取付材の取付け

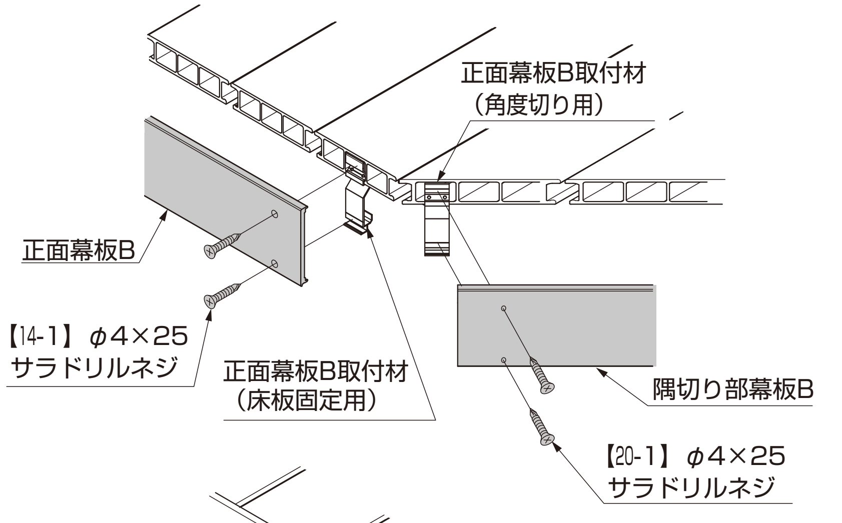


ポイント

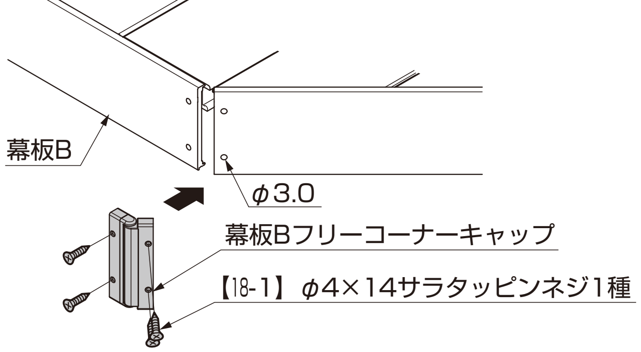
- ●正面幕板B取付材（床板固定用）および正面幕板B取付材（角度切り用）は、直線部・隅切り部の始まりと終り、および幕板連結部には必ず取付けてください。
- ●正面幕板B取付材の取付けピッチは540mm以内にしてください。
- ●連結部の正面幕板B取付材は、1枚の床板に2個取付けてください。
- ●正面幕板B取付材（床板固定用）幕板の取付け方法は「6 幕板Bの施工 3.幕板取付金具の取付け」を参照してください。

①正面幕板B取付材（床板固定用）および正面幕板B取付材（角度切り用）を取付ける位置を確認して、取付けてください。

4. フリーコーナーキャップの取付け



①正面幕板Bを正面幕板B取付材（床板固定用）に【14-1】で固定してください。
②隅切り部幕板Bを正面幕板B取付材（角度切り用）に【20-1】で固定してください。

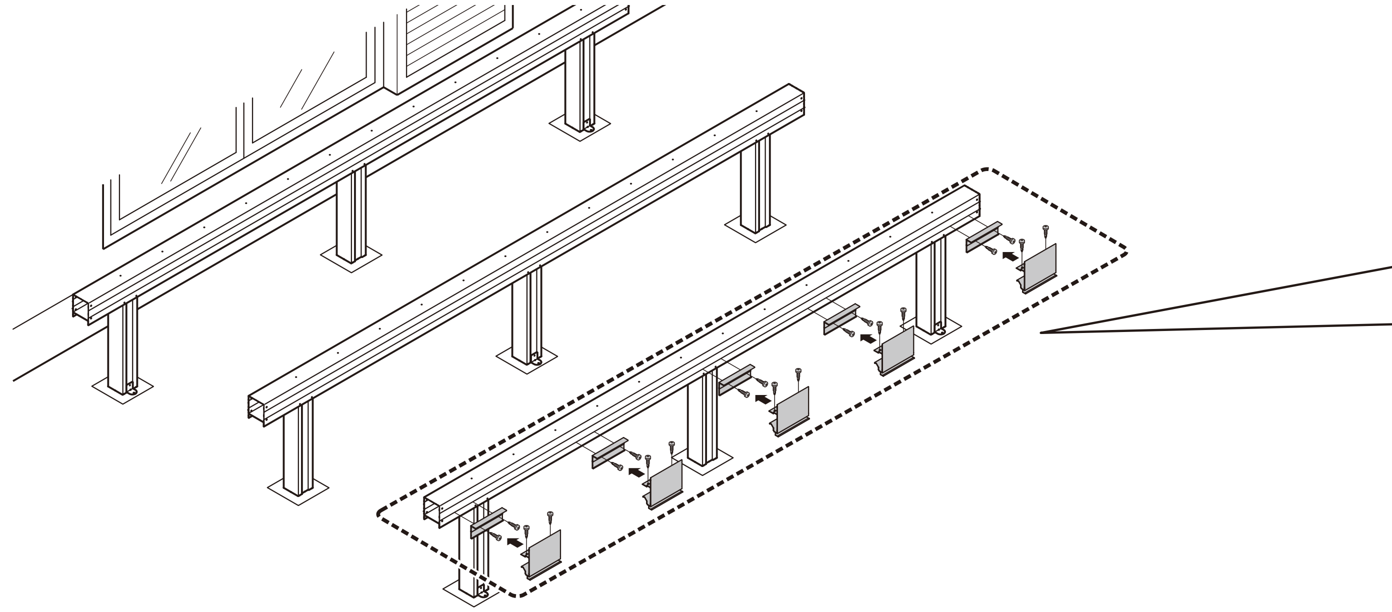


③幕板Bフリーコーナーキャップを幕板コーナー部に当てて、幕板Bにφ3.0の下穴をあけてください。

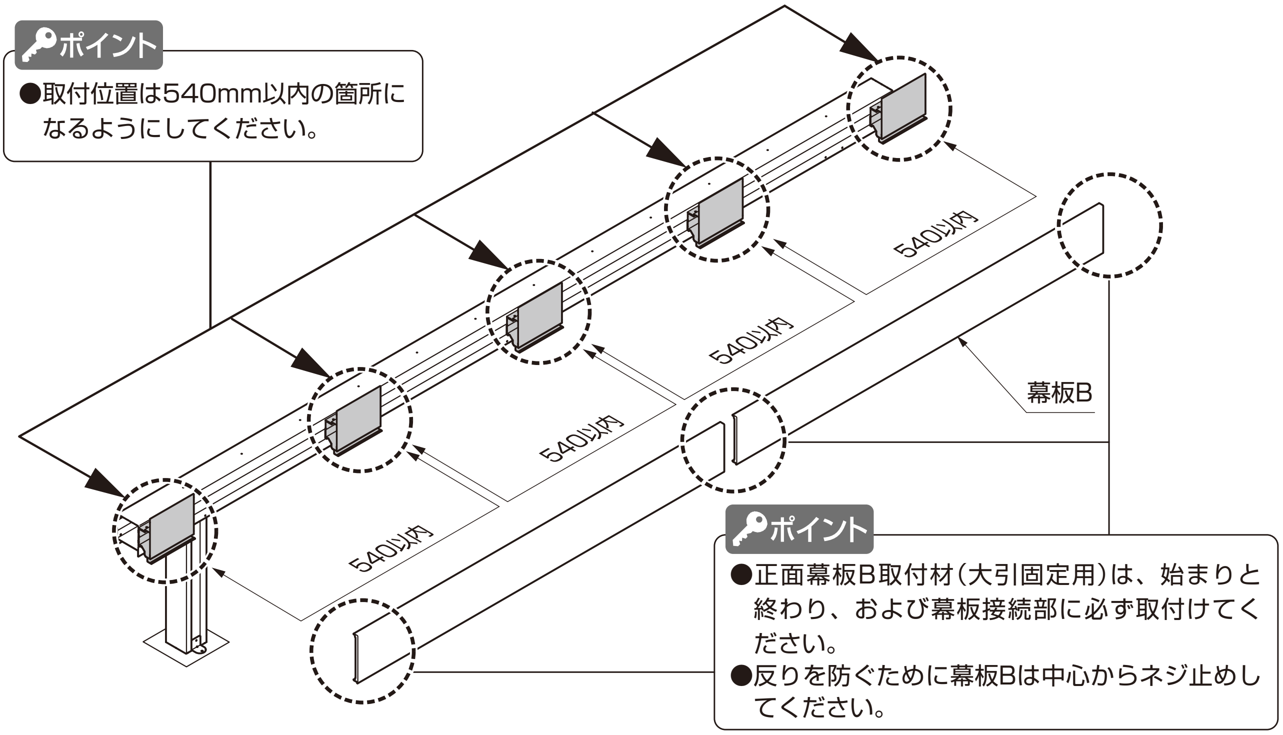
④幕板Bフリーコーナーキャップを幕板Bに【18-1】で取付けてください。

8　オプション

1. 正面幕板B取付材(大引固定用)の取付け オプション ※正面幕板Bを大引固定する場合の作業です。



1-1　正面幕板B取付材（大引固定用）の取付位置の確認

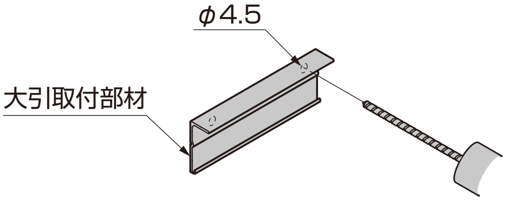


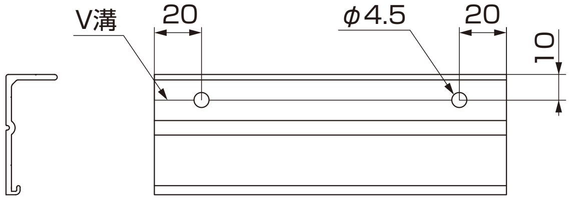
①図を参照して、正面幕板B取付材（大引固定用）を取付ける位置を確認してください。

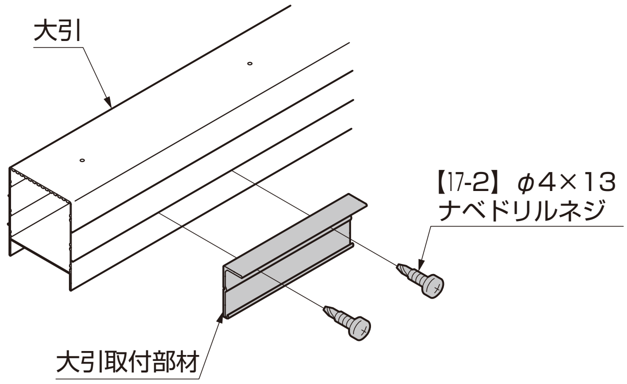
ポイント
●フェンスベースプレートの固定に正面幕板B取付材（大引固定用）を用いる場合は、各フェンスの取付説明書を参考に位置を確認してください。

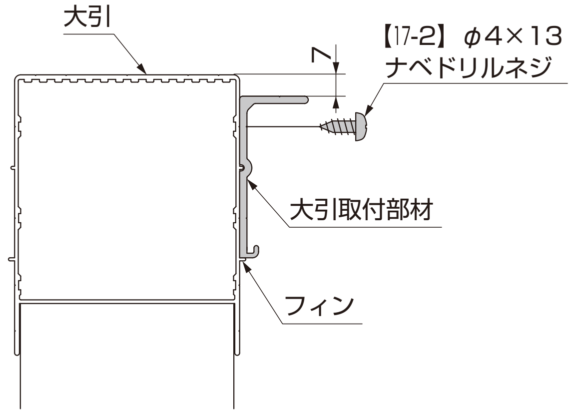
1-2　正面幕板取付材（大引固定用）の取付け

(1)大引取付部材の取付け



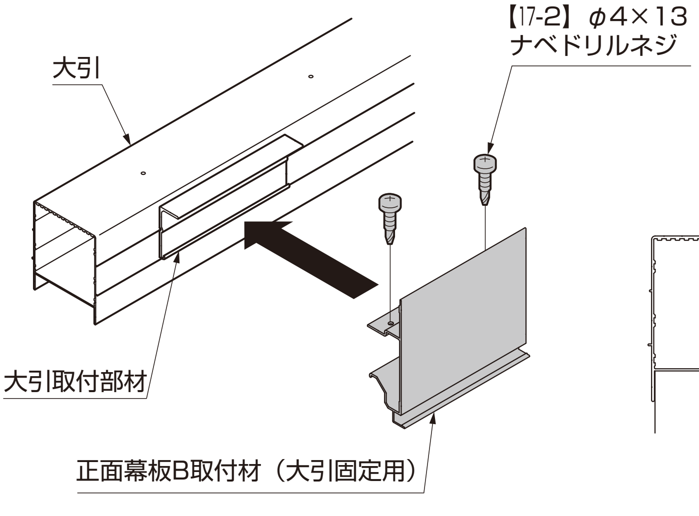


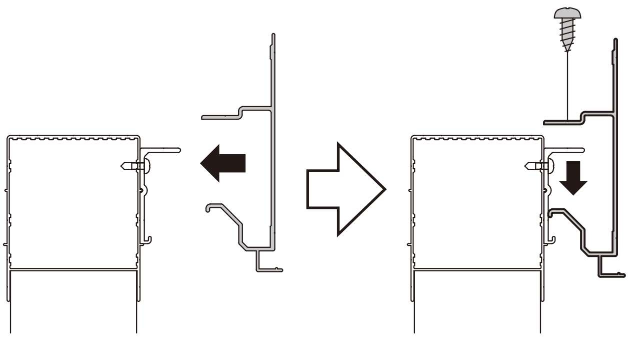




①大引取付部材にφ4.5の穴加工をしてください。
②大引取付部材を大引のフィンにあて【17-2】で取付てください。

(2)正面幕板B取付材（大引固定用）の取付け





①正面幕板B取付材（大引固定用）を大引取付部材のフィンに引っかけて【17-2】で固定してください。

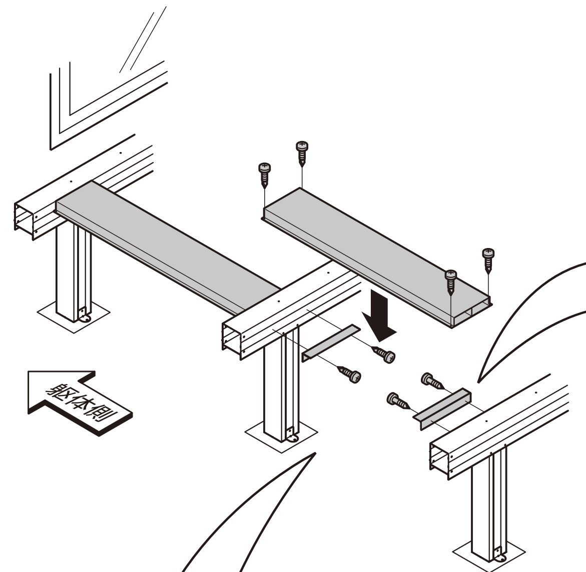
8
オプション

2. 床板補強材の取付け オプション

※「側面床板補強材固定」の場合の作業です。

ポイント

●取付けの範囲は、フェンスの取付け説明書を参照してください。



2-1 大引アングルの取付け

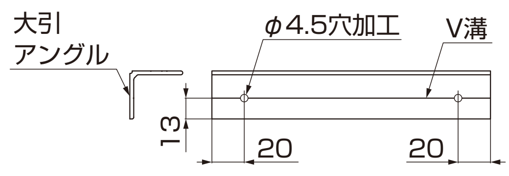
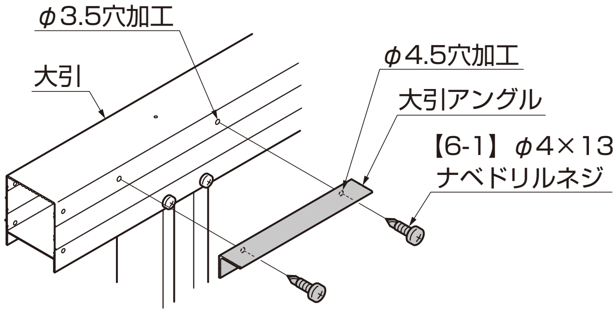
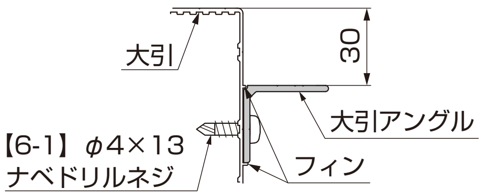


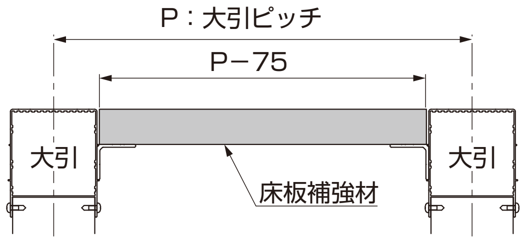
図2-1

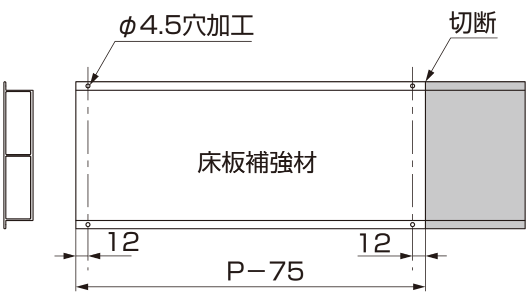




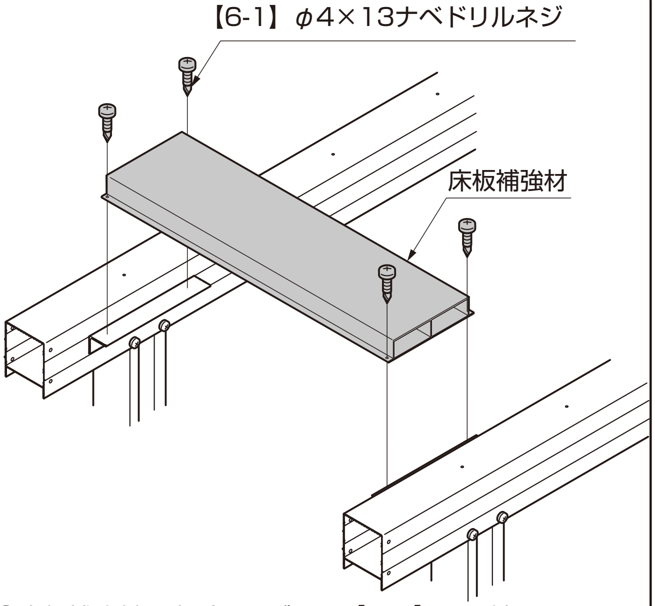
①大引アングルにφ4.5の穴加工をしてください。（図2-1参照）
②大引にφ3.5の穴加工をしてください。
③大引アングルを大引のフィンにあてて【6-1】で取付けてください。

2-2 床板補強材の取付け





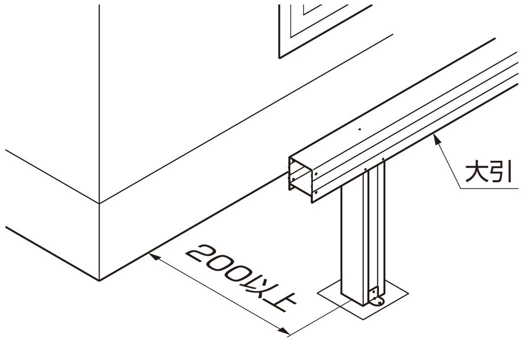
①床板補強材を加工してください。



①床板補強材を大引アングルに【6-1】で取付けてください。

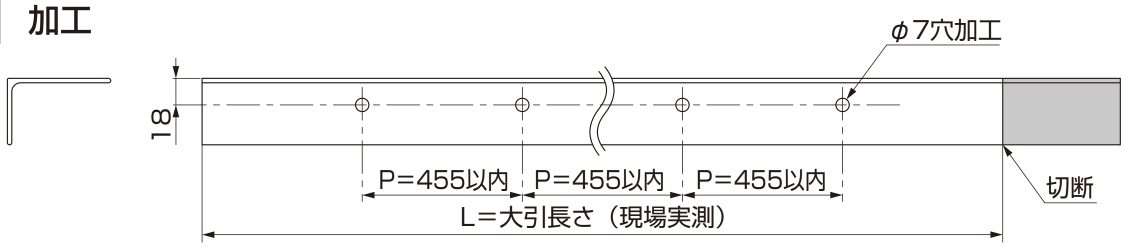
3. 躯体付けアングルの取付け オプション

ポイント



●躯体と大引との距離が200mm以上の場合、躯体取付けアングルを取付けてください。

3-1 加工



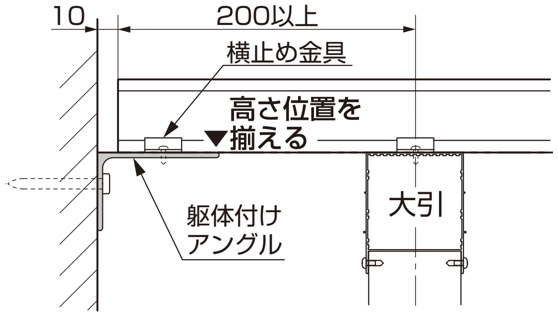
①躯体付けアングルを加工してください。

ポイント

●φ7穴加工は、躯体の構造材に合わせて加工してください。

3-2 取付け

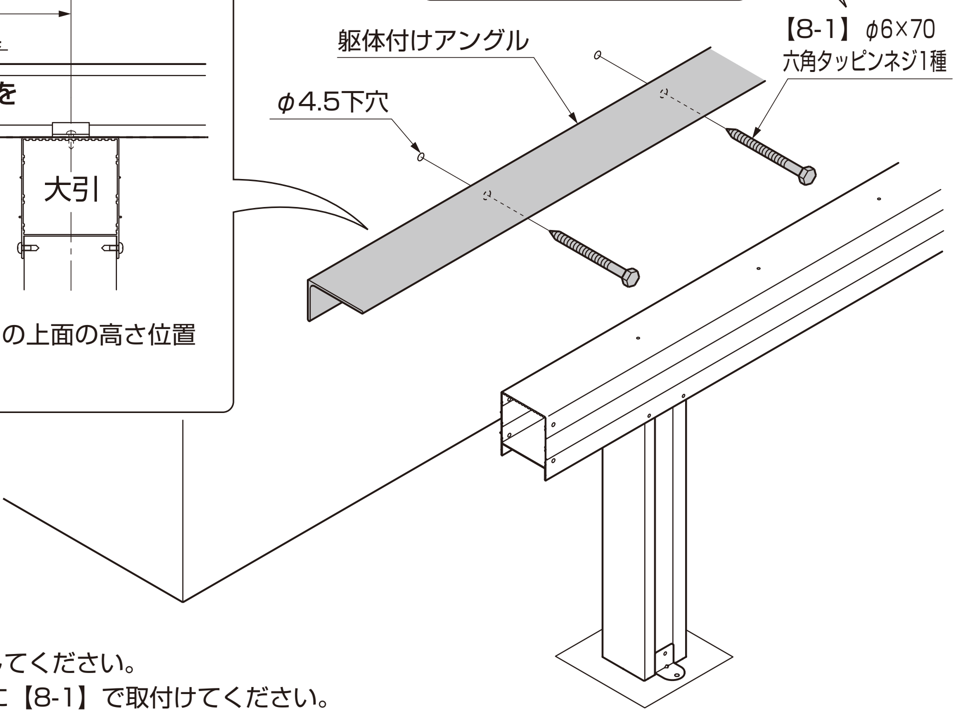
ポイント



●躯体付けアングル上面と大引の上面の高さ位置を揃えてください。

ポイント

●【8-1】は躯体の構造材に取付けてください。

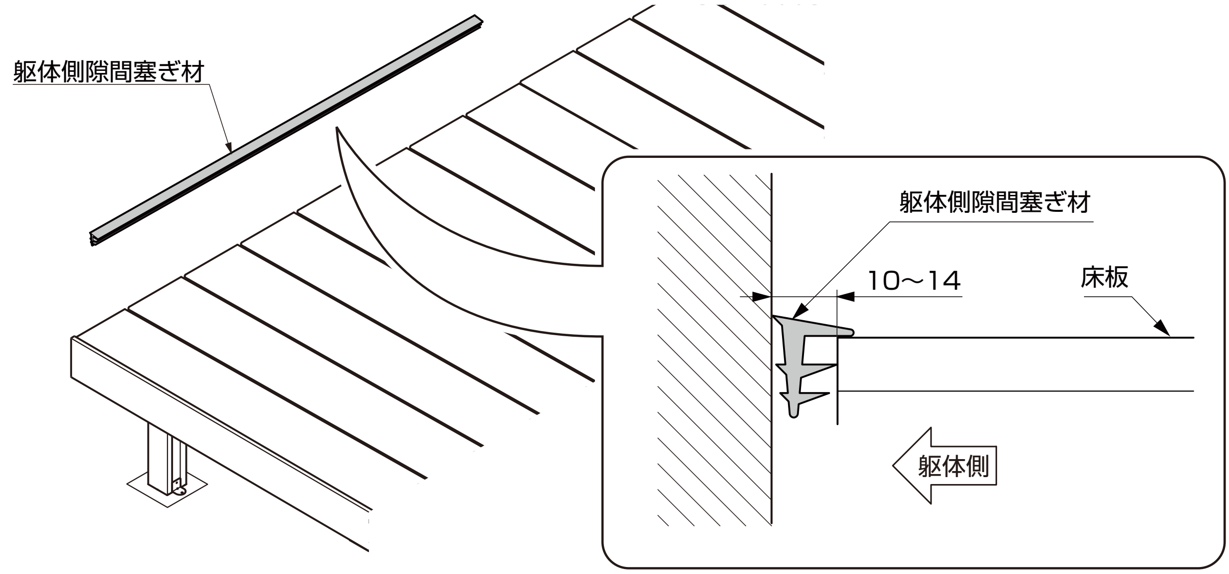


①躯体にφ4.5の穴加工をしてください。
②躯体付けアングルを躯体に【8-1】で取付けてください。
③横止め金具で床板を固定してください。

8 オプション

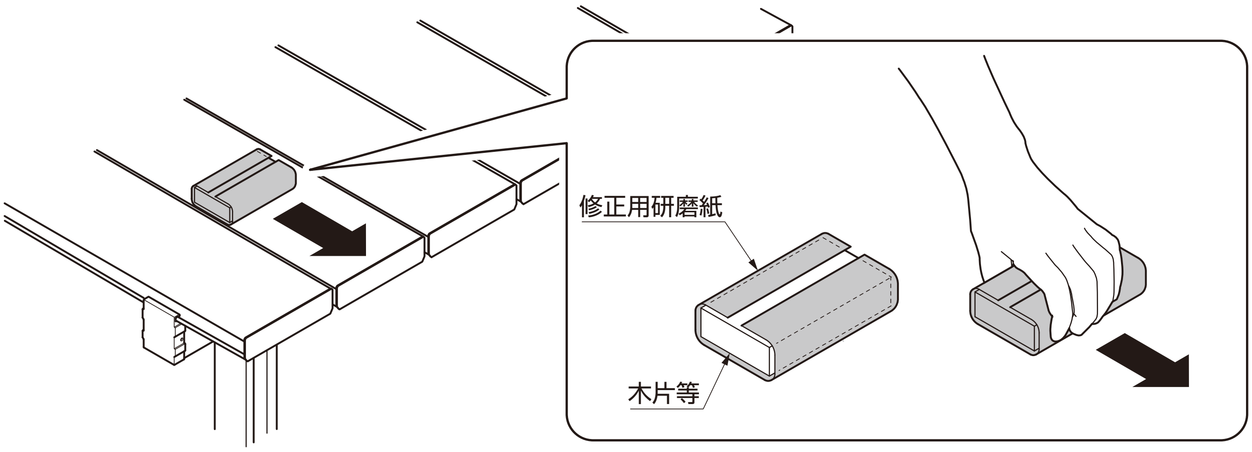
E356_201305A

4. 躯体側隙間塞ぎ材の取付け オプション



①床板と躯体の間に躯体側隙間塞ぎ材を押し込んで取付けてください。

9 補修



①施工後、表面に付いたすりキズは取付説明書に同梱している修正用研磨紙で補修してください。

ポイント

- ●強くこすりすぎないでください。下地が出てしまうおそれがあります。
- ●一定方向にこすってください。
- ●1ヶ所を集中的に擦るのではなく、全体をぼかす感じで磨いてください。
- ●平らな部材を修正用研磨紙の裏から補助的に添えて、研磨紙面をフラットに当てるようにしてください。

補 足

- ●市販の研磨紙を使用する場合は、80番の研磨紙を使用してください。

取説コード
E356

JZZ626041D
201305A_1039
202012E_1039